



トヨタ ウェルキャブシリーズ

車いす仕様車(スロープタイプⅠ・Ⅱ・Ⅲ)

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SIENTA



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 シート・室内装備

シート・室内装備に関する説明

3 車いすの車内外への
乗り降り

スロープを使用して車いすに乗ったままでの車内外への乗降、車いすの車内での固定・解除に関する説明

4 お手入れのしかた

ウェルキャブ装備のお手入れに関する説明

5 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

6 点検・整備項目

定期点検整備についての説明

さくいん

症状から検索

五十音で検索

イラスト目次	4
本書の見方	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全なドライブのために

車いすの車内外への乗降について.....	14
車いすの固定およびシートベルトの着用について.....	23
車両火災・故障・損傷を防ぐために.....	27

2 シート・室内装備

2-1. シート

専用助手席シート (タイプⅡ)	30
専用セカンドシート	36

2-2. 室内装備

ハンドグリップ	44
夜間照明灯	45
収納装備一覧	46

3 車いすの車内外への乗り降り

3-1. スロープを使用する前に

ご使用前に確認して いただきたいこと	50
作動条件の確認	59

3-2. 車いすの車内外への乗降・固定

操作の流れ： 2 列目位置への乗降・固定 (タイプⅠ／タイプⅡ)	61
操作の流れ： 2 列目位置への乗降・固定 (タイプⅢ)	68
操作の流れ： 1.5 列目位置への乗降・固定 (タイプⅡ)	80
車高調整および スロープの展開・格納 (タイプⅠ／タイプⅡ)	86
車高調整および スロープの展開・格納 (タイプⅢ)	103
車いすの車内外への 乗降・固定：2 列目位置 (タイプⅠ／タイプⅡ)	114
車いすの車内外への 乗降・固定：2 列目位置 (タイプⅢ)	140
車いすの車内外への 乗降・固定：1.5 列目位置 (タイプⅡ)	170
車いす用シートベルト	182
走行する前に (2 列目位置)	191

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

スロープの清掃	194
ベルトの清掃	196
車いす固定装置の清掃	197

4-2. 簡単な点検・部品交換

ガレージジャッキ	198
----------------	-----

5 万一の場合には

5-1. 故障かな？と

お考えになる前に

ヒューズの交換	202
車高降下装置が 作動しないときは	204
ワイヤレスリモコンの 電池交換 (電動ウインチ装着車)	205
補機バッテリーが あがったときは (ハイブリッド車)	208

5-2. 緊急時の対処法

セーフティベルトが 引き出せない・後退防止 作動しないときは (セーフティベルト装着車)	209
電動ウインチが作動 しないときは (電動ウインチ装着車)	211
車いす固定装置が 作動しないときは	214
けん引されるときは	215

6 点検・整備項目

6-1. 点検・整備項目

定期点検整備	218
--------------	-----

さくいん

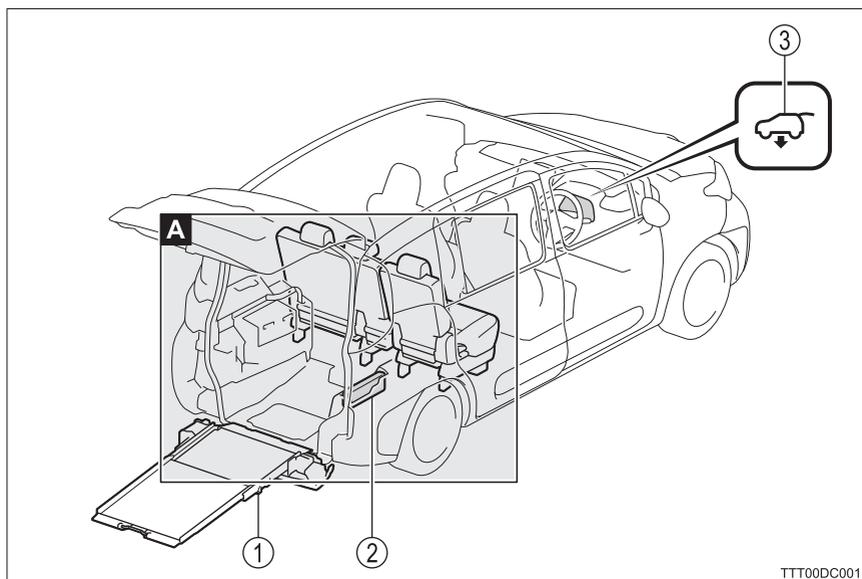
こんなときは (症状別さくいん)	224
五十音順さくいん	232

本書は車いす仕様車（スロープタイプ）の装備について記載しています。車両全体の取り扱い方法や注意事項などは、必ず別冊の標準車取扱書をお読みください。

ただし、ウェルキャブ装備により、お車と標準車取扱書の仕様や機能が一致しない場合がありますのでご了承ください。

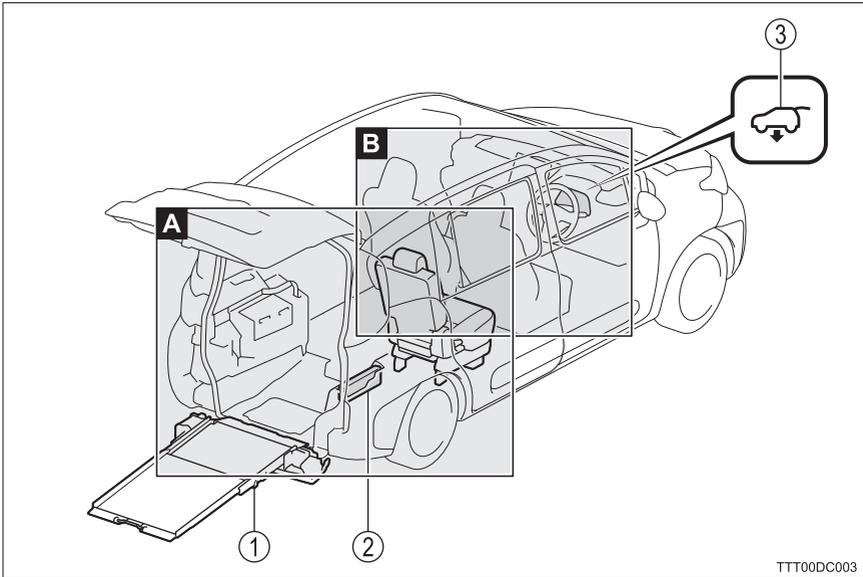
イラスト目次

■ タイプ I



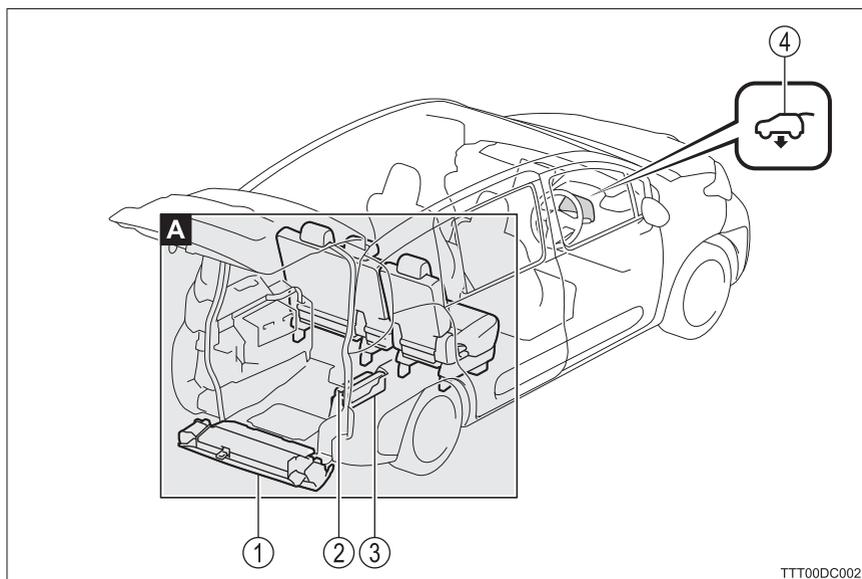
- | | | |
|----------|-------------|-------|
| ① | スロープ | |
| | 展開 | P.86 |
| | 格納 | P.88 |
| | 手動スロープ前倒れ機能 | P.90 |
| | 清掃 | P.194 |
| ② | 停止表示板収納スペース | P.47 |
| ③ | 車高調整インジケーター | P.92 |
| A | 車内中央～後部 | P.8 |

■ タイプⅡ



- ① スロープ
 - 展開 P.86
 - 格納 P.88
 - 手動スロープ前倒れ機能 P.90
 - 清掃 P.194
- ② 停止表示板収納スペース P.47
- ③ 車高調整インジケータ P.92
- A** 車内中央～後部 P.8
- B** 1.5列目位置 (タイプⅡ) P.10

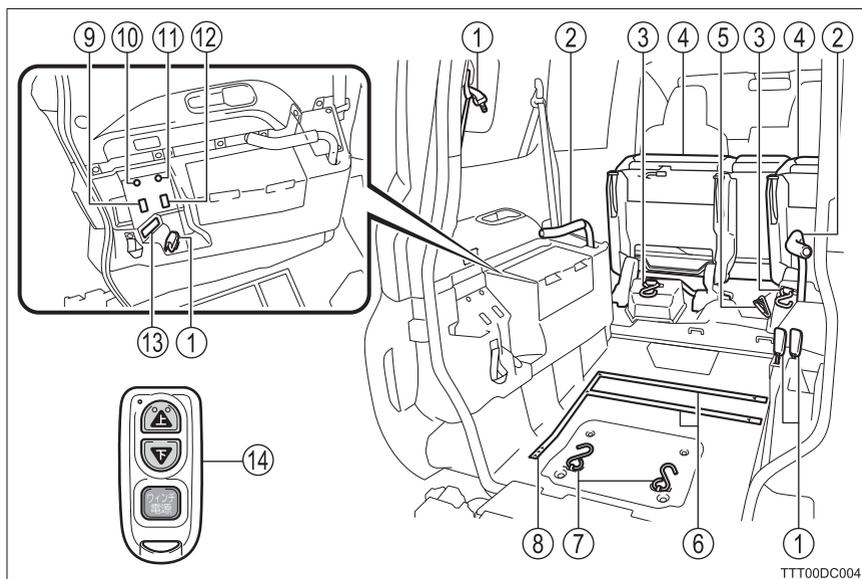
■ タイプⅢ



TTT00DC002

- | | | |
|----------|-------------------|-------|
| ① | スローブ | |
| | 展開 | P.103 |
| | 格納 | P.105 |
| | 清掃 | P.194 |
| ② | クローズユニット | P.105 |
| ③ | 停止表示板収納スペース | P.47 |
| ④ | 車高調整インジケータ | P.107 |
| A | 車内中央～後部 | P.8 |

A 車内中央～後部



イラストはタイプ I “助手席側セカンドシート付”

- | | |
|--------------------|------------|
| ① 車いす用シートベルト（2列目用） | P.182 |
| 着用 | P.183 |
| はずし方 | P.188 |
| 清掃 | P.196 |
| ② ハンドグリップ | P.44 |
| ③ セーフティベルト★ | |
| 車いすの車内への乗り入れ | P.116, 144 |
| 車いすの車外への降車 | P.125, 155 |
| 作動条件 | P.59 |
| 清掃 | P.196 |
| 作動しないときは | P.209 |
| 電動ウインチ★ | |
| 車いすの車内への乗り入れ | P.116, 149 |
| 車いすの車外への降車 | P.125, 157 |
| 作動条件 | P.59 |
| 清掃 | P.196 |
| 作動しないときは | P.209 |

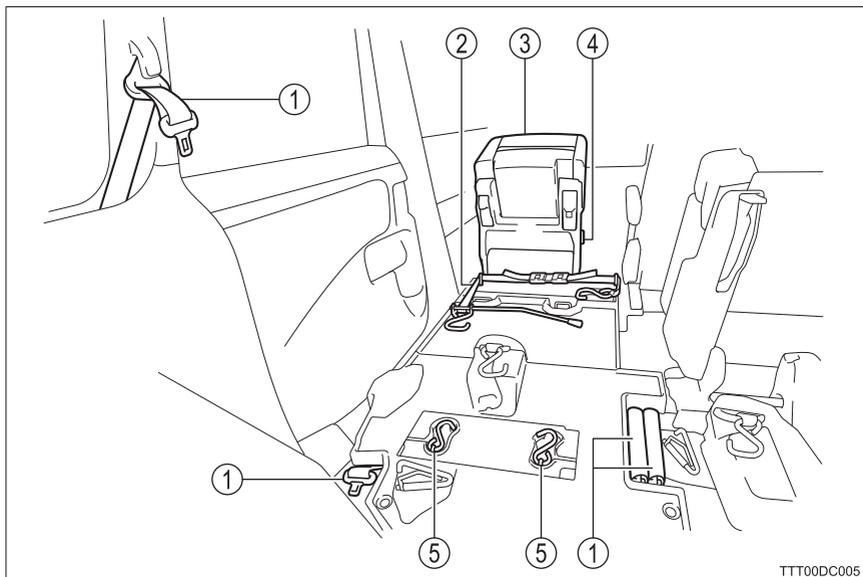
- ④ 専用セカンドシート※¹
- 調整 P.36
 - 折りたたみ P.37
 - ISOFIX ロアアンカレッジ P.41
 - トップテザーアンカレッジ P.41
- ⑤ ベルトガイド P.118, 141
- ⑥ 車いす固定目安線 P.23
- ⑦ 車いす固定装置
- 作動条件 P.59
 - 車いすの固定 P.123, 145, 153
 - 車いすの固定解除 P.125, 155, 157
 - 清掃 P.197
 - 作動しないときは P.214
- ⑧ 車いす誘導線 P.23
- ⑨ 車高切替スイッチ
- 作動条件 P.59
 - 車高降下 P.86, 103
 - 車高復帰 P.88, 105
 - 作動しないときは P.204
- ⑩ 車高降下装置異常ランプ P.94, 109
- ⑪ 固定・解除スイッチインジケータ P.116, 145, 149
- ⑫ 固定・解除スイッチ P.128, 161
- ⑬ 夜間照明灯 P.45
- ⑭ ワイヤレスリモコン※²
- 車内への乗り入れ P.122, 151
 - 車外への降車 P.126, 158
 - 電池交換 P.205

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹：タイプⅠ“助手席側セカンドシート付”／タイプⅢ“ショートスロープ・助手席側セカンドシート付”は運転席側・助手席側セカンドシートが装備されます。
タイプⅠ“助手席側セカンドシート無”／タイプⅡ／タイプⅢ“ショートスロープ・助手席側セカンドシート無”は運転席側セカンドシートのみ装備されます。

※²：電動ウインチ装着車に装備されます。

B 1.5 列目位置 (タイプII)



TTT00DC005

- | | |
|-------------------------------|-------|
| ① 車いす用シートベルト (1.5 列目用) | P.182 |
| 着用 | P.186 |
| はずし方 | P.189 |
| 清掃 | P.196 |
| ② フロント固定ベルト (1.5 列目用) | |
| 長さ調整 | P.170 |
| サポートバー | P.170 |
| 車いすの固定 | P.172 |
| 車いすの固定解除 | P.175 |
| 清掃 | P.196 |
| ③ 専用助手席シート | |
| 調整 | P.30 |
| 折りたたみ | P.31 |
| ④ 車いす固定装置スイッチ (1.5 列目用) | P.174 |
| 作動条件 | P.59 |
| 作動しないときは | P.214 |

⑤ 車いす固定装置（1.5 列目用）

作動条件	P.59
車いすの固定	P.172
車いすの固定解除	P.175
清掃	P.196
作動しないときは	P.214

本書の見方



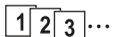
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



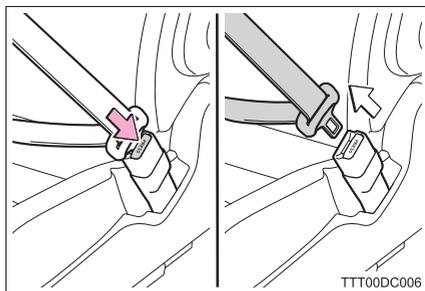
注意

お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

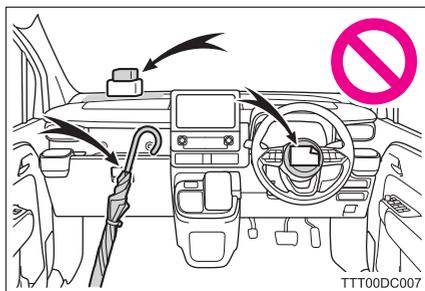
- ➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
- ⇒ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



TTT00DC006

- 説明の対象となるもの・場所を示しています。

- ⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



TTT00DC007



知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

■ 車いすについて

本書では車いすについて、次のように定義しています。

普通車いす	リクライニング機構付車いす	小児用車いす
背もたれ角度調整不可の汎用車いす	背もたれ角度調整可能な車いす	お子さま用車いす

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全なドライブのために

車いすの車内外への 乗降について.....	14
車いすの固定およびシート ベルトの着用について.....	23
車両火災・故障・損傷を 防ぐために.....	27

車いすの車内外への乗降について

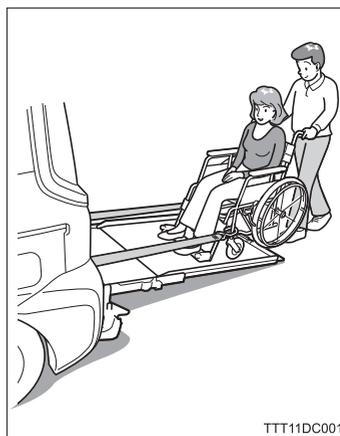
- 本書における車いす仕様車（スロープタイプⅠ・Ⅱ・Ⅲ）の操作はすべて介助の方が行ってください。
- この項目では、スロープを使用しての車内外への乗降について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

警告

■車いす仕様車（スロープタイプ）の操作をするときは

操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。

- 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 急に車いすの乗降を行うと、車いすが転倒するおそれがあります。（車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください）
- 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まれないように注意してください。

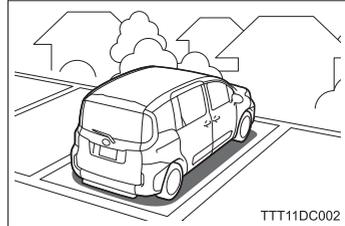
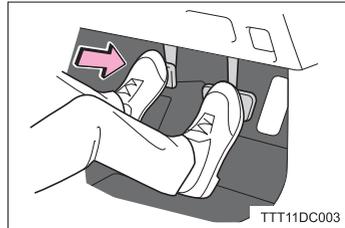
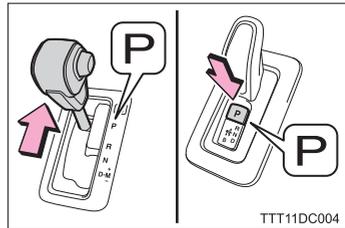


TTT11DC001

警告**■ 操作および車いすを乗降するときは**

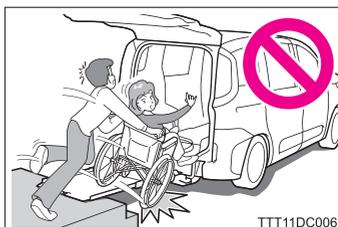
安全で平坦な場所に駐車してください。

交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。

● 平坦な場所で操作**● パーキングブレーキを確実にかける****● シフトレバー／シフトポジションをPの位置にする**

警告

- エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉で使用してください。
 - ・ エンジン〈ハイブリッドシステム〉停止状態ではバッテリーあがりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあります。
 - ・ エンジン〈ハイブリッドシステム〉停止状態では車高降下装置は作動しません。
- 乗降するときはヘッドランプを点灯および非常点滅灯を点滅させ、周囲へ注意をうながしてください。
- 階段や段差を利用して車いすの乗り入れをしないでください。
段差を利用すると車いすがスロープから転落したり、スロープが段差からはずれて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 可燃物付近に駐車しないでください。
車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災になるおそれがあり危険です。
スロープ使用時、車高降下により排気管の位置が大きく下がりますので、特にご注意ください。
- 悪天候時、スロープを使用するときは、すべりやすくなりますのでご注意ください。
風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。



警告

- 強風時、バックドアが閉まることがあります。
バックドアが頭にあたるおそれがありますので、注意してください。

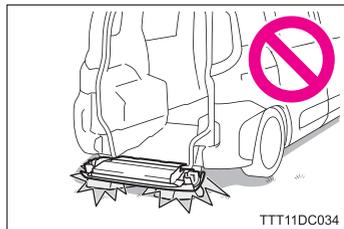


車高を下げる前に

- 車両周辺・下側、バックドア下側や後輪付近に人や突起物などがいないことを確認してください。
車両後部の車高が下がるため（バックドアも車高に合わせて下がります）、頭を打ったり、手足を挟むなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
車両を損傷するおそれもあります。
また、バックドア連動モード時は、特にご注意ください。
バックドアを開けると自動で車高が降下し、車両と突起物があたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- タイプⅢは、バックドアを開くと同時にスロープが展開されるため、車両と突起物があたるおそれがあり、特に注意してください。



- 車高調整および助手席ターンチルトシートを同時に作動させないでください。（助手席ターンチルトシート装着車）
車両後部の車高が下がるため、助手席ターンチルトシートから転落するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

不測の事態により車高降下を途中でやめたいときは

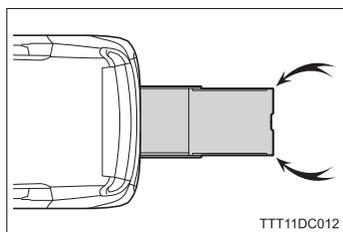
車高降下装置の作動途中で、車高切替スイッチの「上」を押すと、ただちに車高降下が停止し、復帰（上昇）します。

警告

■ スロープに車いすを乗降するときは

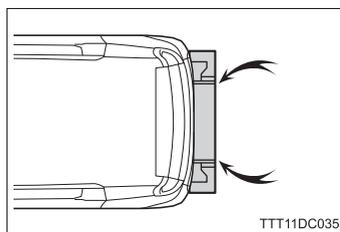
- スロープに乗降するときは、足元および車いすの車輪がスロープ端部より出ないように注意してください。
スロープ端部より出ると、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▶ タイプ I・II



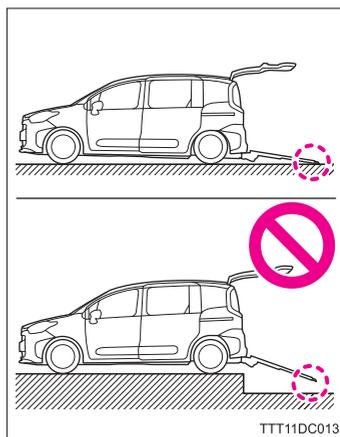
TTT11DC012

▶ タイプ III



TTT11DC035

- 車高降下装置による車高降下およびスロープ展開完了後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。(タイプ I / タイプ II)
段差やスロープ下部にもものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。

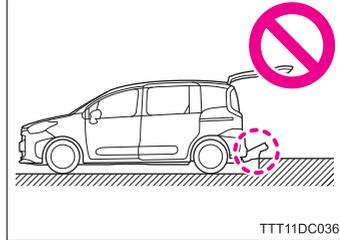
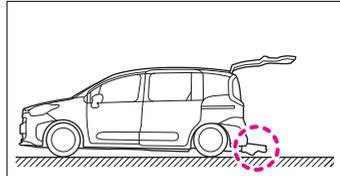


TTT11DC013

警告

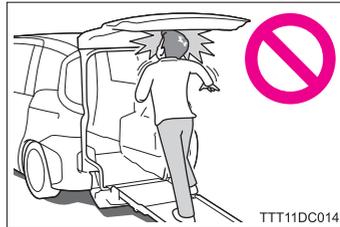
- 車高降下装置による車高降下およびスロープ展開完了後、スロープが地面や突起物に接触していないことを確認してください。(タイプⅢ)

段差やスロープ下部にもものがあたるなどにより、スロープの展開が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車両が破損するおそれもあります。



TTT11DC036

- 頭上の安全を確認しながらゆっくり乗り入れ、頭をバックドアやドア開口部にあてないように注意してください。(→ P.134, 165, 179)



TTT11DC014

頭をオープンフックにあてないように特に注意してください。(タイプⅢ)

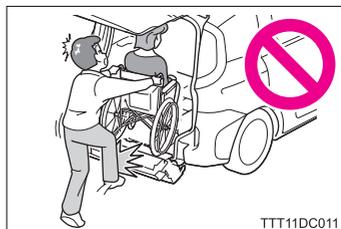


TTT11DC037

- オープンフックを持ってバックドアを閉めないでください。(タイプⅢ)

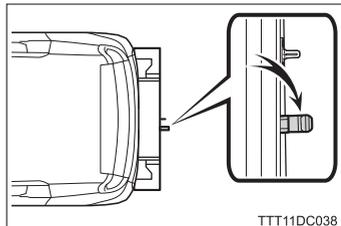
警告

- 足元の安全を確認しながらゆっくり乗降し、足をスロープにあてないように注意してください。(タイプⅢ)



TTT11DC011

- スロープ展開時にオープンレバーがスロープより出ています。オープンレバーを踏んだり、足をあてないように注意してください。(タイプⅢ)

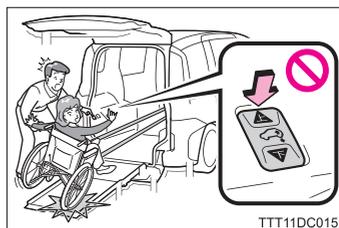


TTT11DC038

- 不要なスイッチ類の操作およびシフトレバー／シフトポジションを操作しないでください。
装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

▶ 車高切替スイッチ

車高切替スイッチの「上」を押すと、車高が復帰するため、スロープの角度が変わります。



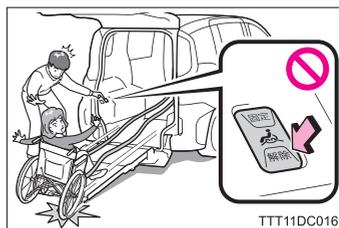
TTT11DC015

▶ 車高自動復帰

車高降下中、または車高降下完了後にシフトレバー／シフトポジションをP以外の位置にした場合車高が自動復帰するため、スロープの角度が変わります。

▶ 固定・解除スイッチ

固定・解除スイッチ「解除」を押すと、後退防止作動が解除されます。



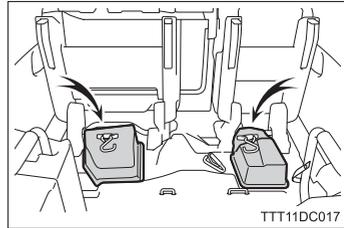
TTT11DC016

警告

■ 車内を移動するときは

足元に注意してください。

セーフティベルト★または電動ウインチ★のカバーが出っ張っているため、車内を移動するときにつまずいて転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。(イラストはタイプ I “助手席側セカンドシート付”)



TTT11DC017

■ ベルトガイドについて (2 列目位置乗車時)

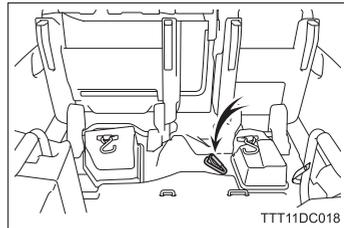
- 車いすを 2 列目位置に乗り入れるときは、乗り入れる車いすの種類および運転席側セカンドシートの状態に合った位置のベルトガイドを使用してください。(→ P.118, 141)

誤った位置のベルトガイドを使用すると、車いす前側の十分な固定力が確保できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ベルトガイドを使用しないときは、ベルトガイドを必ず車両後方に倒してください。

ベルトガイドを立てたままにしておくと、車内を移動するときにつまずいて転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

(イラストはタイプ I “助手席側セカンドシート付”)



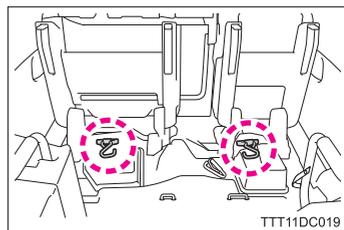
TTT11DC018

■ 電動ウインチを使用するときは (電動ウインチ装着車)

電動ウインチ作動時、ベルトやベルト巻き取り部にふれないでください。

ベルトの巻き取り不良やベルト巻き取り部に手などを巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

○：ベルト巻き取り部



TTT11DC019

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■助手席側スライドドアを開けて車内外に乗降するときは

足元に注意してください。
ステップの端に足をのせると、足を踏みはずし、転倒したり車両から転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■車内後部のカバーについて

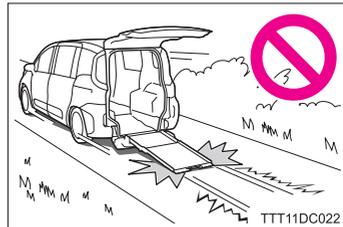
車内後部のカバーの上に乗ったり、座ったりしないでください。

- カバーから転落してけがをするおそれがあります。
- カバーの中には装置の作動をコントロールする機器が設けてあります。過度な力が加わるとカバーの破損や機器の故障の原因になります。



■走行するときは

- スロープを展開したまま車を移動させないでください。
スロープを展開したまま車を移動させると、スロープの損傷やスロープおよびバックドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- バックドア連動車高切替モード時にバックドアを半ドアのまま移動させないでください。
半ドアのままでは、自動で車高が復帰しません。車両後部の車高が下がっているため、車両と突起物があたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車いすの固定およびシートベルトの着用について

車内に乗車後の車いすの固定およびシートベルトの着用について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

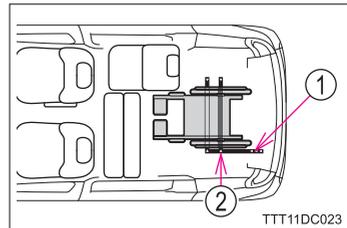
知識

■ 車いすの停止位置について

▶ 2列目位置：普通車いす（→ P.12）

- ① 左右位置：床面の車いす誘導線に車いす左後輪を合わせる
- ② 前後位置：車いす固定目安線（後）と車いすの後輪中央が合う位置に停止させる

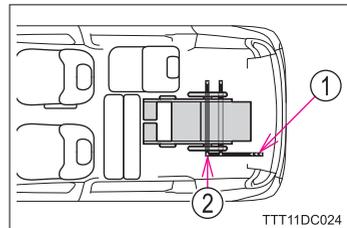
車いすの車内への乗り入れ方
（→ P.116, 144, 149）



▶ 2列目位置：リクライニング機構付車いす（→ P.12）

- ① 左右位置：床面の車いす誘導線に車いす左後輪を合わせる
- ② 前後位置：車いす固定目安線（前）と車いすの後輪中央が合う位置に停止させる

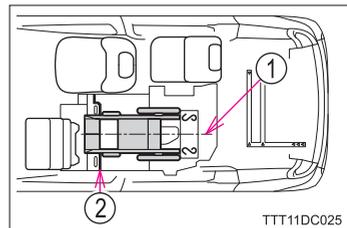
車いすの車内への乗り入れ方
（→ P.116, 144, 149）



▶ 1.5列目位置（タイプⅡ）

- ① 左右位置：車いす固定装置と車いすの中央付近を合わせる
- ② 前後位置：車いすの前輪が専用助手席シートの床面ロック手前の車止めにあたる位置に停止させる

車いすの車内への乗り入れ方（→ P.171）



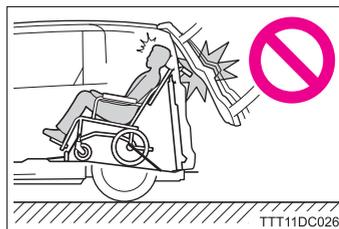
警告**■ 走行前の車いす固定状態の確認**

走行前に車いすが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中に車いすが動きだし、転倒したり車いすが損傷するなど重大な事故につながるおそれがあり危険です。

- セーフティベルト★の固定状態を確認するときは、ベルトを強く引っ張り、ベルトが確実に巻き締まっていることを確認してください。
- 電動ウインチ★のベルトの固定状態を確認するときは、ベルトを強く引っ張り、ベルトに確実に張力がかかっていることを確認してください。
- 車いす固定装置での車いすの固定状態を確認するときは、車いすを前後にゆすり、ベルトおよびワイヤーにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。(→ P.124, 147, 154)

■ バックドアを閉めるときは：2列目位置乗り入れ時

- スロープ格納時、固定した車いすとスロープがあたらないことを確認してください。(タイプⅠ/タイプⅡ)
スロープを完全に格納することができないため、そのままバックドアを閉めると、スロープとバックドアが破損するおそれがあります。



- バックドアが車いす乗車の方および車いすにあたらないことを確認しながら、ゆっくり閉めてください。
バックドアが車いす乗車の方の頭にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、車いすおよびバックドアが破損するおそれもあります。

■ 車いすのタイヤ空気圧について

車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

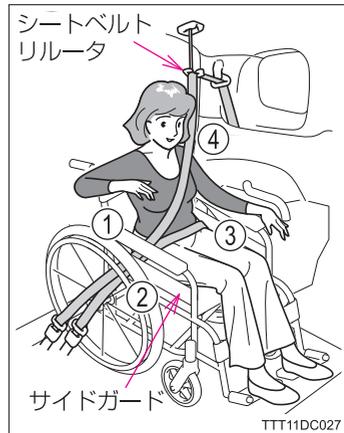
警告

■ 車いす乗車の方のシートベルト着用確認

走行中は必ずシートベルトを正しく着用してください。
正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▶ 2列目位置

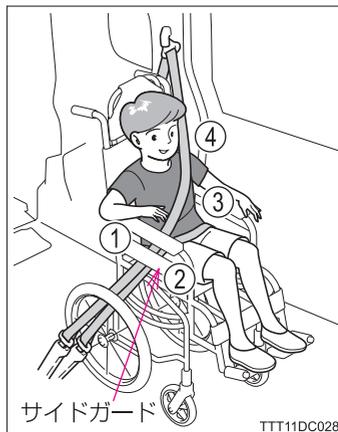
- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下とスポークのあいだを通す
サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
腰部ベルトがねじれがないようにしてください。
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
・ 首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。(このようなときは、シートベルトリルータを使用してください→ P.184)
・ 肩部ベルトがねじれがないようにしてください。



警告

▶ 1.5 列目位置 (タイプⅡ)

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② アームレストの下とスポークのあいだを通す
サイドガードの下にスペースがある車いすをご使用の場合、サイドガードの下を通してください。
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
腰部ベルトがねじれがないようにしてください。
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
・首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
・肩部ベルトがねじれがないようにしてください。



車両火災・故障・損傷を防ぐために

車両火災・故障・損傷を防ぐために、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

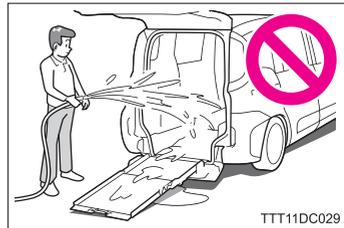
警告

■清掃するときは

車内を水洗いしないでください。
電気部品に水がかかると、故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあります。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

お手入れ、清掃のしかたは、装置により異なります。「4-1. お手入れのしかた」(→P.194)を参照し、正しく手入れ、清掃をしてください。



注意

■スロープについて (タイプⅠ / タイプⅡ)

スロープの耐荷重は 200kg です。

- スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。
- スロープは車いすの乗り降り専用です。荷物を載せたり耐荷重をこえるとスロープが損傷したり、セーフティベルト★または電動ウインチ★が故障するおそれがあります。



■スロープについて (タイプⅢ)

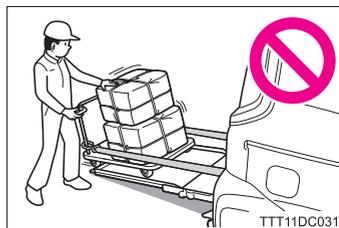
スロープの耐荷重は 200kg です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

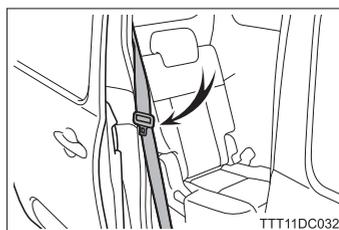
■ セーフティベルト★または電動ウインチ★を使用するときは

セーフティベルト★または電動ウインチ★を使用して、車いす以外のものを車内外に出し入れしないでください。
セーフティベルト★の後退防止機構または電動ウインチ★が故障したり、ベルトが切れるおそれがあります。



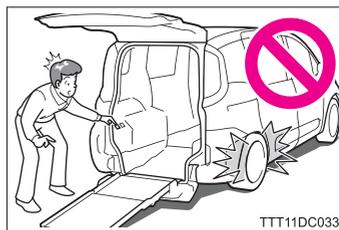
■ 運転席側セカンドシートに乗車するときは

スライドドアを閉める前に、シートベルトのプレートが車内に収まっていることを確認してください。
シートベルトのプレートが車外に出た状態でスライドドアを閉めると、シートベルトのプレートをスライドドアに挟み、シートベルトおよびスライドドアを破損するおそれがあります。



■ タイヤ交換をするときは

装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。



シート・室内装備

2

2-1. シート

専用助手席シート （タイプⅡ）	30
専用セカンドシート	36

2-2. 室内装備

ハンドグリップ	44
夜間照明灯	45
収納装備一覧	46

専用助手席シート (タイプII)

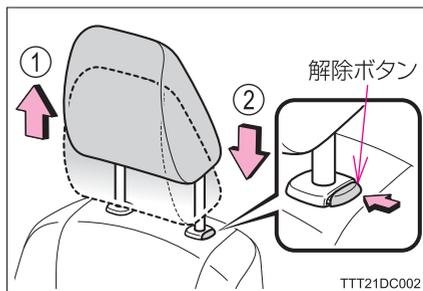
シートの調整



- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整

ヘッドレストの調整

- ① 上げる
 - ② 下げる
- 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

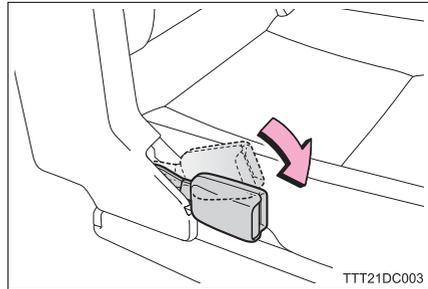


専用助手席シートの折りたたみ

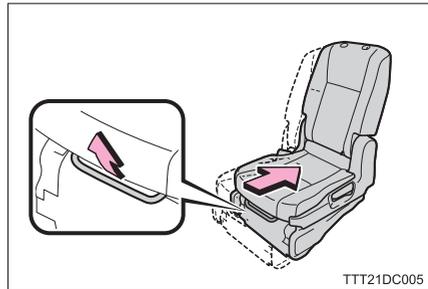
車いすを 1.5 列目位置まで乗り入れ・固定するときは、専用助手席シートを前方に折りたたみます。

■ 折りたたみ方

- 1 車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P の位置にする
- 2 シートベルトバックルを格納する

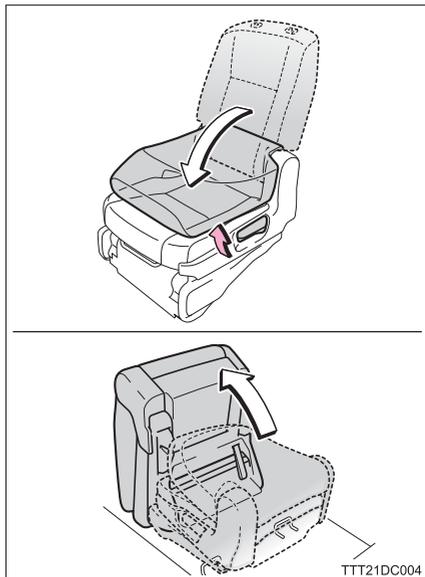


- 3 専用助手席シートのヘッドレストを取りはずす (→ P.33)
- 4 スライドレバーを引いたまま、専用助手席シートをいちばんうしろまで移動させる
“カチッ” と音がするまで移動させます。



5 リクライニングレバーを引く

- ・ 背もたれが前方に倒れ、シートが起き上がります。
- ・ “カチッ” と音がする位置まで引き起こして固定します。

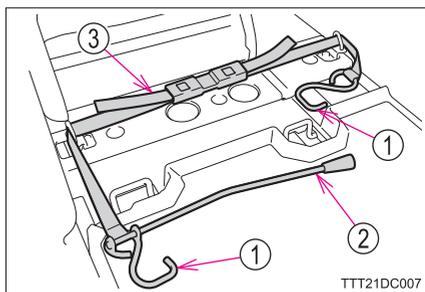


6 専用助手席シートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する

■ もどし方

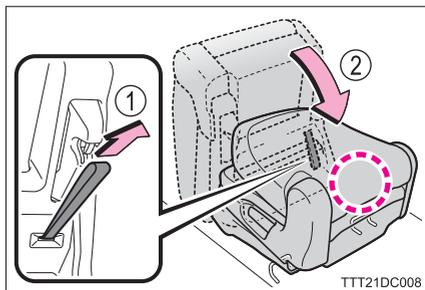
1 前輪固定フック、サポートバーおよびフロント固定ベルトを床面の格納部に格納する

- ① 前輪固定フック
- ② サポートバー
- ③ フロント固定ベルト



2 専用助手席シート全体を床面にロックさせる

- ① ストラップを引いてロックを解除する
- ② 〇部を目安に持って、専用助手席シートを押し下げ、床面にロックさせる

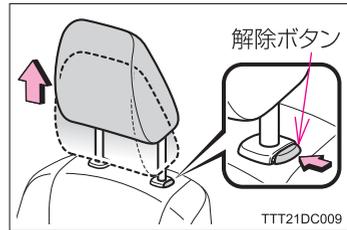


- 3 背もたれを起こし、固定する
- 4 ヘッドレストを取り付ける
解除ボタンを押しながら取り付けます。
- 5 専用助手席シートを軽くゆすり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、確実に固定されていることを確認する

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

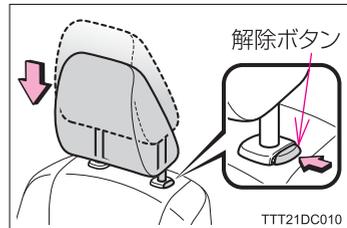
解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ヘッドレストを取り付けるときは

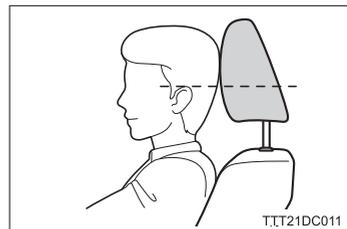
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



 **警告****■ シートを調整するときは**

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
手や指を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。
背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- ヘッドレストの取り付け・取りはずしをするときは、指を挟むなどけがをす
るおそれがあるため、十分注意する

 **警告****■専用助手席シートの折りたたみ・もどす操作をするときは**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

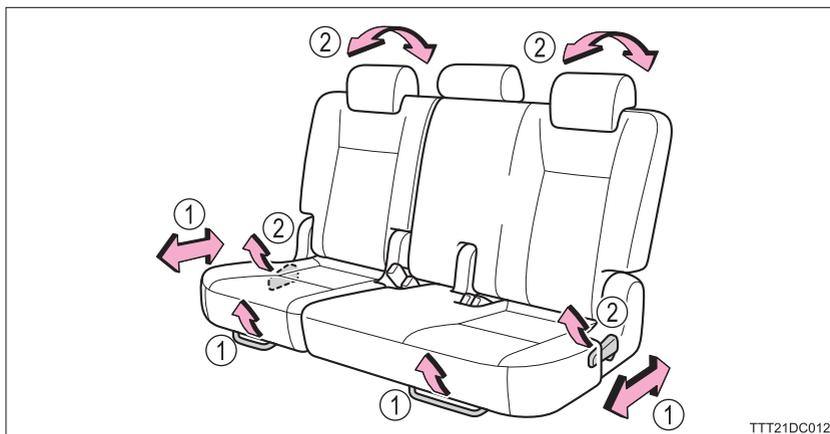
- 走行中にシートの折りたたみ・もどす操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 同乗者や荷物にあてないように注意する
- 折りたたんだシートの上およびシートを折りたたんだときにできる床面に、人や荷物を乗せて走行しない
- シートを勢いよく後方に倒さない
- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニングレバーを操作する
- シートをもとにもどしたときは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げるなどして、シートが確実に固定されていることを確認する

 **注意****■破損・損傷を防ぐために**

- グローブボックスを開けた状態でシートを折りたたまないでください。グローブボックスが破損したり、傷が付くおそれがあります。
- シートクッションをもどすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。
ものがある状態でシートクッションをもどすと、シートやものが破損するおそれがあります。
前輪固定フック、サポートバーおよびフロント固定ベルトが床面の格納部に格納されていることを確認してください。

専用セカンドシート

シートの調整

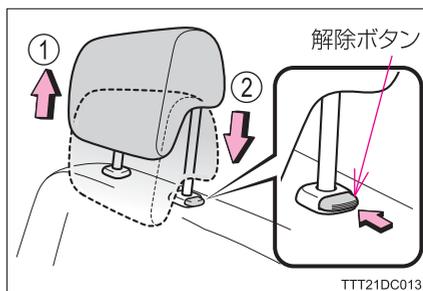


- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整

ヘッドレストの調整

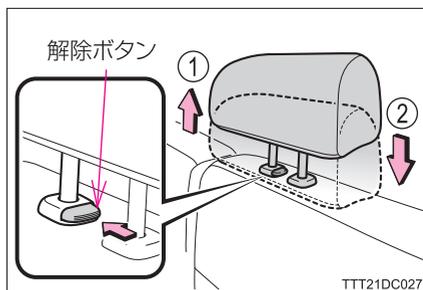
■ 外側席

- ① 上げる
 - ② 下げる
- 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



■ 中央席

- ① 上げる
 - ② 下げる
- 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



専用セカンドシートの折りたたみ

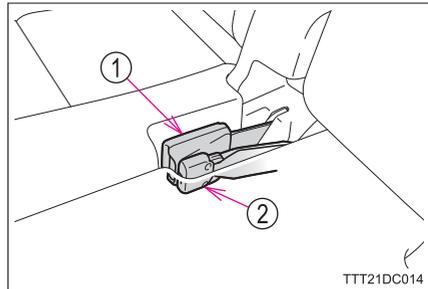
■ 折りたたみ方

ここではタイプⅠ“助手席側セカンドシート付”／タイプⅢ“ショートスロープ・助手席側セカンドシート付”の折りたたみ方を説明しています。タイプⅠ“助手席側セカンドシート無”／タイプⅡ／タイプⅢ“ショートスロープ・助手席側セカンドシート無”にお乗りの方は、運転席側セカンドシートで同様の操作を行ってください。

- 1 車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にする
- 2 フロントシートを前方にスライドさせ、背もたれを起こした状態にする（→標準車取扱書の「フロントシート」）
- 3 シート格納部周辺に、人やものがないことを確認する

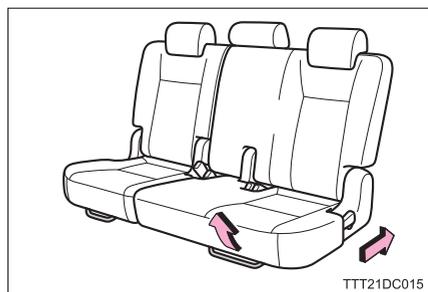
4 バックルを格納する

- ① 運転席側セカンドシート用
- ② 中央席用（タイプⅠ“助手席側セカンドシート付”／タイプⅢ“ショートスロープ・助手席側セカンドシート付”のみ）



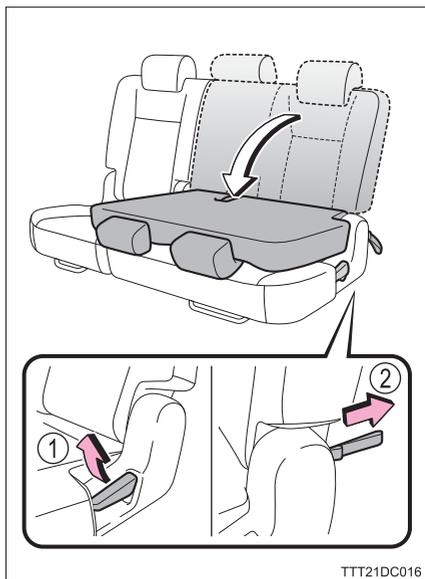
5 専用セカンドシートのヘッドレストを下げる（→ P.36）

- 6 スライドレバーを引いたまま、専用セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる
“カチッ”と音がするまで移動させます。



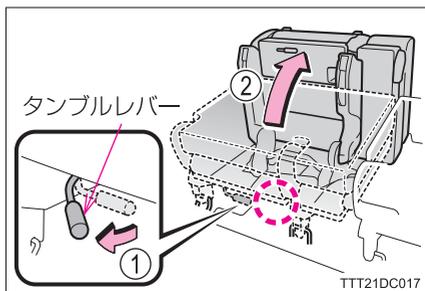
- 7 リクライニングレバーまたはストラップを引き、背もたれを前方に倒す

- ① リクライニングレバー
- ② ストラップ



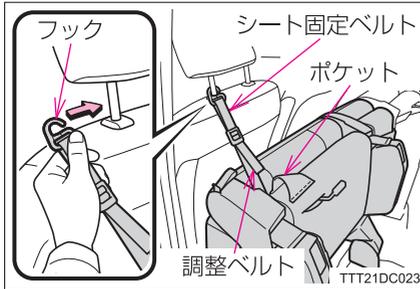
- 8 専用セカンドシート全体を引き起こす

- ① タンブルレバーを引いてロックを解除する
- ② 部を目安に持って、専用セカンドシートを引き起こす
シート脚部は自動で格納されます。

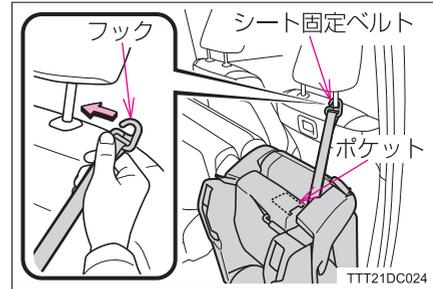


- 9 専用セカンドシート後面のポケットからシート固定ベルトを取り出し、専用セカンドシートを固定する

▶ 助手席側セカンドシート



▶ 運転席側セカンドシート

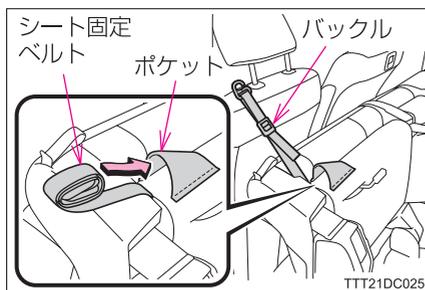


- ① フロントシートのヘッドレストステーにフックを引っかける
- ② 調整ベルトを引き、ベルトのたるみを取る（助手席側セカンドシート）

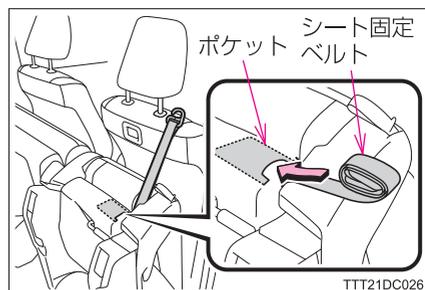
■ もどし方

- 1 車を安全で平坦な場所に停止させ、パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にする
- 2 シートをもどす位置周辺に、人やものがないことを確認する
- 3 シート固定ベルトをフロントシートのヘッドレストステーからはずし、専用セカンドシート後面のポケットに収納する

▶ 助手席側セカンドシート



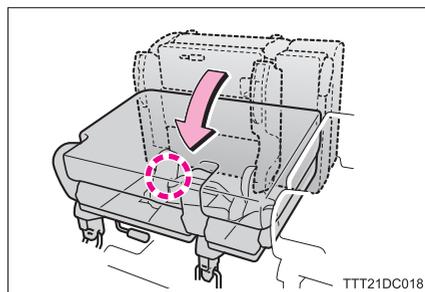
▶ 運転席側セカンドシート



バックルを引き上げ、ベルトをゆるめる

- 4 専用セカンドシート全体を床面にロックさせる

- ・ 部を目安に持って、専用セカンドシートを押し下げ、床面にロックさせます。
- ・ シートを下ろすとシート脚部が自動で展開されます。



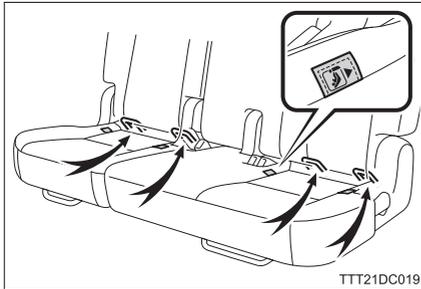
- 5 専用セカンドシートの背もたれを起こし、固定する
- 6 専用セカンドシートを前後左右にゆすり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、確実に固定されていることを確認する

ISOFIX ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

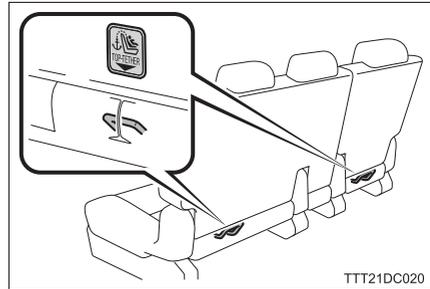
次の場所に ISOFIX ロアアンカレッジおよびトップテザーアンカレッジが装備されます。

チャイルドシートの取り付け方法については、商品に付属の取扱説明書および標準車取扱書の「チャイルドシート」を参照してください。

◆ ISOFIX ロアアンカレッジ



◆ トップテザーアンカレッジ

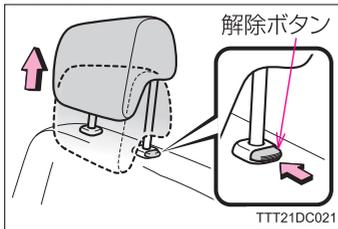


知識

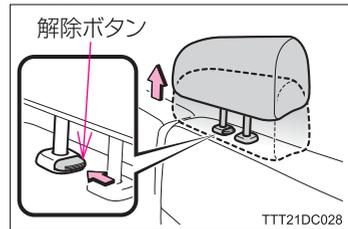
■ ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

▶ 外側席



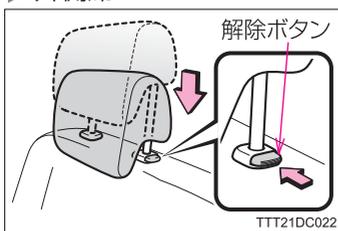
▶ 中央席



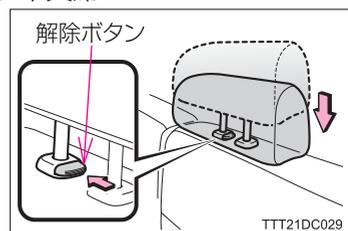
■ ヘッドレストを取り付けるときは

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

▶ 外側席



▶ 中央席



■ヘッドレストの使用について

常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■折りたたんだ助手席側セカンドシートを着座状態にもどすときは（タイプⅠ“助手席側セカンドシート付”／タイプⅢ“ショーツローブ・助手席側セカンドシート付”）

運転席側セカンドシートのシートベルトのバックルをシートのあいだに挟まないように注意してください。バックルが取り出せなくなるおそれがあります。

▲警告

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
手や指を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。
背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

 **警告****■専用セカンドシートの折りたたみ・もどす操作をするときは**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

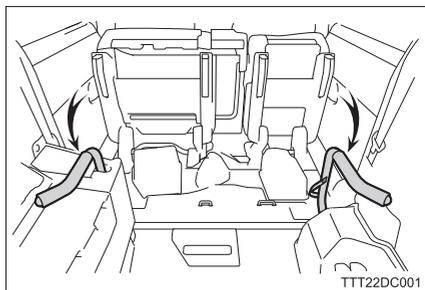
- 走行中にシートの折りたたみ・もどす操作をしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にする
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない
- 同乗者や荷物にあてないように注意する
- 運転席側・助手席側のシートを同時に折りたたまない
手や指を挟み、けがをするおそれがあります。シートを折りたたむときは、片側ずつ操作してください。
- 折りたたんだシートの上およびシートを折りたたんだときにできる床面に、人や荷物を乗せて走行しない
- シートを勢いよく後方に倒さない
- シートをもとにもどしたときは、シートを前後左右にゆすり、さらにシートクッションを持ち上げるなどして、シートが確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

 **注意****■破損を防ぐために**

シートをもどすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。ものがある状態でシートをもどすと、シート脚部やものが破損するおそれがあります。

ハンドグリップ

2列目位置の車いす乗車の方用の
ハンドグリップが左右に装備され
ます。

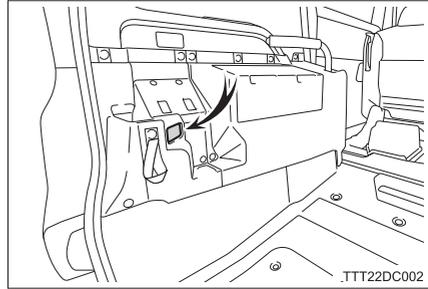


夜間照明灯

夜間の乗降時、スロープ部の手元および足元を明るく照らします。

点灯・消灯のしかた

バックドアを開けると点灯し、バックドアを閉めると消灯します。



知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、またはOFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の場合、夜間照明灯が点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

警告

■ 点灯時および消灯直後は

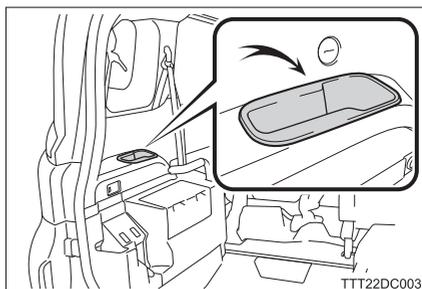
夜間照明灯のレンズにふれないでください。

夜間照明灯のレンズは高温のため、やけどをするおそれがあります。

収納装備一覧

ボトルホルダー

2列目位置の車いす乗車の方用のボトルホルダーが左右に装備されます。



知識

■ ボトルホルダーとして使用するとき

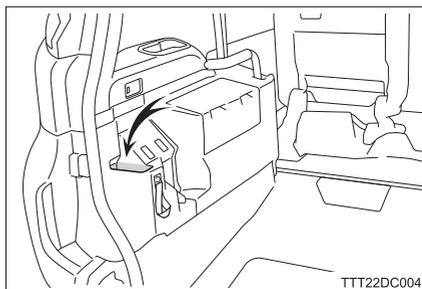
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

デッキポケット

電動ウインチ★用のワイヤレスリモコンなど、小物を置くことができます。

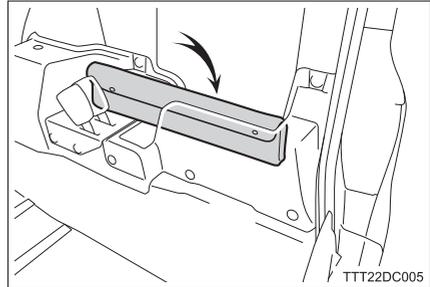


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

停止表示板収納スペース

右リヤデッキサイド部に停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさ、形によっては、収納できないことがあります。



知識

■ 収納可能な停止表示板のサイズの目安

長さ	幅	高さ
420mm 以下	40mm 以下	130mm 以下

車いすの車内外への 乗り降り

3

3-1. スロープを使用する前に	
ご使用前に確認して いただきたいこと	50
作動条件の確認	59
3-2. 車いすの車内外への 乗降・固定	
操作の流れ： 2 列目位置への乗降・固定 (タイプⅠ / タイプⅡ)	61
操作の流れ： 2 列目位置への乗降・固定 (タイプⅢ)	68
操作の流れ： 1.5 列目位置への乗降・固定 (タイプⅡ)	80
車高調整および スロープの展開・格納 (タイプⅠ / タイプⅡ)	86
車高調整および スロープの展開・格納 (タイプⅢ)	103
車いすの車内外への 乗降・固定：2 列目位置 (タイプⅠ / タイプⅡ)	114
車いすの車内外への 乗降・固定：2 列目位置 (タイプⅢ)	140
車いすの車内外への 乗降・固定：1.5 列目位置 (タイプⅡ)	170
車いす用シートベルト	182
走行する前に (2 列目位置)	191

ご使用前に確認していただきたいこと

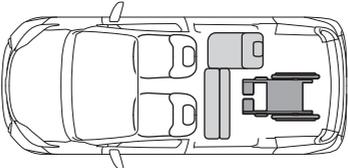
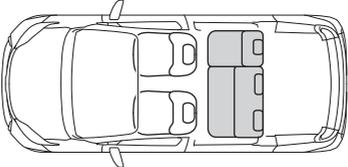
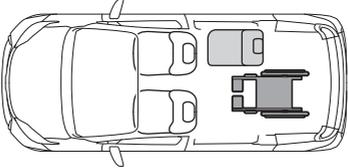
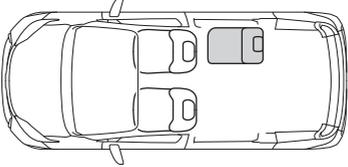
車いすまたは人を乗せた車いすを、スロープ上を移動して車に乗り降りさせます。

車高降下装置で車両後部の車高を低下させ、車いすの車内外への乗り降りを容易にします。

操作はすべて介助の方が行ってください。

室内レイアウト

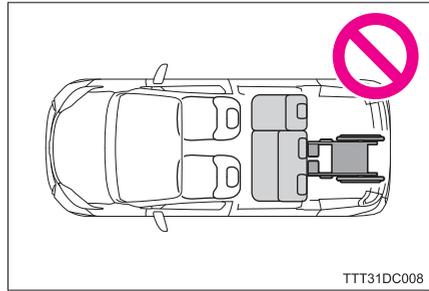
◆ タイプ I

車両タイプ		室内レイアウト	最大乗車人数
タイプ I	助手席側 セカンド シート付		車いすご利用時 乗車人数 4 名 (3 名+車いす 1 名)
			車いすを ご利用しないとき 乗車人数 5 名
	助手席側 セカンド シート無		車いすご利用時 乗車人数 4 名 (3 名+車いす 1 名)
			車いすを ご利用しないとき 乗車人数 3 名

■ 乗車できないレイアウト（タイプⅠ “助手席側セカンドシート付”）

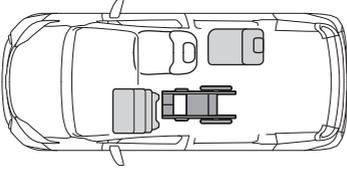
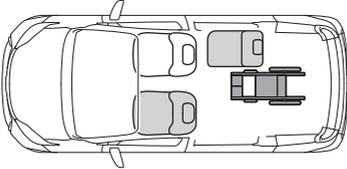
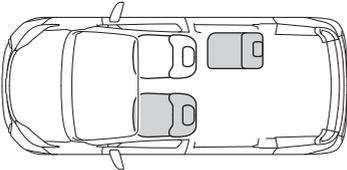
助手席側セカンドシートを折りたたまない状態での車いす乗車（5名+車いす1名）はできません。

乗車人数は最大5名です。



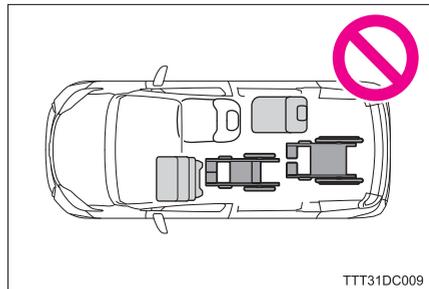
TTT31DC008

◆ タイプⅡ

車両タイプ	室内レイアウト	最大乗車人数
タイプⅡ		車いすご利用時 （1.5列目位置乗車時） 乗車人数 3名 （2名+車いす1名）
		車いすご利用時 （2列目位置乗車時） 乗車人数 4名 （3名+車いす1名）
		車いすを ご利用しないとき 乗車人数 3名

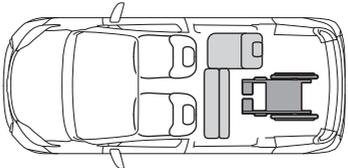
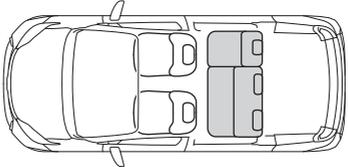
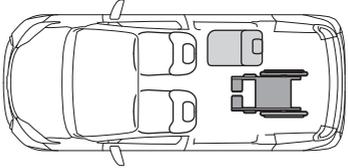
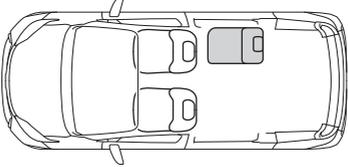
■ 乗車できないレイアウト（タイプⅡ）

車いすの2名同時乗車はできません。



TTT31DC009

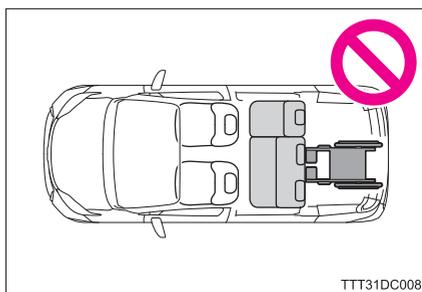
◆ タイプⅢ

車両タイプ		室内レイアウト	最大乗車人数
タイプⅢ	ショートスロープ・助手席側セカンドシート付		車いすご利用時 乗車人数 4 名 (3 名 + 車いす 1 名)
			車いすを ご利用しないとき 乗車人数 5 名
	ショートスロープ・助手席側セカンドシート無		車いすご利用時 乗車人数 4 名 (3 名 + 車いす 1 名)
			車いすを ご利用しないとき 乗車人数 3 名

■ 乗車できないレイアウト (タイプⅢ “ショートスロープ・助手席側セカンドシート付”)

助手席側セカンドシートを格納しない状態での車いす乗車 (5 名 + 車いす 1 名) はできません。

乗車人数は最大 5 名です。



TTT31DC008

路面について

スロープは水平で平坦な場所での使用が条件になります。
また、車両周辺・下側に突起物がないことを確認してください。

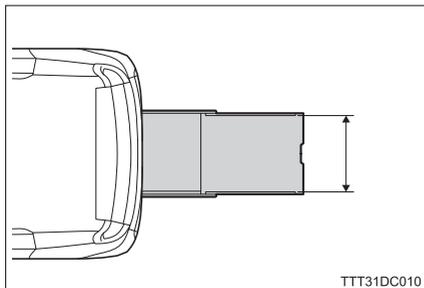
重量について（タイプⅠ／タイプⅡ）

スロープの耐荷重は 200kg です。

- スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる「車いす+車いす乗車の方+手荷物+介助の方」の合計重量が 200kg 以下であることを確認してください。
- スロープを前倒れにしたときは、スロープの上に乗せる荷物の重量が 200kg 以下であることを確認してください。

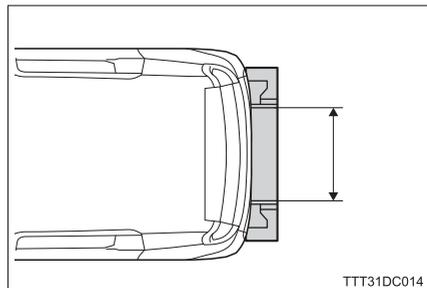
手動スロープ内幅について

▶ タイプⅠ／タイプⅡ



640mm

▶ タイプⅢ



700mm

車いすのタイヤ空気圧について

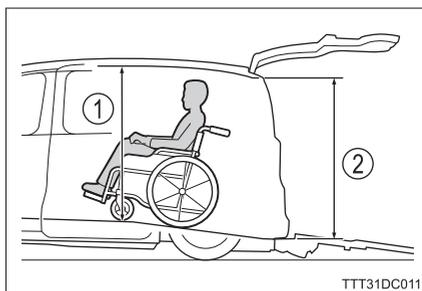
車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

車いす乗車の目安

▶ 2 列目位置

- ① 有効室内高：1310mm
- ② 乗車可能高：1300mm ※

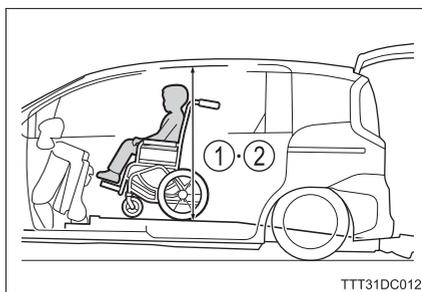
※：首が曲がらない方の場合は、有効室内高ではなく、乗車可能高（1275mm）を乗車の目安にしてください。



TTT31DC011

▶ 1.5 列目位置（タイプⅡ）

- ① 有効室内高：1255mm
- ② 乗車可能高：1255mm



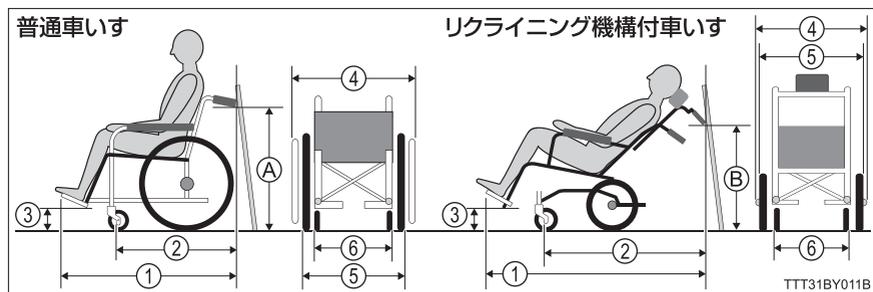
TTT31DC012

乗車可能な車いすについて

次の寸法を満たしていることを確認してください。

- 一部の電動車いすは乗車できないため、その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定装置のフックが正しくかけられないときがあります（→P.123, 146, 153, 172）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがある場合、シートベルトを正しく着用できないときがあります（→P.182～187）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 電動3輪車・電動4輪車は乗車できません。

◆ 2列目位置（タイプⅠ“助手席側セカンドシート付” / タイプⅢ“助手席側セカンドシート付”）



- ① フットレストの先端から介助ハンドル後端までの距離
 ② 前側フレームの後端から介助ハンドル後端までの距離
 ③ 地面からフットレストの最下端までの距離
 フットレスト自体よりフレームの方が低い場合、フレームの下端まで
 ④ 車いす全幅
 ⑤ 車いす後輪の幅（外寸）
 ⑥ 車いす前輪の幅（外寸）
 ① ② スロープ格納時の介助ハンドル後端高さ

	普通車いす		リクライニング機構付車いす	
	運転席側セカンドシート使用時	運転席側セカンドシート格納時	運転席側セカンドシート使用時	運転席側セカンドシート格納時
①	1200mm 以下※ ¹	1200mm 以下※ ¹	1130mm 以下※ ¹	1130mm 以下※ ¹
②	690mm 以下※ ¹	740mm 以下※ ¹	810mm 以下※ ¹	810mm 以下※ ¹
③	50mm 以上	50mm 以上	50mm 以上	50mm 以上
④	630mm 以下※ ²	670mm 以下※ ²	630mm 以下※ ²	670mm 以下※ ²
⑤	620mm 以下※ ²	620mm 以下※ ²	620mm 以下※ ²	620mm 以下※ ²
⑥	490mm 以下	490mm 以下	490mm 以下	490mm 以下

※¹：①・②は①・②により制約が異なります。表中の数値は①を 800mm、②を 900mm とした場合の数値です。①・②を 930mm とした場合はそれぞれ 90mm ずつ増加します。

※²：スロープの最小幅は 640mm、スロープフラッパー（スロープと車内フロアの接続板）の最小幅は 620mm になります。

◆ 2列目位置(タイプⅠ“助手席側セカンドシート無”／タイプⅢ“ショートスロープ・助手席側セカンドシート無”)

	普通車いす		リクライニング機構付車いす	
	運転席側セカンドシート使用時	運転席側セカンドシート格納時	運転席側セカンドシート使用時	運転席側セカンドシート格納時
①	1470mm 以下* ¹	1470mm 以下* ¹	1420mm 以下* ¹	1420mm 以下* ¹
②	690mm 以下* ¹	740mm 以下* ¹	810mm 以下* ¹	810mm 以下* ¹
③	50mm 以上	50mm 以上	50mm 以上	50mm 以上
④	630mm 以下* ²	670mm 以下* ²	630mm 以下* ²	670mm 以下* ²
⑤	620mm 以下* ²	620mm 以下* ²	620mm 以下* ²	620mm 以下* ²
⑥	490mm 以下	490mm 以下	490mm 以下	490mm 以下

*¹ : ①・②は(A)・(B)により制約が異なります。表中の数値は(A)を800mm、(B)を900mmとした場合の数値です。(A)・(B)を930mmとした場合はそれぞれ90mmずつ増加します。

*² : スロープの最小幅は640mm、スロープフラッパー(スロープと車内フロアの接続板)の最小幅は620mmになります。

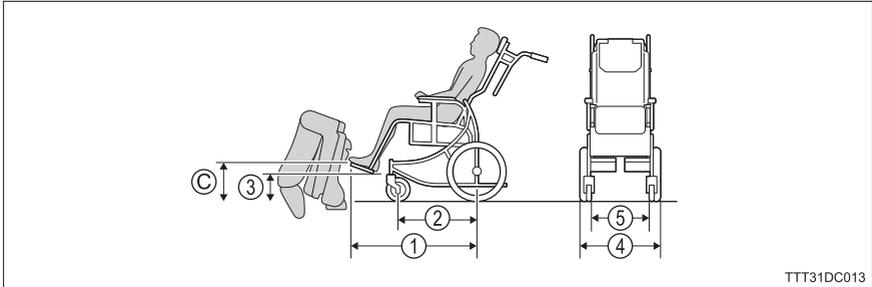
◆ 2列目位置(タイプⅡ)

	普通車いす		リクライニング機構付車いす	
	運転席側セカンドシート使用時	運転席側セカンドシート格納時	運転席側セカンドシート使用時	運転席側セカンドシート格納時
①	1510mm 以下* ¹	1510mm 以下* ¹	1460mm 以下* ¹	1460mm 以下* ¹
②	690mm 以下* ¹	740mm 以下* ¹	810mm 以下* ¹	810mm 以下* ¹
③	50mm 以上	50mm 以上	50mm 以上	50mm 以上
④	630mm 以下* ²	670mm 以下* ²	630mm 以下* ²	670mm 以下* ²
⑤	620mm 以下* ²	620mm 以下* ²	620mm 以下* ²	620mm 以下* ²
⑥	470mm 以下	470mm 以下	470mm 以下	470mm 以下

*¹ : ①・②は(A)・(B)により制約が異なります。表中の数値は(A)を800mm、(B)を900mmとした場合の数値です。(A)・(B)を930mmとした場合はそれぞれ90mmずつ増加します。

*² : スロープの最小幅は640mm、スロープフラッパー(スロープと車内フロアの接続板)の最小幅は620mmになります。

◆ 1.5 列目位置 (タイプII)



TTT31DC013

- ① フットレストの先端から後輪中心までの距離
- ② 前輪中心から後輪中心までの距離
- ③ 地面からフットレストの最下端までの距離
フットレスト自体よりもフレームの方が低い場合、フレームの下端まで
- ④ 車いす全幅
- ⑤ 車いす前輪の幅 (内寸)
- ◎ フットレストの先端から地面までの距離

	車いす
①	845mm 以下※
②	525mm 以下
③	65mm 以上
④	500mm 以下
⑤	180mm 以上

※：①は◎により制約が異なります。表中の数値は◎を 130mm とした場合の数値です。

 **警告****■ 走行するときは**

→ P.22

■ 車いすのタイヤ空気圧について

→ P.24

■ 助手席ターンチルトシート装着車について

車高調整および助手席ターンチルトシートを同時に作動させないでください。車両後部の車高が下がるため、助手席ターンチルトシートから転落するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 車いすを車内に乗り入れたときは

● タイプⅠ “助手席側セカンドシート無” / タイプⅡ / タイプⅢ “ショートスロープ・助手席側セカンドシート無” で2列目位置に車いすを乗り入れたときは、助手席シートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。

助手席シートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをします。車いす乗り入れ後、助手席シートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

● 2列目位置に車いすを乗り入れたときは、運転席側セカンドシートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。

運転席側セカンドシートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをします。車いす乗り入れ後、運転席側セカンドシートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

 **注意****■ 損傷を防ぐために (タイプⅠ / タイプⅡ)**

スロープの耐荷重 200kg (→ P.53) をこえないようにしてください。スロープが損傷するおそれがあります。

作動条件の確認

各装置の作動条件について

車高降下装置、セーフティベルト★、電動ウインチ★、車いす固定装置、夜間照明灯は、次の作動条件をすべて満たす場合に作動します。

装置	作動条件
車高降下装置	エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉※
	シフトレバー／シフトポジション「Pの位置」
	バックドア「開」
セーフティベルト★ 電動ウインチ★ 車いす固定装置 (2列目位置)	エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉※
	バックドア「開」
車いす固定装置 (1.5列目位置)	エンジンをかけた状態※
	パーキングブレーキ「かかっている」
	シフトレバー「Pの位置」
夜間照明灯	バックドア「開」

※：エンジン〈ハイブリッドシステム〉停止状態ではバッテリーあがりの原因になったり、十分な性能を引き出せないおそれがあるため、エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉で使用してください。

 **警告****■車両の駐車場所について**

- 安全で平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にしてください。(→P.15)
交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。
- 乗降するときはヘッドランプを点灯および非常点滅灯を点滅させ、周囲へ注意をうながしてください。(→P.16)
- 階段や段差を利用して車いすの乗り入れをしないでください。(→P.18)
段差を利用すると車いすがスロープから転落したり、スロープが段差からはずれて破損するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 可燃物付近に駐車しないでください。(→P.16)
車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災になるおそれがあり危険です。
スロープ使用時、車高降下により排気管の位置が大きく下がりますので、特に注意してください。

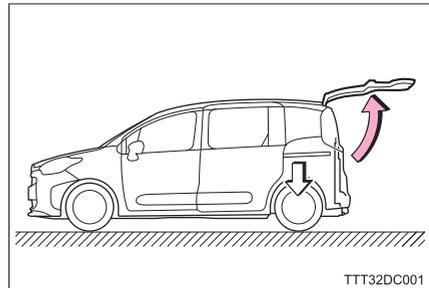
操作の流れ：2列目位置への乗降・固定（タイプⅠ／タイプⅡ）

スロープ、セーフティベルト★または電動ウインチ★および車いす固定装置（2列目用）を使用して、車いすを車内外に乗降・固定するときは、次の手順で行います。
すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

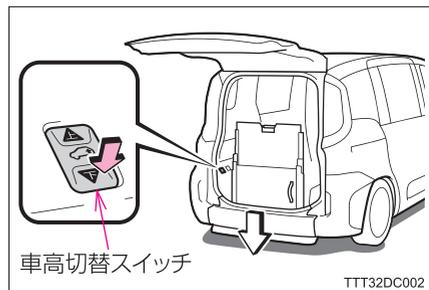
車いすを車内に乗り入れ・固定するときは

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま〈ハイブリッドシステムを作動状態のまま〉駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にする（→P.15）
- 2 助手席側セカンドシートを折りたたむ（タイプⅠ“助手席側セカンドシート付”）（→P.37）
車いすのサイズによっては運転席側セカンドシートも折りたたみます。
- 3 バックドアを開く

- ▶ バックドア連動車高切替モード
バックドアを開くことで車高を自動で降下させる（→P.86）

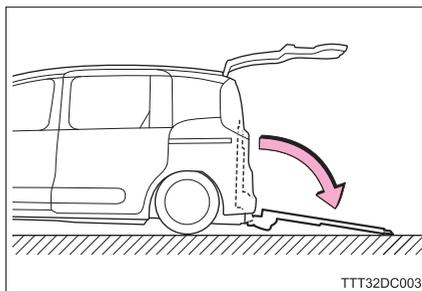


- ▶ マニュアル車高切替モード
バックドアを開いて、車高切替スイッチの「下」を押し、車高を降下させる（→P.87）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

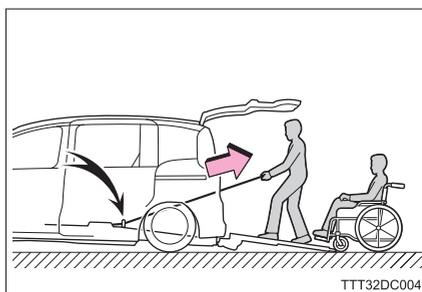
- 4 スロープを展開する (→ P.87)



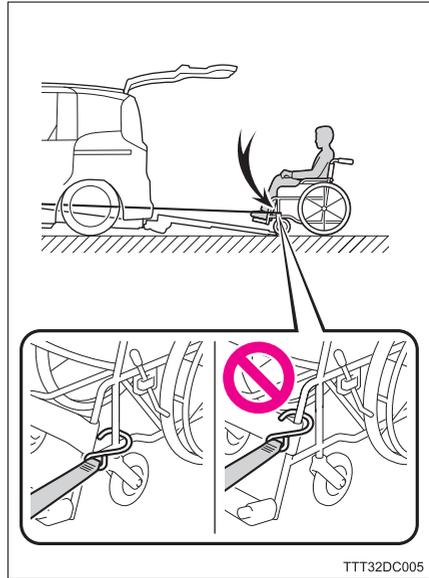
- 5 車いすをスロープの手前で停止し、車いすのブレーキを両輪ともかける (→ P.116)
- 6 固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する (→ P.116)

- 7 フックを持ってベルトを引き出す (→ P.117)

乗車する車いすに合わせ、ベルトをベルトガイドに通す (→ P.117)



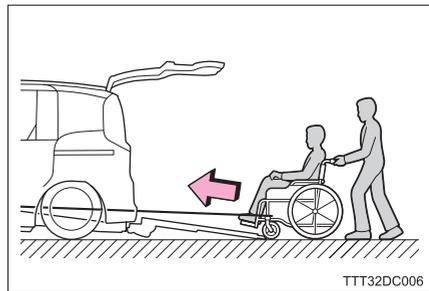
- 8 車いすの前輪上部のフレーム接合部にフックをかける
(→ P.120)



- 9 車いすを車内に乗り入れる

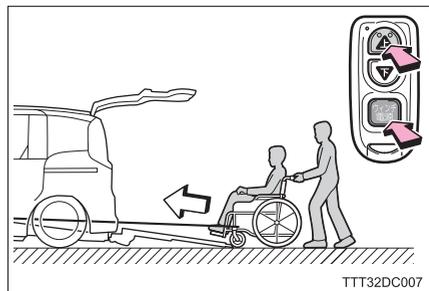
▶ セーフティベルト装着車

- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② 所定の位置まで乗り入れる
(→ P.121)



▶ 電動ウインチ装着車

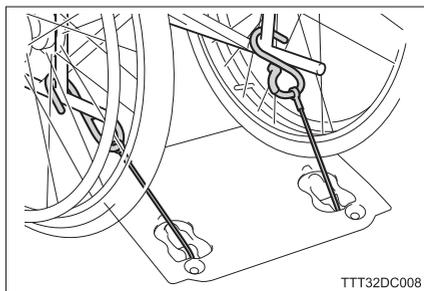
- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② ワイヤレスリモコンを操作し、所定の位置まで乗り入れる
(→ P.122)



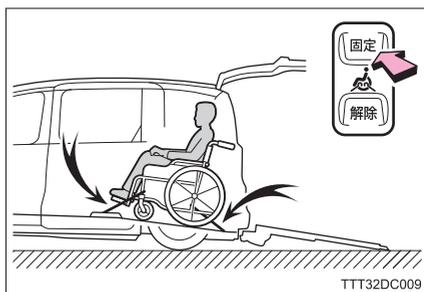
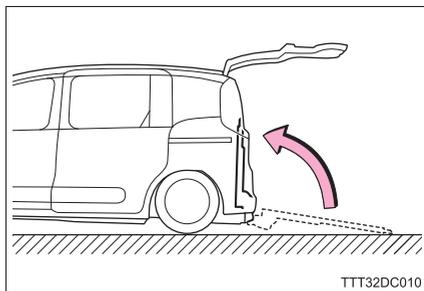
- 10 車いすのブレーキを両輪ともかける

11 車いすを車内に固定する

- ① 車いす固定装置からワイヤーを引き出し、車いすの後部フレームにフックをかける (→ P.123)

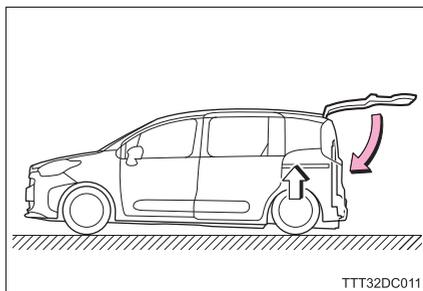


- ② 固定・解除スイッチの「固定」を押す (→ P.123)

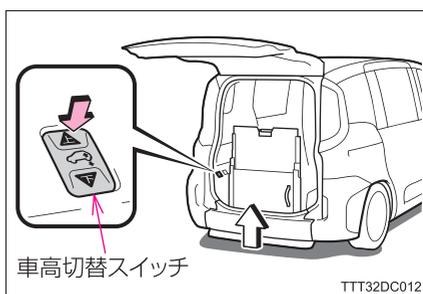
**12** 車いす用シートベルトを着用する (→ P.183 ~ 185)**13** スロープを格納する (→ P.88)

14 バックドアを閉める

- ▶ バックドア連動車高切替モード
バックドアを閉めることで車高を自動で復帰させる (→ P.88)



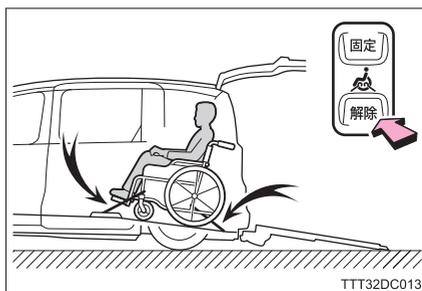
- ▶ マニュアル車高切替モード
車高切替スイッチの「上」を押し、車高を復帰させてからバックドアを閉める (→ P.89)



車いすを車外に降ろすときは

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま〈ハイブリッドシステムを作動状態のまま〉駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にする
- 2 バックドアを開け、車高を降下させる（バックドア連動車高切替モード→ P.86 / マニュアル車高切替モード→ P.87）
- 3 スロープを展開する（→ P.87）
- 4 車いす用シートベルトをはずす（→ P.188）
- 5 車いすの固定を解除する（→ P.125）

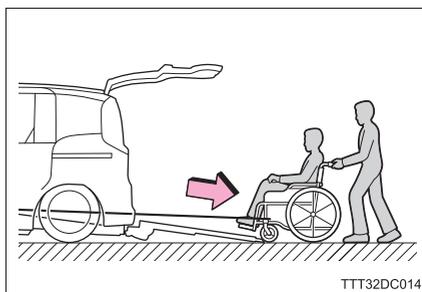
- ① 固定・解除スイッチの「解除」を押し、ワイヤーをゆるめる
- ② 車いすの後部フレームからフックを取りはずす



- 6 車いすのブレーキを両輪とも解除し、セーフティベルト★または電動ウインチ★を使用して、車いすを車外に降ろす

▶ セーフティベルト装着車

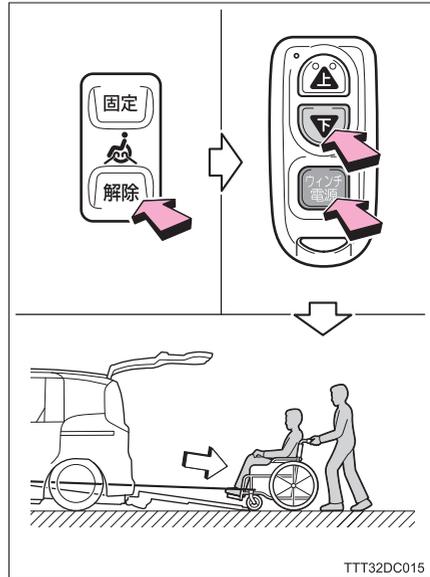
- ① 固定・解除スイッチのインジケータが点滅していることを確認する（→ P.125）
消灯している場合は再度固定・解除スイッチの「解除」を押し点滅させる
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ 車いすを車外に降ろす（→ P.126）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

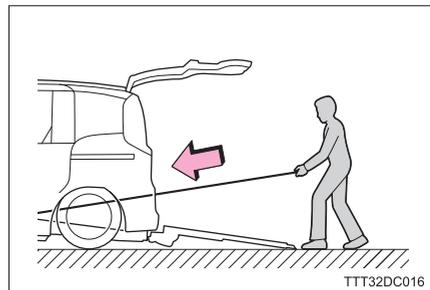
▶ 電動ウインチ装着車

- ① 固定・解除スイッチのインジケータが点滅していることを確認する（→ P.125）
消灯している場合は再度固定・解除スイッチの「解除」を押して点滅させる
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ ワイヤレスリモコンを操作し、車いすを車外に降ろす（→ P.126）



- 7 車いすのブレーキを両輪ともかける

- 8 セーフティベルト★または電動ウインチ★のベルトのフックを車いすの前部フレームから取りはずし、ベルトがねじれないように巻き取る



- 9 スロープを格納する（→ P.88）

- 10 バックドアを閉め、車高を復帰させる（バックドア連動車高切替モード→ P.88 / マニュアル車高切替モード→ P.89）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

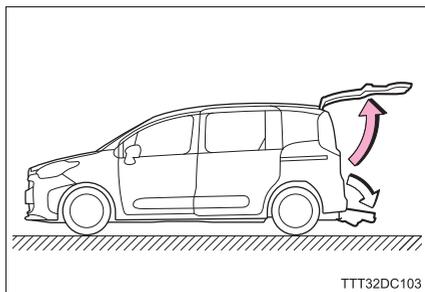
操作の流れ:2 列目位置への乗降・固定 (タイプⅢ)

スロープ、セーフティベルト★または電動ウインチ★および車いす固定装置 (2 列目用) を使用して、車いすを車内外に乗降・固定するときは、次の手順で行います。

すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

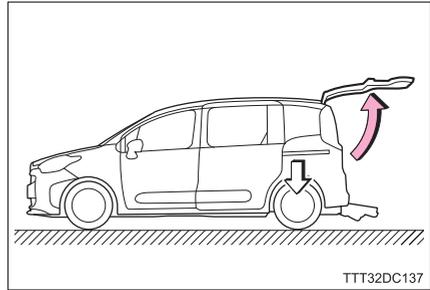
車いすを車内に乗り入れ・固定するときは (セーフティベルト装着車)

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま〈ハイブリッドシステムを作動状態のまま〉駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする (→ P.15)
- 2 助手席側セカンドシートを折りたたむ (タイプⅢ “ショートスロープ・助手席側セカンドシート付”) (→ P.37)
車いすのサイズによっては運転席側セカンドシートも折りたたみます。
- 3 ベルトガイドを使用する場合は、ベルトガイドに通し (→ P.140)、セーフティベルトのフックを仮置きバンドおよび凸部に引っかける (→ P.142)
- 4 バックドアを開け、スロープを展開する
バックドアを開くことでスロープが自動で展開されます

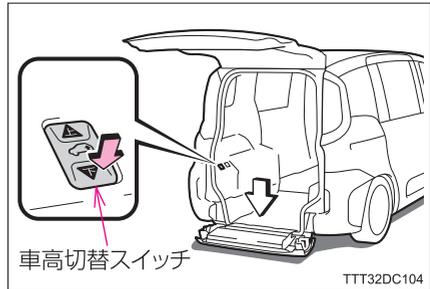


★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ▶ バックドア連動車高切替モード
バックドアを開くことで車高を
自動で降下させる (→ P.103)

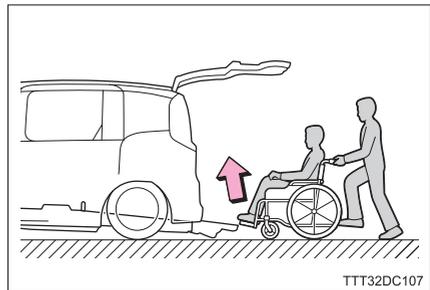


- ▶ マニュアル車高切替モード
バックドアを開いて、車高切替
スイッチの「下」を押し、車高
を降下させる (→ P.104)

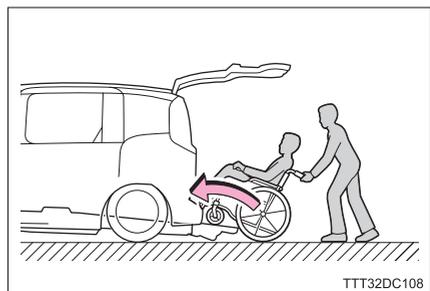


5 車いすを車内に乗り入れる

- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② 車いすの前輪を浮かし、スロープに前輪を載せる

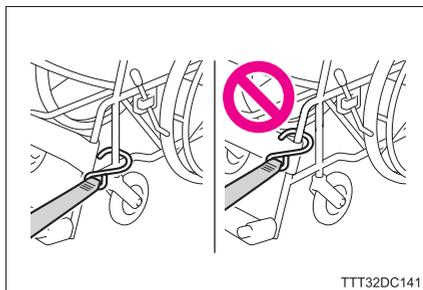


- ③ 車いすの後輪をスロープに押し当てながら後輪を持ち上げ車内に乗り入れる
- ④ 所定の位置まで乗り入れる (→ P.145)

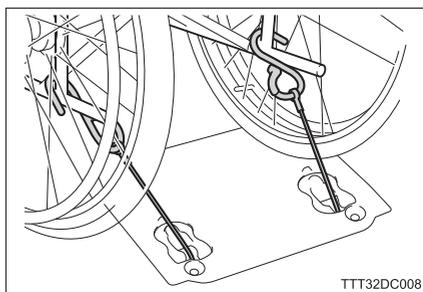


6 車いすのブレーキを両輪ともかける**7** 車いすを車内に固定する

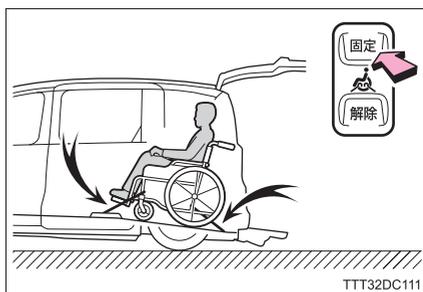
- ① 車いすの前輪上部のフレーム接合部にフックをかける
(→ P.146)



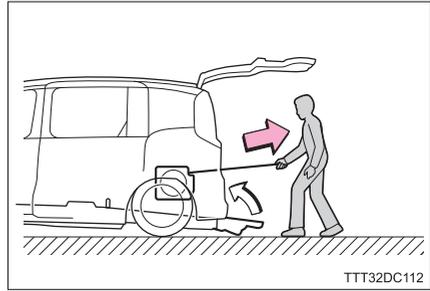
- ② 車いす固定装置からワイヤーを引き出し、車いすの後部フレームにフックをかける
(→ P.146)



- ③ 固定・解除スイッチの「固定」を押す (→ P.147)

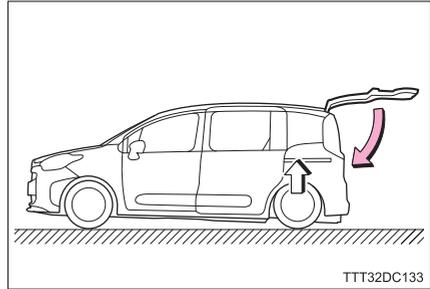


- 8 車いす用シートベルトを着用する (→ P.183 ~ 185)
- 9 ハンドルを引いて、スロープを格納する (→ P.105)

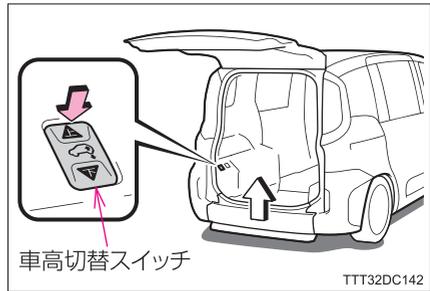


10 バックドアを閉める

- ▶ バックドア連動車高切替モード
バックドアを閉めることで車高を自動で復帰させる (→ P.105)



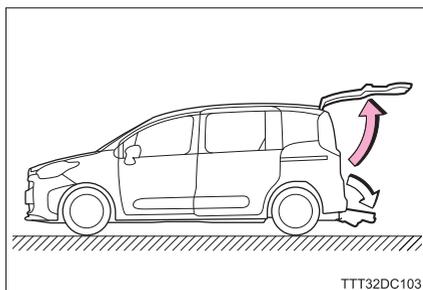
- ▶ マニュアル車高切替モード
車高切替スイッチの「上」を押し、車高を復帰させてからバックドアを閉める (→ P.106)



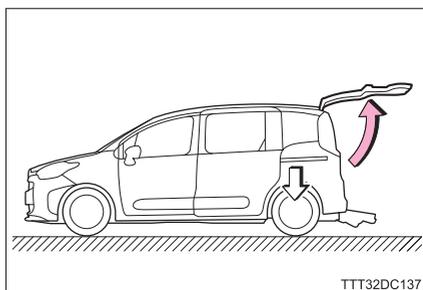
車いすを車内に乗り入れ・固定するときは（電動ウインチ装着車）

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま〈ハイブリッドシステムを作動状態のまま〉駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする（→ P.15）
- 2 助手席側セカンドシートを折りたたむ（タイプⅢ “ショートスロープ・助手席側セカンドシート付”）（→ P.37）
車いすのサイズによっては運転席側セカンドシートも折りたたみます。
- 3 バックドアを開け、スロープを展開する

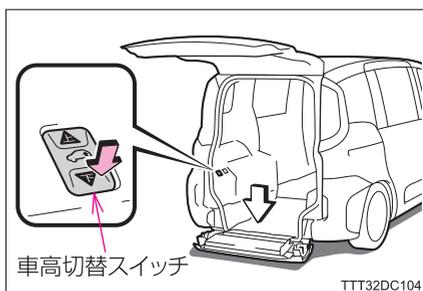
バックドアを開くことでスロープが自動で展開されます



- ▶ バックドア連動車高切替モード
バックドアを開くことで車高を自動で降下させる（→ P.103）

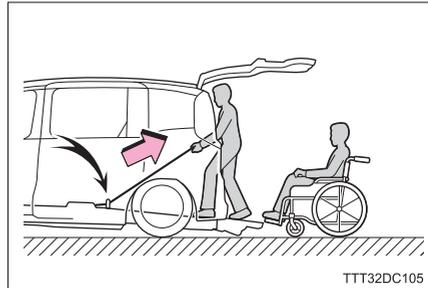


- ▶ マニュアル車高切替モード
バックドアを開いて、車高切替スイッチの「下」を押し、車高を降下させる（→ P.104）

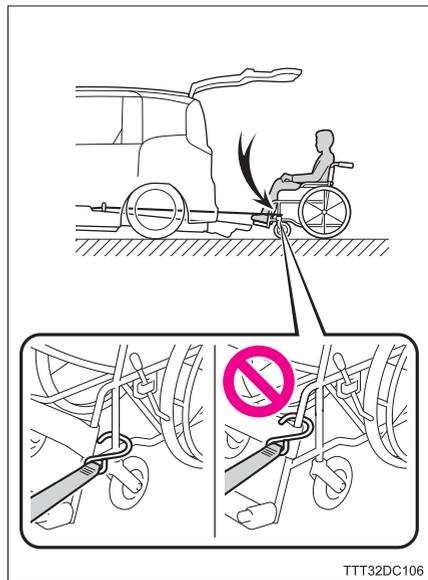


- 4 車いすをスロープに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける (→ P.149)
- 5 固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する (→ P.149)
- 6 フックを持ってベルトを引き出す (→ P.150)

乗車する車いすに合わせ、電動ウインチのベルトをベルトガイドに通す (→ P.140)

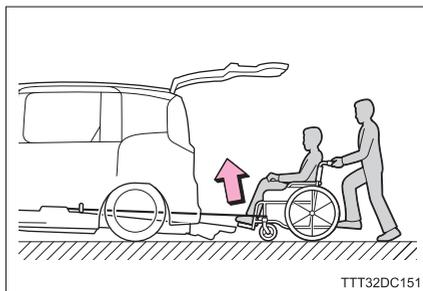


- 7 車いすの前輪上部のフレーム接合部にフックをかける (→ P.150)

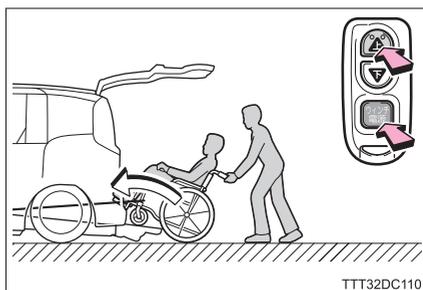


8 車いすを車内に乗り入れる

- ① 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ② 車いすの前輪を浮かし、スロープに前輪を載せる



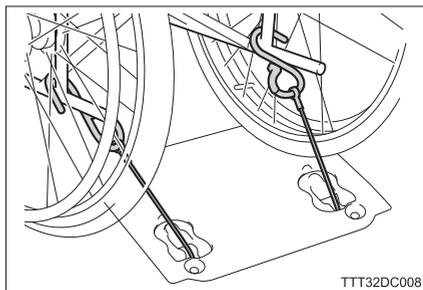
- ③ ワイヤレスリモコンを操作し、車いすの後輪をスロープに押し当てながら後輪を持ち上げ車内に乗り入れる
- ④ ワイヤレスリモコンを操作し、所定の位置まで乗り入れる (→ P.152)



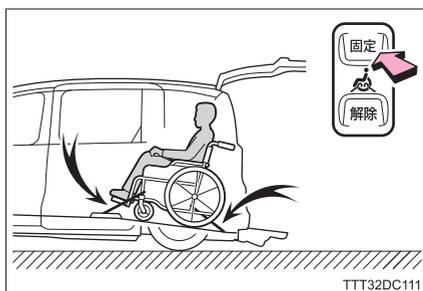
9 車いすのブレーキを両輪ともかける

10 車いすを車内に固定する

- ① 車いす固定装置からワイヤーを引き出し、車いすの後部フレームにフックをかける (→ P.153)

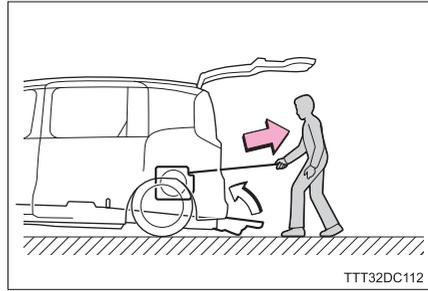


- ② 固定・解除スイッチの「固定」を押す (→ P.153)



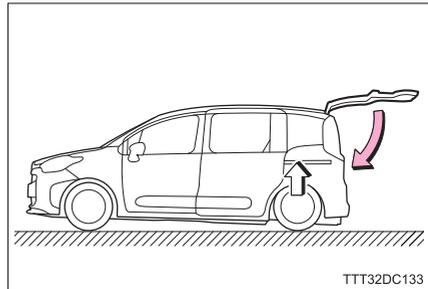
11 車いす用シートベルトを着用する (→ P.183 ~ 185)

12 ハンドルを引いて、スロープを格納する (→ P.105)

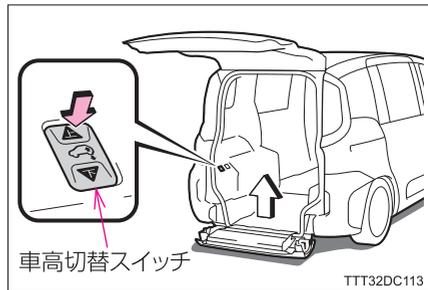


13 バックドアを閉める

▶ バックドア連動車高切替モード
バックドアを閉めることで車高を自動で復帰させる (→ P.105)



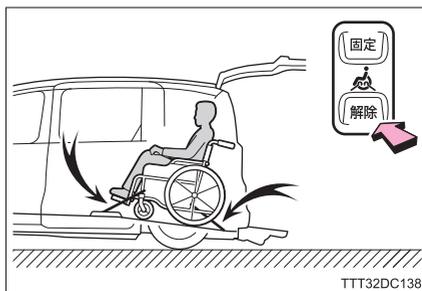
▶ マニュアル車高切替モード
車高切替スイッチの「上」を押し、車高を復帰させてからバックドアを閉める (→ P.106)



車いすを車外に降ろすときは（セーフティベルト装着車）

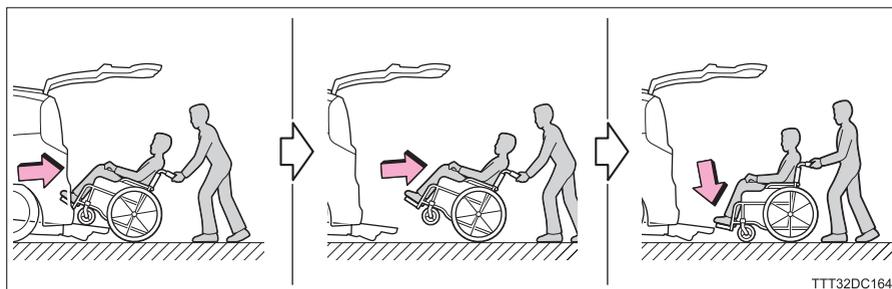
- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま〈ハイブリッドシステムを作動状態のまま〉駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 バックドアを開け、スロープを展開し、車高を降下させる（バックドア連動車高切替モード→ P.103 /マニュアル車高切替モード→ P.104）
- 3 車いす用シートベルトをはずす（→ P.188）
- 4 車いすの固定を解除する（→ P.155）

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を押し、ワイヤーをゆるめる
- ② 車いすの後部フレームからフックを取りはずす
- ③ セーフティベルトのベルトのフックを車いすの前部フレームから取りはずす
- ④ セーフティベルトのフックを仮置きバンドおよび凸部に引っかける



- 5 車いすのブレーキを両輪とも解除し、車いすを車外に降ろす（→ P.155）

- ① 車いすの後輪をゆっくり車外に降ろす
- ② 車いすの角度を①の状態のまま後退する
車いすを降ろした時にフットレストがスロープに当たらない位置まで後退してください。
- ③ 車いすの前輪をゆっくり降ろす

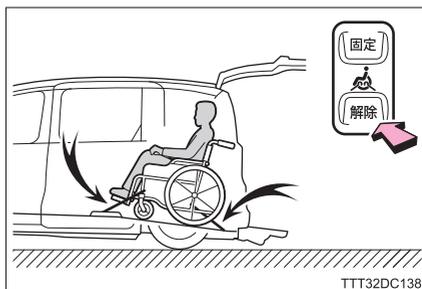


- 6 車いすのブレーキを両輪ともかける
- 7 スロープを格納する (→ P.105)
- 8 バックドアを閉め、車高を復帰させる (バックドア連動車高切替モード→ P.105 / マニュアル車高切替モード→ P.106)

車いすを車外に降ろすときは（電動ウインチ装着車）

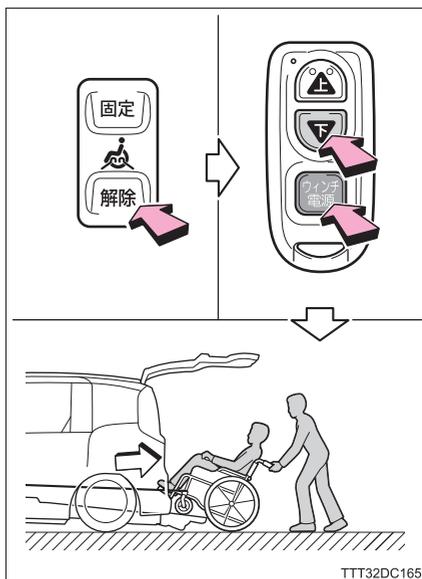
- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま〈ハイブリッドシステムを作動状態のまま〉駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 バックドアを開け、スロープを展開し、車高を降下させる（バックドア連動車高切替モード→ P.103 /マニュアル車高切替モード→ P.104）
- 3 車いす用シートベルトをはずす（→ P.188）
- 4 車いすの固定を解除する（→ P.157）

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を押し、ワイヤーをゆるめる
- ② 車いすの後部フレームからフックを取りはずす



- 5 車いすのブレーキを両輪とも解除し、電動ウインチを使用して、車いすを車外に降ろす

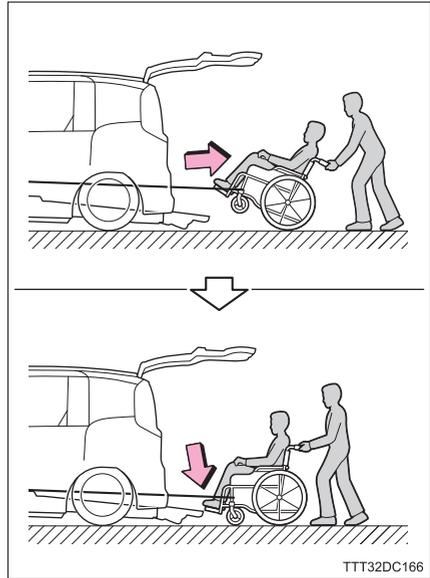
- ① 固定・解除スイッチのインジケータが点滅していることを確認する（→ P.157）
消灯している場合は再度固定・解除スイッチの「解除」を押し点滅させる
- ② 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ③ ワイヤレスリモコンを操作し、車いすを後輪をゆっくり車外に降ろす（→ P.158）



- ④ ワイヤレスリモコンを操作しながら、車いすの角度を③の状態のまま後退する

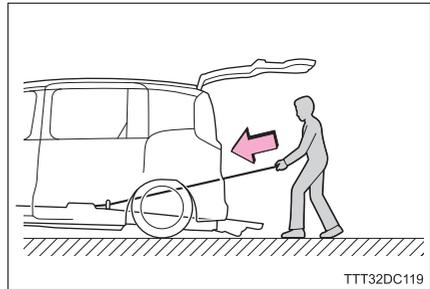
車いすを降ろした時にフットレストがスロープに当たらない位置まで後退してください。

- ⑤ 車いすの前輪をゆっくり車外に降ろす (→ P.159)



- ⑥ 車いすのブレーキを両輪ともかける

- ⑦ 電動ウインチのベルトのフックを車いすの前部フレームから取りはずし、ベルトがねじれないように巻き取る



- ⑧ スロープを格納する (→ P.105)

- ⑨ バックドアを閉め、車高を復帰させる (バックドア連動車高切替モード→ P.105 / マニュアル車高切替モード→ P.106)

操作の流れ：1.5列目位置への乗降・固定（タイプII）

スロープ、フロント固定ベルトおよび車いす固定装置（1.5列目用）を使用して、車いす（主に小児用車いす）を車内外に乗降・固定するときは、次の手順で行います。

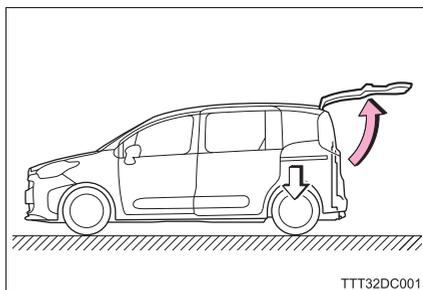
すべての操作は必ず介助の方が行ってください。

車いすを車内に乗り入れ・固定するときは

- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 専用助手席シートを折りたたむ（→P.31）
- 3 バックドアを開く

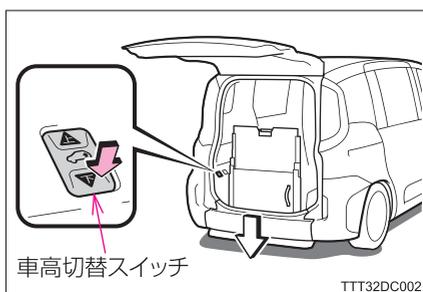
▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを開くことで車高を自動で降下させる（→P.86）

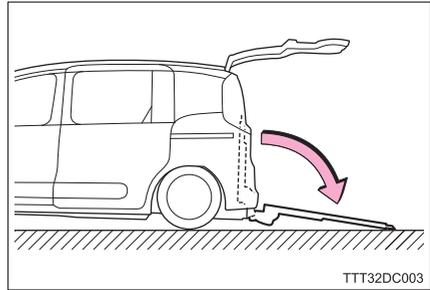


▶ マニュアル車高切替モード

バックドアを開いて、車高切替スイッチの「下」を押し、車高を降下させる（→P.87）



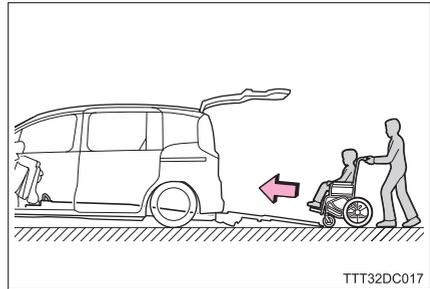
4 スロープを展開する (→ P.87)



5 車いすのブレーキを両輪とも解除し、車いすを車内（1.5列目位置）まで乗り入れる (→ P.171)

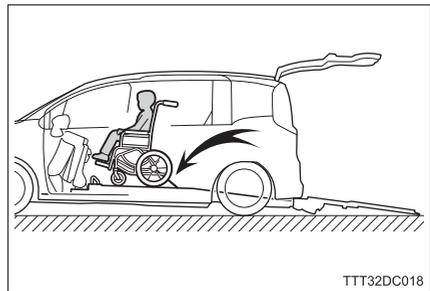
セーフティベルトは使用しません。

- ① 専用助手席シート後方までゆっくり乗車する
- ② 車いすの前輪が専用助手席シートの床面ロック手前の車止めに当たる位置で停止する



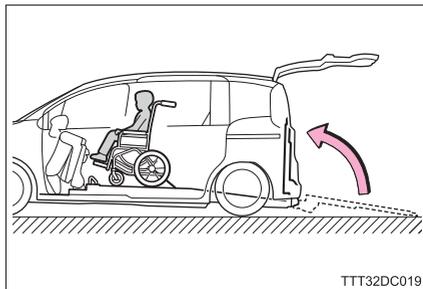
6 車いすのブレーキを両輪ともかける

7 車いす固定装置からワイヤーを引き出し、車いすの後部フレームにフックをかける (→ P.172)



8 車いす用シートベルトを着用する (→ P.186)

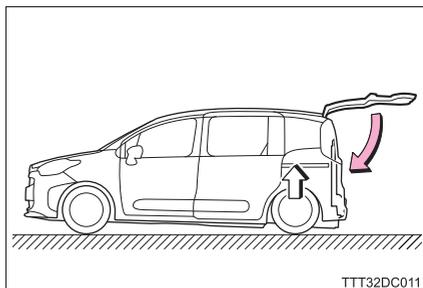
9 スロープを格納する (→ P.88)



10 バックドアを閉める

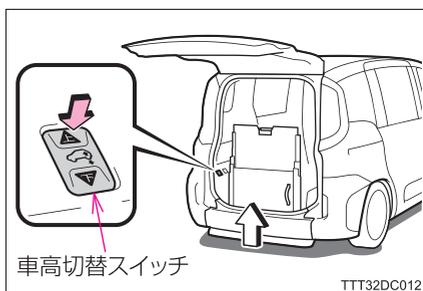
▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを閉めることで車高を自動で復帰させる (→ P.88)



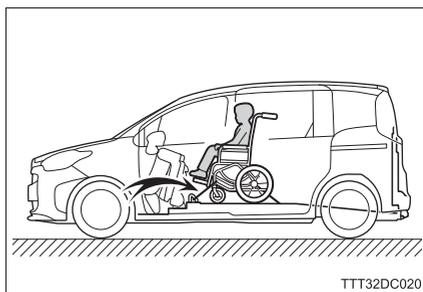
▶ マニュアル車高切替モード

車高切替スイッチの「上」を押し、車高を復帰させてからバックドアを閉める (→ P.89)

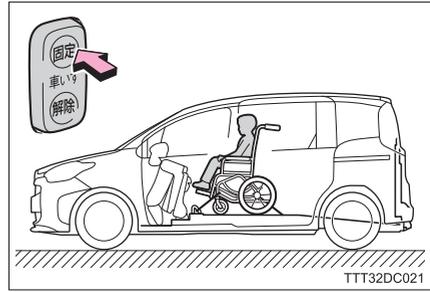


11 車いすの前輪のフレームにフロント固定ベルトの前輪固定フックをかける (→ P.173)

調整ベルトを引っ張り、フロント固定ベルトのたるみをなくします。

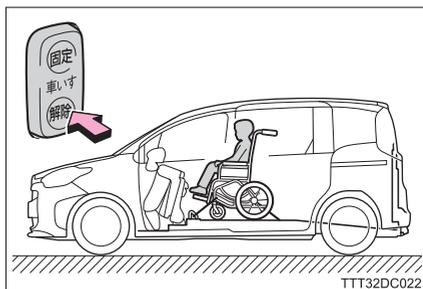


- 12 専用助手席シートの車いす固定装置スイッチの「固定」を押し続け、車いすを固定する
(→ P.174)

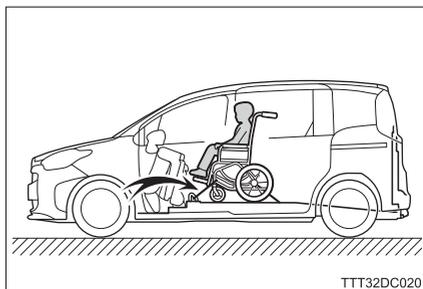


車いすを車外に降ろすときは

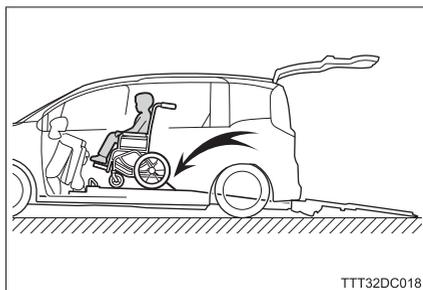
- 1 安全で平坦な場所にエンジンをかけたまま駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする
- 2 専用助手席シートの車いす固定装置スイッチの「解除」を押し続け、車いすの固定を解除する (→ P.175)



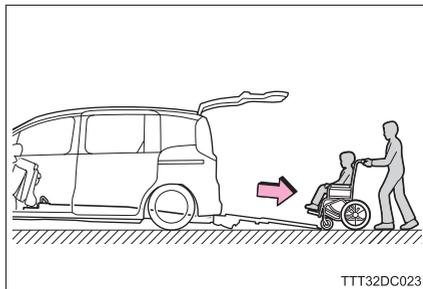
- 3 車いすの前輪のフレームからフロント固定ベルトの前輪固定フックをはずす (→ P.175)



- 4 バックドアを開け、車高を降下させる (バックドア連動車高切替モード→ P.86 / マニュアル車高切替モード→ P.87)
- 5 スロープを展開する (→ P.87)
- 6 車いす用シートベルトをはずす (→ P.189)
- 7 車いすの後部フレームから車いす固定装置のフックを取りはずす (→ P.176)



- 8 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- 9 車いすを車外に降ろす
セーフティベルトは使用しません。



- 10 車いすのブレーキを両輪ともかける
- 11 スロープを格納させる (→ P.88)
- 12 バックドアを閉め、車高を復帰させる (バックドア連動車高切替モード→ P.88 / マニュアル車高切替モード→ P.89)

車高調整およびスロープの展開・格納（タイプ I / タイプ II）

車高降下装置はエアサスペンションにより車両後部の車高を低下させ、車いすの車内外への乗り降りを容易にします。

操作前の確認事項

- 車高降下装置の作動条件を確認してください。（→ P.59）
- パーキングブレーキを確実にかけ、ブレーキペダルを踏まずに操作してください。
ブレーキペダルを踏んだまま操作すると、車高降下・復帰完了しません。

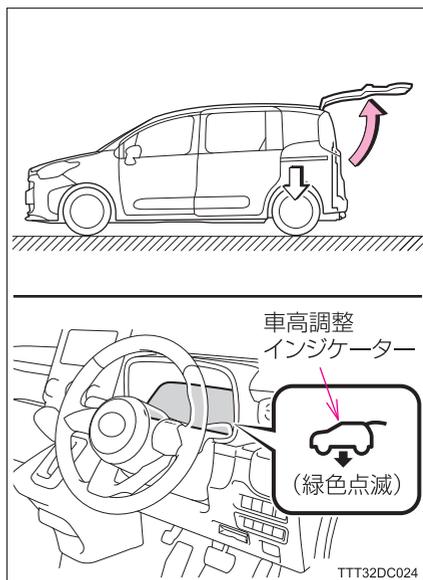
車高降下およびスロープの展開のしかた

1 車高を降下させる

▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを開く

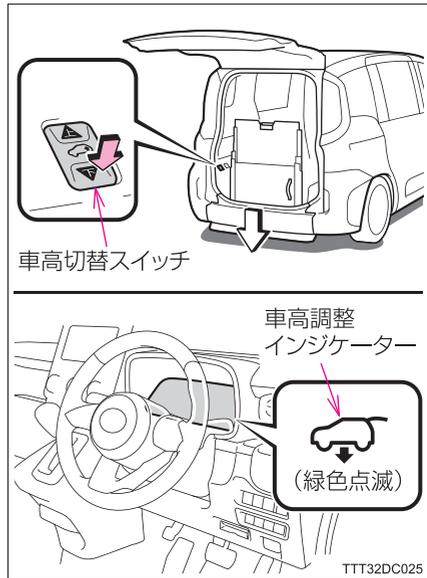
- ・ バックドア連動車高切替モード中は、メーター内の車高調整インジケーターが常時、緑色点灯しています。
- ・ バックドアを開くことで車高が自動的に降下します。
- ・ 車高降下が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅します。
- ・ 車高が下がりきると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。



▶ マニュアル車高切替モード

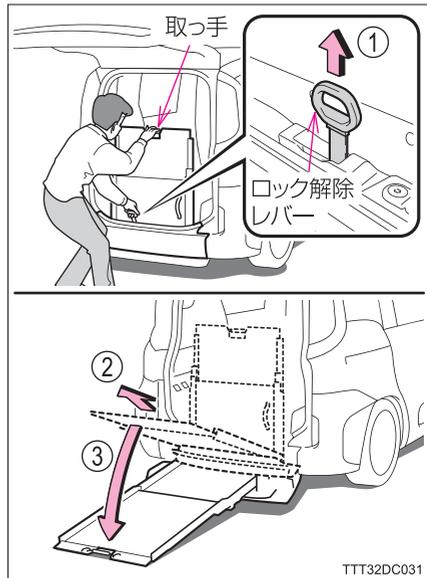
バックドアを開いて、車高切替スイッチの「下」を押し、車高を降下させる

- ・ 車高降下が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅します。
- ・ 車高が下がりきると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。



2 スロープを展開する

- ① スロープ先端の取っ手を片方の手で持ち、もう片方の手でロック解除レバーを引き、スロープのロックを解除する
- ② スロープ先端の取っ手をしっかり持って、スロープを車外へゆっくり引き出す
- ③ スロープをできるだけいっぱいまで引き出したら、静かに接地させる



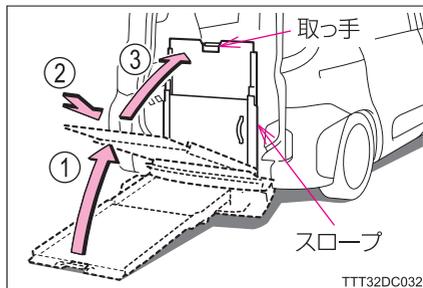
■ 車高降下を途中でやめるときは

不測の事態により、車高降下を途中でやめたいときは、作動途中で車高切替スイッチの「上」を押すと、車高が復帰（上昇）します。再度車高切替スイッチの「下」を押すと、車高が降下します。

スロープの格納および車高復帰のしかた

1 スロープを格納する

- ① スロープ先端の取っ手をしっかり持って、スロープを少し持ち上げる
- ② スロープをいっぱいまで静かに押し込む
- ③ スロープをゆっくり立てて、静かに格納する
 - ・ いっぱいまで格納すると“カチ・カチ”と音がしてロックされます。
 - ・ スロープ先端の取っ手を持って前後にゆすり、確実にロックしていることを確認します。

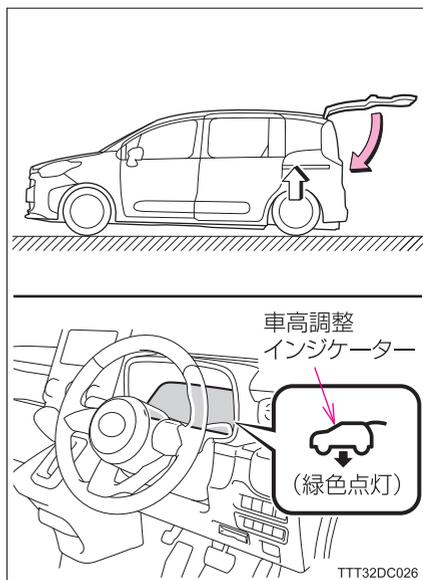


2 車高を復帰させる

▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを閉める

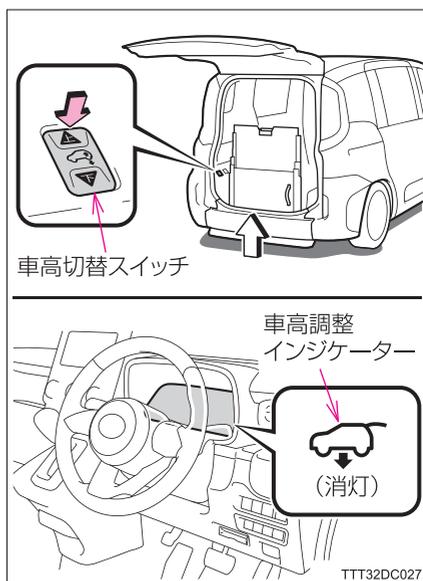
- ・ バックドアを閉めることで車高が自動的に復帰します。
- ・ 車高復帰が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。
- ・ 車高復帰が完了すると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点灯します。
- ・ バックドア連動車高切替モード中は、メーター内の車高調整インジケーターが常時、緑色点灯し続けます。



▶ マニュアル車高切替モード

車高切替スイッチの「上」を押し、
車高復帰させる

- ・ 車高復帰が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。
- ・ 車高復帰が完了すると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが消灯します。



スロープ前倒れ機構

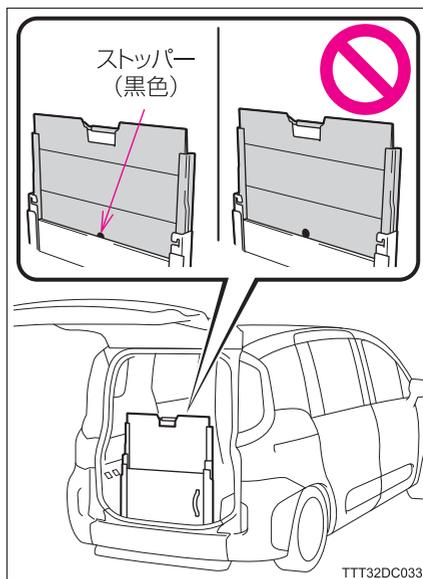
スロープを使用しないときは、スロープを前倒れにすることができます。

■ スロープの前倒れ・もどす操作をする前に

- 1 車両が安全で、平坦な場所に駐車し、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止する
- 2 スロープを格納する
(→ P.88)

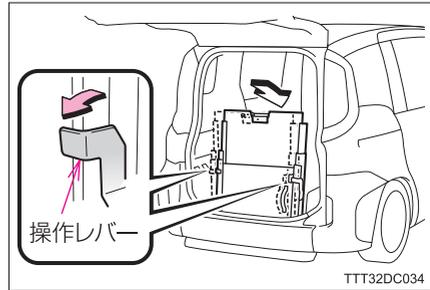
格納後、次のことを確認します。

- ・ スロープ先端の取っ手を持って前後にゆすり、起立位置で確実にロックしていること
- ・ スロープがいっぱいまで押し込まれ、ストッパーが半分くらい隠れた状態になっていること



■ スロープの前倒れのしかた

- 1 スロープ左右の操作レバーを同時に引き、ロックを解除する
スロープが前方に傾きます。

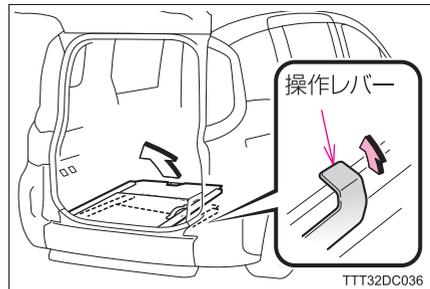


- 2 スロープ中央付近を押し、前方に倒す
“カチッ”と音がするまで倒し、確実にロックさせます。

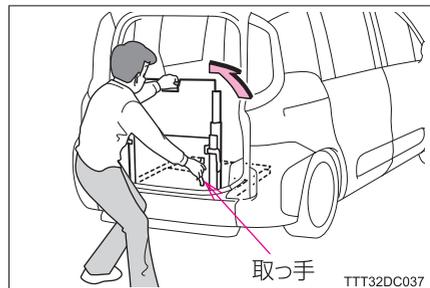


■ スロープの起こし方

- 1 左手でスロープ中央付近を押さえながら、右手でスロープ右側の操作レバーを引き、ロックを解除する
 - ・ 左側の操作レバーは操作しないでください。
 - ・ ロック解除後、スロープから左手を離すとスロープが起き上がりますので、顔や体をスロープに近づけないでください。



- 2 スロープ先端の取っ手と、右側の取っ手を持ち、手前に起こす
 - ・ “カチッ”と音がするまで起こし、確実にロックさせます。
 - ・ 取っ手を持って前後にゆすり、確実にロックしていることを確認します。



 知識

■ 車高復帰忘れ防止機能について

万一、車高復帰を忘れた場合、シフトレバー／シフトポジションをP以外の位置に操作すると、車高が自動復帰します。

■ 車高切替モードについて

▶ バックドア連動車高切替モード

車高切替スイッチが「下」になっているときに、バックドアの開閉により自動で車高が降下・復帰（上昇）します。

- ・ メーター内車高調整インジケータは、車高復帰後に常時緑色点灯します。
- ・ 車いすの乗降が多い場合に向いています。

作動	メーター内車高調整インジケータ
降下・復帰（上昇）中	緑色点滅
復帰完了・標準車高時	緑色点灯

▶ マニュアル車高切替モード

バックドアを開けて、車高切替スイッチを押すことで車高が降下・復帰（上昇）します。

- ・ メーター内車高調整インジケータは、車高復帰後に消灯します。
- ・ 車いすの乗降以外にもご利用する場合に向いています。

作動	メーター内車高調整インジケータ
降下・復帰（上昇）中	緑色点滅
復帰完了・標準車高時	消灯

 知識

■ 車高降下装置について

- ブレーキペダルを踏んだまま車高調整スイッチを押すと、車高降下時は 5 秒間作動後・車高復帰時は 10 秒間作動後に作動を中断します。
- 車高復帰中にブレーキペダルを踏むと、10 秒間作動後に車高復帰を中断します。ブレーキペダルから足を離すと、再開します。
- 車高降下中にブレーキペダルを踏むと、5 秒間作動後に車高降下を中断します。ブレーキペダルから足を離すと、再開します。
- 車高降下・復帰操作を短時間にくり返し（目安として 4 分間に 3 回以上）行うと、エアサスペンションのコンプレッサの過熱防止（保護）のため、しばらく作動しなくなることがあります。
 - ・ エンジンスイッチ ON の状態で 10 分以上待機してから車高切替スイッチを押すと、再度車高降下装置が作動します。
 - ・ 再度車高降下装置が作動しなくなった場合は、エンジンスイッチ ON の状態で 70 分以上待機してから車高切替スイッチを押すと、再度車高降下装置が作動します。
- 氷・雪または石などがボデーに接触していると、車高降下を行っても車高降下速度が遅くなったり、車高降下が完了しないことがあります。この場合、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してから障害物を取り除いてください。
- エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止すると、気温の変化により多少車高が変わることがあります。その場合、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を始動するとともにもどります。
- ガソリン車において、エンジンスイッチ ON（エンジンがかかっていない）状態では、車高降下装置が作動しませんが、異常ではありません。エンジンを始動すると作動します。
- 高度が高く極端に気圧が低いところでは、車高復帰に時間がかかることがあります。異常ではありません。
- 車高復帰時に少し車高が下がってから復帰（上昇）することがありますが異常ではありません。

知識

■ 車高降下装置の作動音について

次のようなときに、エアサスペンションが作動し、車両右側後方からコンプレッサまたはバルブの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- スイッチ操作による車高調整時
車高切替スイッチにより、車高をかえたとき
- オートレベリング機能※による車高調整時
 - ・ 乗員や荷物など積載条件の変化により車高が変わり、車高調整が作動したとき
 - ・ エアサスペンションの温度変化により車高が変わり、車高調整が作動したとき
 - ・ 縁石に乗ったり降りたりして、車高調整が作動したとき
 車高が変化しても、一定時間経過しないと車高降下装置は作動しません。
(作動までの時間は条件によって異なります)

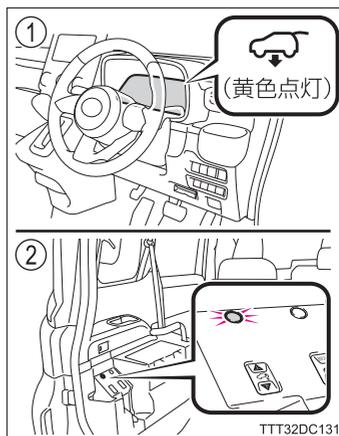
※：乗員の数や荷物などの積載条件が変わっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

■ 車高降下装置のシステムに異常が発生したときは

車高降下・復帰を中断し、次のように異常が発生したことをお知らせします。

- ① メーター内の車高調整インジケーター：黄色点灯
- ② 左リヤデッキサイド部の車高降下装置異常ランプ：黄色点灯

上記の場合は、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。



■ 車高降下装置異常ランプについて

作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかける〈ハイブリッドシステム作動状態〉と消灯しますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

 知識**■ 車高調整インジケーターについて**

バックドア連動車高切替モード時：

作動確認のためにエンジンスイッチを ON またはエンジンをかける〈ハイブリッドシステム作動状態〉と緑色点灯し続けますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

マニュアル車高切替モード時：

作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると緑色点灯し、数秒後またはエンジンをかける〈ハイブリッドシステム作動状態〉と消灯しますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

■ スロープについて

スロープ引き出し部のレールをときどき点検し、石などの異物がつまっていないことを確認してください。異物がつまると、スロープの引き出し・格納ができなくなります。スロープの引き出し・格納がしづらくなったときは、スロープの清掃をしてください。(→ P.194)

■ スロープが起立状態以外でロック解除レバーを操作したときは

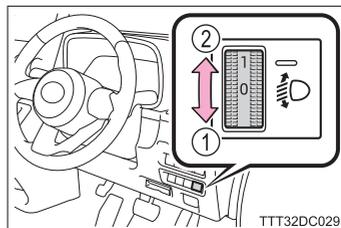
スロープ前倒れまたは前倒れ途中および起こす途中でロック解除レバーを引いてしまった場合、スロープの展開方向のロックが半がかり状態になります。次の操作をし、スロープをロックさせてください。

- ① バンパー部分を前後にゆすり、スロープの展開方向のロックが半がかり状態であることを確認する
- ② スロープ先端の取っ手と、右側の取っ手を持って手前に起こし、ロックさせる(→ P.91)
- ③ スロープ先端の取っ手を持ち、通常の展開・格納操作をする(→ P.86, 88)

■ヘッドランプ光軸切りかえについて（マニュアルレベリング装着車）

ヘッドランプ点灯状態で通行人や対向車がまぶしくないように、手動光軸調整ダイヤルを次のように操作してください。

- ① 車高降下前：手動光軸調整ダイヤルを“5”にし、ヘッドランプの光軸を下げてください。
- ② 車高復帰後：手動光軸調整ダイヤルを“0”にし、ヘッドランプの光軸をもどしてください。

**■ヘッドランプ光軸切りかえ機能（オートレベリング装着車）**

ヘッドランプ点灯状態で車高降下中、通行人や対向車がまぶしくないように、ヘッドランプの光軸を自動で切りかえます。

 **警告****■エアサスペンションについて**

次の状況ではエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。
エンジンがかかった状態〈ハイブリッドシステム作動状態〉だと、オートレベリング機能※により車高が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- タイヤチェーンを装着するとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

※：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

 **警告****■ 車高調整およびスロープを使用するときは**

- 車両周辺・バックドア下側に人がいないこと、車両下側や後輪付近に突起物などが無いことを十分確認してください。
車高降下時、車両後端が大きく下がるため、手足を挟むなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車両を損傷するおそれもあります。
バックドアも車高に合わせて動くため、バックドア端部などで顔や頭を打たないように注意してください。
- 操作前にパーキングブレーキを確実にかけ、車高降下装置作動中はブレーキペダルを踏まないでください。
ブレーキペダルから足を離れたとき、車高が急にかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車高降下中、シフトレバー／シフトポジションをP以外の位置にしないでください。
P以外の位置にすると車高が自動復帰し、転倒するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープを展開したまま車を移動させないでください。
そのまま移動するとスロープが損傷したり、スロープおよびバックドアが車外の人やものにあたると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車高調整および助手席ターンチルトシートを同時に作動させないでください。(助手席ターンチルトシート装着車)
車両後部の車高が下がるため、助手席ターンチルトシートから転落するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープに車いすを載せたときは、車高切替スイッチを押さないでください。
スロープの角度が変わり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **警告****■ 車高調整およびスロープを操作するときは**

- 必ず車高を下げてスロープを使用してください。
車高を下げずに人が乗ったりすると、スロープが急角度になって乗降が困難になったり、スロープが損傷したり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープのロックを解除するときは、必ず片方の手でスロープ先端の取っ手を持ってください。
スロープ先端の取っ手を持たずにスロープのロックを解除すると、スロープが不意に倒れ、けがをすることがあります。
- スロープの引き出し・格納をするときは、必ずスロープ先端の取っ手を持って操作してください。
スロープ先端の取っ手以外の場所を持って操作すると、格納部やレール部で手を挟むなど、けがをすることがあります。
- スロープの引き出し・格納途中で絶対にスロープ先端の取っ手から手を離さないでください。
スロープが落下し、足にあたってけがをしたり、スロープが損傷するおそれがあります。
- スロープの引き出し・格納をするときは、足元に注意しながら行ってください。
スロープと地面のあいだで足を挟んだり、足がスロープにあたってけがをすることがあります。また、つまずいて転倒するおそれがあります。
- スロープを引き出すときは、できるだけいっぱいまで引き出してください。
いっぱいまで引き出さずに使用すると、スロープが急角度になって乗降が困難になったり、路面によっては乗降時スライド部分が動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープ展開後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。

 **警告****■スロープの前倒れ・起こす操作をするときは**

- スロープを前倒れにするときは、スロープを倒す方向に人がいないことを確認してください。
スロープ前倒れ時、スロープが人にあたり、けがをするおそれがあります。
- スロープを前倒れにするときは、スロープ中央付近を押してください。
スロープ両端のレール部などを持つと、手や指を挟むなど、けがをするおそれがあります。
- スロープ前倒れ状態で右側の操作レバーを操作するときは、スロープに顔や体を近付けないでください。
操作レバーを操作してロックが解除されるとスロープが起き上がり、顔や体にあたり、けがをするおそれがあります。
- スロープを起こすときは、必ずスロープ先端の取っ手と、右側の取っ手を持って操作してください。
取っ手以外の場所を持って操作すると、ロック部や可動部で手や指を挟むなど、けがをするおそれがあります。

 注意

■故障・損傷・破損を防ぐために

- 砂利道など凹凸面のある路面では車高降下時、スロープの変形およびバンパー表面を傷付けるおそれがありますのでご注意ください。
- ドアを開けた状態で車高を降下させるときは、ドア下部にドアと接触するおそれがあるようなものがないことを確認してください。
- 長期間にわたって駐車する場合、車高が自然に低下することがあります。（エンジン〈ハイブリッドシステム〉を始動すると、もとにもどります）
長期間にわたって車両を駐車するときは、車高が下がった場合に、ボデーと接触するおそれのあるものがないことを確認してください。
- 高圧洗浄機を使用するときは、エアサスペンション部およびコンプレッサ部に直接水があたらないようにしてください。
水圧が高いため、直接水があたるとエアサスペンション部の部品が破損するおそれがあります。



 **注意****■故障・破損・損傷を防ぐために**

- 車高を下げる前に、スロープが格納されていることを確認してください。
スロープが傷付くおそれがあります。
- スロープ格納時、車内（2 列目位置）で固定した車いすとスロープがあたらないことを確認してください。
スロープを完全に格納することができないため、そのままバックドアを閉めると、スロープとバックドアが傷付くおそれがあります。
- スロープを格納したときは、取っ手を持って前後にゆすり、確実にロックしていることを確認してください。
確実にロックしていないと、走行中異音が発生したり、バックドアにあたり損傷するおそれがあります。
- スロープを前倒れにする前に、スロープ前倒れ方向にもものが置かれていないことを確認してください。
そのままスロープを前倒れにすると、スロープがものにあたり、損傷するおそれがあります。
- スロープを前倒れにする前に、スロープがいっぱいまで押し込まれていることを確認してください。（→ P.90）
いっぱいまで押し込まれていない状態でスロープを前倒れにすると、床面やシートにあたり、損傷するおそれがあります。
- スロープを展開した状態で、操作レバーを操作しないでください。
スロープの変形や、地面との接触によるバンパー傷付きの原因になります。

車高調整およびスロープの展開・格納（タイプⅢ）

車高降下装置はエアサスペンションにより車両後部の車高を低下させ、車いすの車内外への乗り降りを容易にします。

操作前の確認事項

- 車高降下装置の作動条件を確認してください。（→ P.59）
- パーキングブレーキを確実にかけ、ブレーキペダルを踏まずに操作してください。
ブレーキペダルを踏んだまま操作すると、車高降下・復帰完了しません。

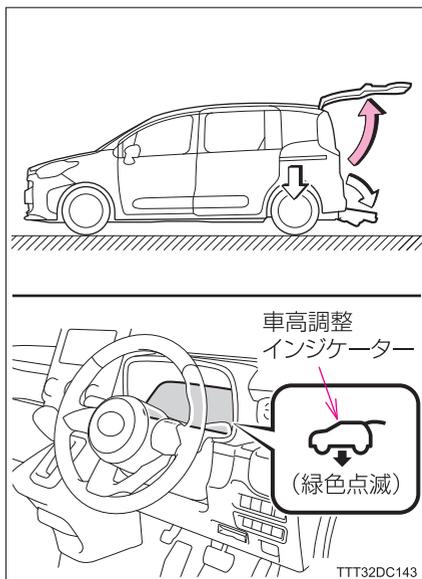
車高降下およびスロープの展開のしかた

1 スロープを展開させ、車高を降下させる

▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを開け、スロープを展開し、車高を降下させる

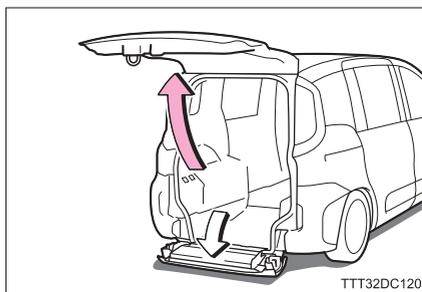
- ・ バックドア連動車高切替モード中は、メーター内の車高調整インジケータが常時、緑色点灯しています。
- ・ バックドアを開くことでスロープが自動で展開されます。
- ・ バックドアを開くことで車高が自動的に降下します。
- ・ 車高降下が始まり、メーター内の車高調整インジケータが緑色点滅します。
- ・ 車高が下がりきると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケータが緑色点滅し続けます。



▶ マニュアル車高切替モード

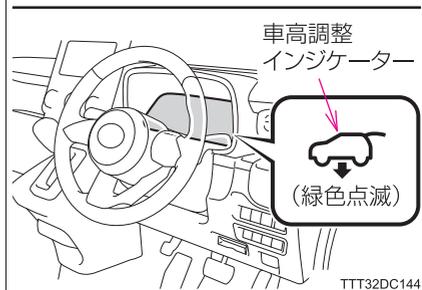
① バックドアを開いて、スロープを展開させる

バックドアを開くことでスロープが自動で展開されます。



② 車高切替スイッチの「下」を押し、車高を降下させる

- ・ 車高降下が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅します。
- ・ 車高が下がりきると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。



■ 車高降下を途中でやめるときは

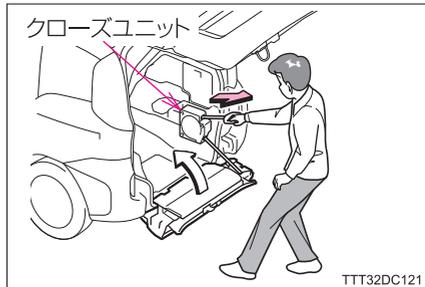
不測の事態により、車高降下を途中でやめたいときは、作動途中で車高切替スイッチの「上」を押すと、車高が復帰（上昇）します。再度車高切替スイッチの「下」を押すと、車高が降下します。

スロープの格納および車高復帰のしかた

1 スロープを格納する

クローズユニットのハンドルを引いて、スロープを格納する

- ・ ゆっくり引くとスロープがロックされない場合があります。
- ・ 前後にゆすり、確実にロックしていることを確認します。
- ・ ロックされていないときは、スロープを再展開し（→P.110）、スロープの格納をやり直してください。

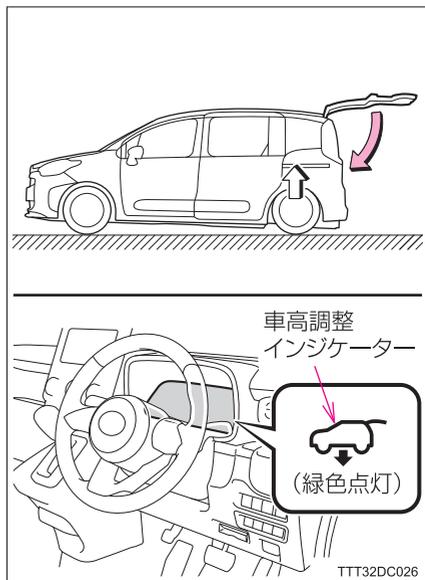


2 車高を復帰させる

▶ バックドア連動車高切替モード

バックドアを閉める

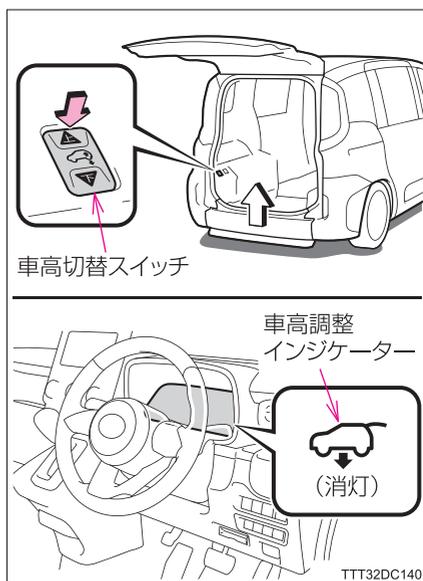
- ・ バックドアを閉めることで車高が自動的に復帰します。
- ・ 車高復帰が始まり、メーター内の車高調整インジケータが緑色点滅し続けます。
- ・ 車高復帰が完了すると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケータが緑色点灯します。
- ・ バックドア連動車高切替モード中は、メーター内の車高調整インジケータが常時、緑色点灯し続けます。



▶ マニュアル車高切替モード

車高切替スイッチの「上」を押し、
車高復帰させる

- ・ 車高復帰が始まり、メーター内の車高調整インジケーターが緑色点滅し続けます。
- ・ 車高復帰が完了すると自動的に停止し、メーター内の車高調整インジケーターが消灯します。



 知識

■ 車高復帰忘れ防止機能について

万一、車高復帰を忘れた場合、シフトレバーをP以外の位置に操作すると、車高が自動復帰します。

■ 車高切替モードについて

▶ バックドア連動車高切替モード

車高切替スイッチが「下」になっているときに、バックドアの開閉により自動で車高が降下・復帰（上昇）します。

- ・メーター内車高調整インジケータは、車高復帰後に常時緑色点灯します。
- ・車いすの乗降が多い場合に向いています。

作動	メーター内車高調整 インジケータ
降下・復帰（上昇）中	緑色点滅
復帰完了・標準車高時	緑色点灯

▶ マニュアル車高切替モード

バックドアを開けて、車高切替スイッチを押すことで車高が降下・復帰（上昇）します。

- ・メーター内車高調整インジケータは、車高復帰後に消灯します。
- ・車いすの乗降以外にもご利用する場合に向いています。

作動	メーター内車高調整 インジケータ
降下・復帰（上昇）中	緑色点滅
復帰完了・標準車高時	消灯

 知識

■ 車高降下装置について

- ブレーキペダルを踏んだまま車高調整スイッチを押すと、車高降下時は 5 秒間作動後・車高復帰時は 10 秒間作動後に作動を中断します。
- 車高復帰中にブレーキペダルを踏むと、10 秒間作動後に車高復帰を中断します。ブレーキペダルから足を離すと、再開します。
- 車高降下中にブレーキペダルを踏むと、5 秒間作動後に車高降下を中断します。ブレーキペダルから足を離すと、再開します。
- 車高降下・復帰操作を短時間にくり返し（目安として 4 分間に 3 回以上）行うと、エアサスペンションのコンプレッサの過熱防止（保護）のため、しばらく作動しなくなることがあります。
 - ・ エンジンスイッチ ON の状態で 10 分以上待機してから車高切替スイッチを押すと、再度車高降下装置が作動します。
 - ・ 再度車高降下装置が作動しなくなった場合は、エンジンスイッチ ON の状態で 70 分以上待機してから車高切替スイッチを押すと、再度車高降下装置が作動します。
- 氷・雪または石などがボデーに接触していると、車高降下を行っても車高降下速度が遅くなったり、車高降下が完了しないことがあります。この場合、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してから障害物を取り除いてください。
- エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止すると、気温の変化により多少車高が変わることがあります。その場合、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を始動するとともにもどります。
- ガソリン車において、エンジンスイッチ ON（エンジンがかかっていない）状態では、車高降下装置が作動しませんが、異常ではありません。エンジンを始動すると作動します。
- 高度が高く極端に気圧が低いところでは、車高復帰に時間がかかることがありますが異常ではありません。
- 車高復帰時に少し車高が下がってから復帰（上昇）することがありますが異常ではありません。

知識

■ 車高降下装置の作動音について

次のようなときに、エアサスペンションが作動し、車両右側後方からコンプレッサまたはバルブの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- スイッチ操作による車高調整時
車高切替スイッチにより、車高をかえたとき
- オートレベリング機能※による車高調整時
 - ・ 乗員や荷物など積載条件の変化により車高が変わり、車高調整が作動したとき
 - ・ エアサスペンションの温度変化により車高が変わり、車高調整が作動したとき
 - ・ 縁石に乗ったり降りたりして、車高調整が作動したとき
 車高が変化しても、一定時間経過しないと車高降下装置は作動しません。
(作動までの時間は条件によって異なります)

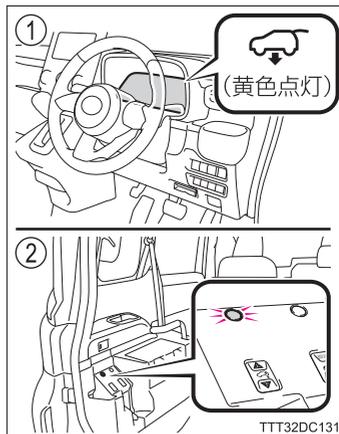
※：乗員の数や荷物などの積載条件が変わっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

■ 車高降下装置のシステムに異常が発生したときは

車高降下・復帰を中断し、次のように異常が発生したことをお知らせします。

- ① メーター内の車高調整インジケーター：黄色点灯
- ② 左リヤデッキサイド部の車高降下装置異常ランプ：黄色点灯

上記の場合は、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。



■ 車高降下装置異常ランプについて

作動確認のためにエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかける〈ハイブリッドシステム作動状態〉と消灯しますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

知識

■ 車高調整インジケータについて

バックドア連動車高切替モード時：

作動確認のためにエンジンスイッチを ON またはエンジンをかける〈ハイブリッドシステム作動状態〉と緑色点灯し続けますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

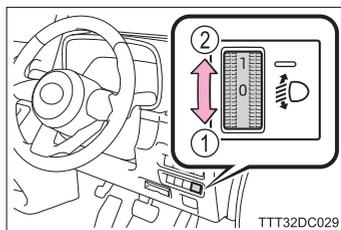
マニュアル車高切替モード時：

作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると緑色点灯し、数秒後またはエンジンをかける〈ハイブリッドシステム作動状態〉と消灯しますが、この場合は車高降下装置の異常ではありません。

■ ヘッドランプ光軸切りかえについて（マニュアルレベリング装着車）

ヘッドランプ点灯状態で通行人や対向車がまぶしくないように、手動光軸調整ダイヤルを次のように操作してください。

- ① 車高降下前：手動光軸調整ダイヤルを“5”にし、ヘッドランプの光軸を下げてください。
- ② 車高復帰後：手動光軸調整ダイヤルを“0”にし、ヘッドランプの光軸をもどしてください。

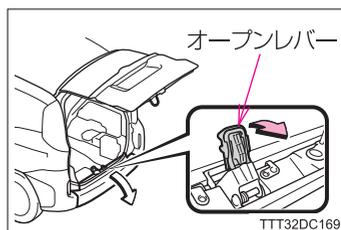


■ ヘッドランプ光軸切りかえ機能（オートレベリング装着車）

ヘッドランプ点灯状態で車高降下中、通行人や対向車がまぶしくないように、ヘッドランプの光軸を自動で切りかえます。

■ スロープ格納後の再展開について

スロープを格納したあとに、再度スロープを展開したいときは、スロープのオープンレバーを車両後方に引くとスロープが展開されます。



■ バックドアが半ドアのときは

バックドアが半ドアになったときにバックドアを動かすとスロープのロックも解除されるため、一度バックドアを全開にしスロープを展開してから、再度スロープを格納しバックドアを閉めてください。

 **警告****■エアサスペンションについて**

次の状況ではエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。
エンジンがかかった状態〈ハイブリッドシステム作動状態〉だと、オートレベリング機能※により車高が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- タイヤチェーンを装着するとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

※：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

 **警告****■ 車高調整およびスロープを使用するときは**

- 車両周辺・バックドア下側に人がいないこと、車両下側や後輪付近に突起物などが無いことを十分確認してください。
車高降下時、車両後端が大きく下がるため、手足を挟むなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、車両を損傷するおそれもあります。
バックドアも車高に合わせて動くため、バックドア端部などで顔や頭を打たないように注意してください。
- 操作前にパーキングブレーキを確実にかけ、車高降下装置作動中はブレーキペダルを踏まないでください。
ブレーキペダルから足を離したとき、車高が急にかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車高降下中、シフトレバーをP以外の位置にしないでください。
P以外の位置にすると車高が自動復帰し、転倒するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープを展開したまま車を移動させないでください。
そのまま移動するとスロープが損傷したり、スロープおよびバックドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スロープに車いすの前輪を載せたときは、車高切替スイッチを押さないでください。
スロープの角度が変わり、車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **注意****■故障・損傷・破損を防ぐために**

- 砂利道など凹凸面のある路面では車高降下時、バンパー表面を傷付けるおそれがありますのでご注意ください。
- ドアを開けた状態で車高を降下させるときは、ドア下部にドアと接触するおそれがあるようなものがないことを確認してください。
- 長期間にわたって駐車する場合、車高が自然に低下することがあります。（エンジン〈ハイブリッドシステム〉を始動すると、もとにもどります）
長期間にわたって車両を駐車するときは、車高が下がった場合に、ボデーと接触するおそれのあるようなものがないことを確認してください。
- 高圧洗浄機を使用するときは、エアサスペンション部およびコンプレッサ部に直接水があたらないようにしてください。
水圧が高いため、直接水があたりエアサスペンション部の部品が破損するおそれがあります。



車いすの車内外への乗降・固定：2列目位置（タイプⅠ／タイプⅡ）

車内に乗車後は、車いす固定装置（2列目用）を使用して車いすを固定します。

装備により操作方法が異なります。お乗りのお車に該当する項目を参照してください。

操作前の確認事項

セーフティベルト★または電動ウインチ★の作動条件を確認してください。（→P.59）

車いすを車内に乗り入れる前に

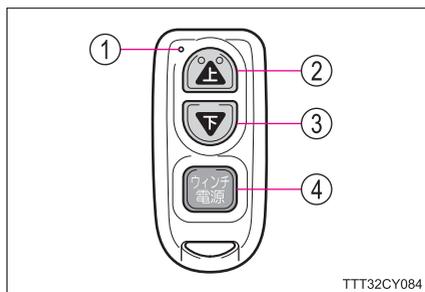
- 1 助手席側セカンドシートが着座状態になっているときは、助手席側セカンドシートを折りたたむ（タイプⅠ “助手席側セカンドシート付” → P.37）
- 2 車いす乗り入れ時、運転席側セカンドシートにあたる場合は、運転席側セカンドシートを折りたたむ（→ P.37）

ワイヤレスリモコン（電動ウインチ装着車）

ワイヤレスリモコンで電動ウインチのベルトの引き出し・巻き上げ操作ができます。

■ 各部の名称

- ① 動作表示 LED
- ② 上スイッチ
- ③ 下スイッチ
- ④ 電源スイッチ



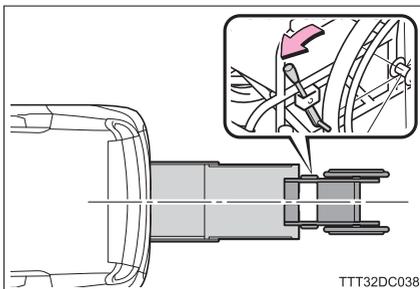
■ 使い方

ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、6秒以内（動作表示LED赤色点灯時）に上スイッチまたは下スイッチを押し続ける（動作表示LED緑色点滅）

車いすを車内に乗り入れ・固定するとき

- 1 車いすをスロープの手前で停止し、車いすのブレーキを両輪ともかける

車いすの中央付近とスロープの中央付近を合わせます。

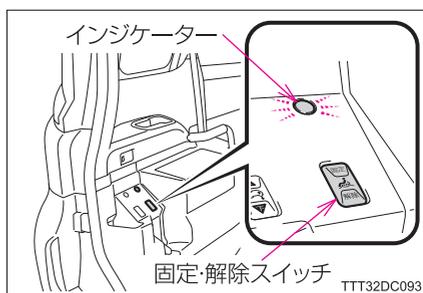


TTT32DC038

- 2 固定・解除スイッチのインジケータの状態を確認する

■ ランプが点滅

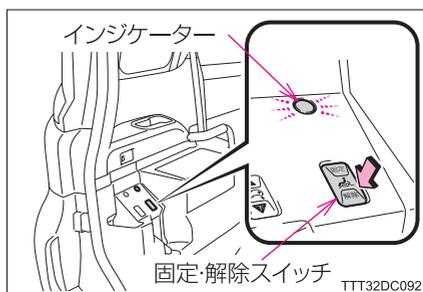
車いすの固定・解除スイッチのインジケータが点滅していることを確認する



TTT32DC093

■ ランプが消灯

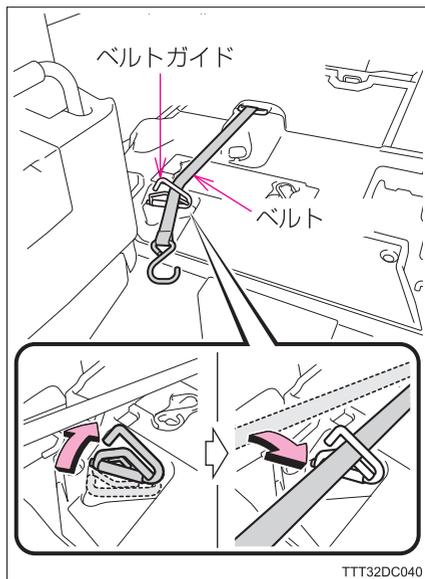
車いすの固定・解除スイッチのインジケータが消灯しているときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する

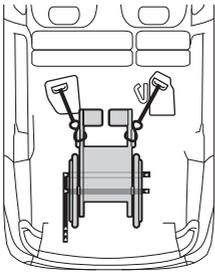
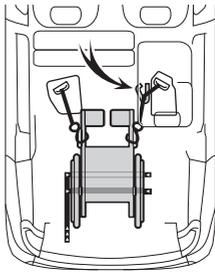
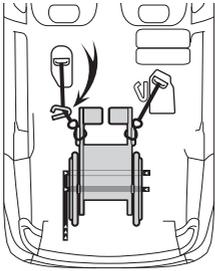
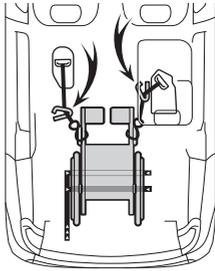


TTT32DC092

- 3 ベルトガイドを起こし、ベルトがねじれないようにベルトガイドに通す

乗車される車いすの種類および運転席側セカンドシートの状態に合ったベルトガイドを使用してください。



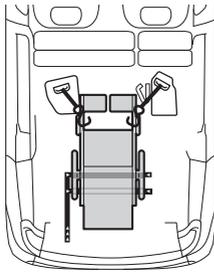
車いすの種類	普通車いす	
		
ガイドの使い方	タイプⅠ	
		
	運転席側セカンドシートを 使用しない場合	運転席側セカンドシートを 使用する場合
	タイプⅡ	
		
運転席側セカンドシートを 使用しない場合	運転席側セカンドシートを 使用する場合	
停止目安	後輪中央が 固定目安線（後）の位置	

車いすの種類

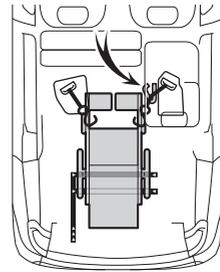
リクライニング機構付車いす



タイプⅠ



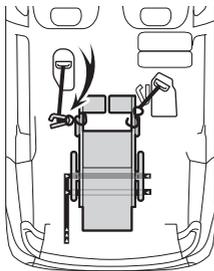
運転席側セカンドシートを
使用しない場合



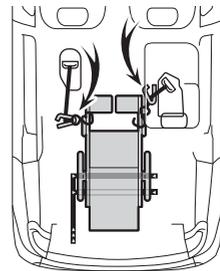
運転席側セカンドシートを
使用する場合

ガイドの使い方

タイプⅡ



運転席側セカンドシートを
使用しない場合

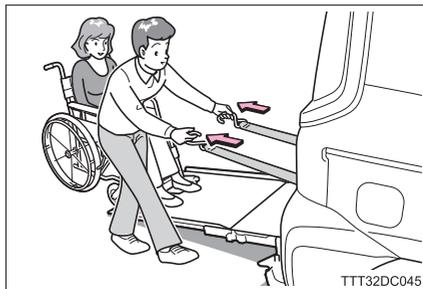


運転席側セカンドシートを
使用する場合

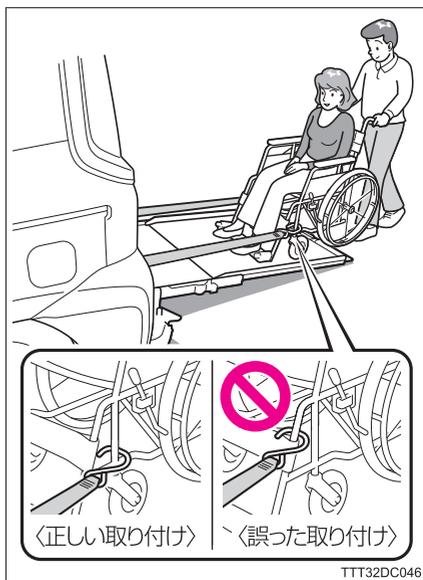
停止目安

後輪中央が
固定目安線（前）の位置

- 4 ベルトのフックを持ち、手でベルトを引き出しながら、車いすに近づく
ベルトがねじれないように引き出します。



- 5 ベルトにねじれがない状態で、車いすの前輪上部のフレーム接合部にフックをかける

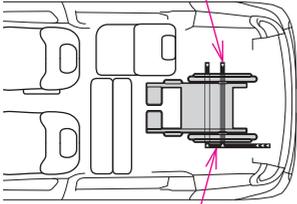
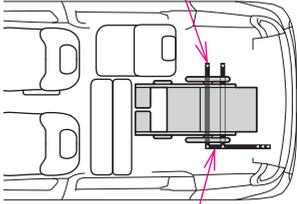


- 6 スロープが確実に接地していることを確認し、車いすのブレーキを両輪とも解除する

7 車いすを車内に乗り入れる

▶ セーフティベルト装着車

- ・ 床面の車いす誘導線に車いす左後輪を合わせながら、車内に乗り入れます。
- ・ 車いす乗車の方の足や車いすが他のシートにあたらないよう、注意しながら行います。
- ・ セーフティベルトは車いすを車内に乗り入ると、自動的に巻き取られます。
- ・ セーフティベルトが巻き取られ始めると、固定・解除スイッチインジケータが消灯し、後退防止機能が作動します。

普通車いす	リクライニング機構付車いす
<p>車いす固定目安線(後)</p>  <p>車いす誘導線</p>	<p>車いす固定目安線(前)</p>  <p>車いす誘導線</p>
<p>車いす固定目安線(後)と車いすの後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>	<p>車いす固定目安線(前)と車いすの後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>

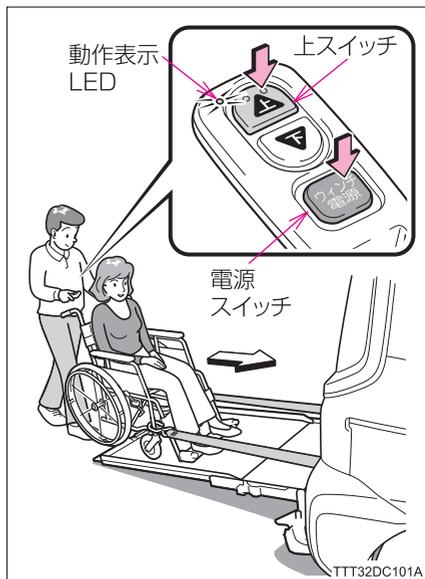
▶ 電動ウインチ装着車

- ① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中（6秒以内）に上スイッチを押し続ける

動作表示LEDが緑色点滅し、電動ウインチのベルトが巻き取られます。

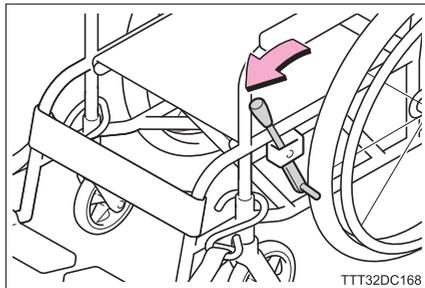
- ② ベルトを巻き取りながら、床面の車いす誘導線に車いす左後輪を合わせながら、車内に乗り入れる

- ・ 車いす誘導線に合わせた位置に乗り入れないと、電動ウインチのベルトが車いす乗車の方の足やフットレストに引っかかる場合があります。
- ・ 車いす乗車の方の足や車いすが他のシートにあたらぬよう、注意しながら行います。
- ・ ベルトが巻き取られ始めると、固定・解除スイッチインジケータが消灯します。



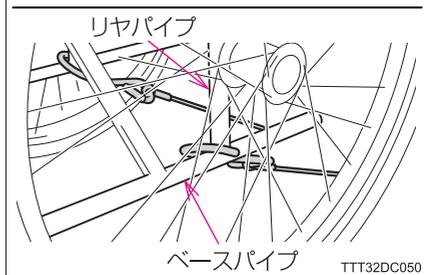
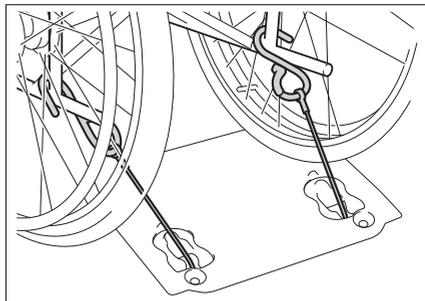
普通車いす	リクライニング機構付車いす
<p>車いす固定目安線(後)</p> <p>車いす誘導線</p>	<p>車いす固定目安線(前)</p> <p>車いす誘導線</p>
<p>車いす固定目安線（後）と車いすの後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>	<p>車いす固定目安線（前）と車いすの後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>

- 8 車いすのブレーキを両輪ともかける



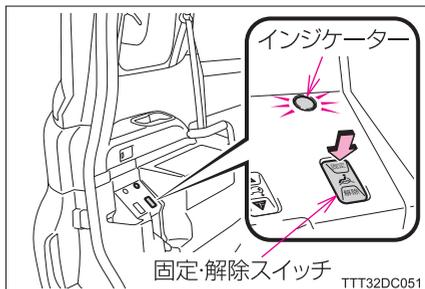
- 9 車いす固定装置のフックを床面の固定部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける

- ・ リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。
- ・ ワイヤーにたるみが出ないようにします。



- 10 固定・解除スイッチの「固定」ボタンを押し、車いすを固定する

- ・ 「固定」ボタンを押すと車いす固定装置フック(うしろ側)、セーフティベルト/電動ウインチ(前側)の順に巻き取り固定します。
- ・ 車いすが固定されると、インジケータが点灯します。インジケータが点灯したことを確認してください。



- 11 車いすを前後にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、車いすが確実に固定されていることを確認する



以上で車いすの車内への乗り入れ・固定は完了です。次に車いす用シートベルトを着用します。(→ P.183)

■ 車いすを固定後に車いすの位置を直したい場合

車いすの後輪やハンドルがスロープやバックドアにあたるなど車いすの固定が不十分で位置を直したい場合は、次の手順で固定をやり直してください。

▶ 車いすを前に動かす場合

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を1回押し、車いすの固定を解除する
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ 車いすを所定の位置まで動かす
- ⑤ P.123の⑨からの操作を行う

▶ 車いすをうしろに動かす場合

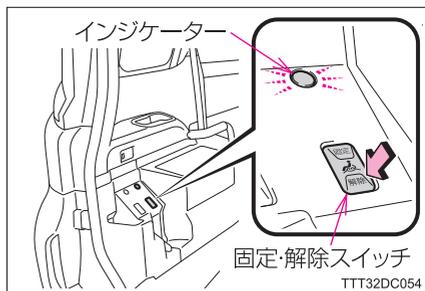
- ① 固定・解除スイッチの「解除」を2回押し、車いすの固定を解除し、ベルトフリーモードにする
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ 車いすを車外に降ろす
- ⑤ 再度車いすを車内の所定の位置までに乗り入れる
- ⑥ P.123の⑨からの操作を行う

車いすの固定解除および車外に降ろすときは

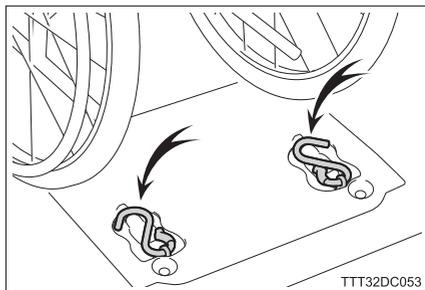
1 車いす用シートベルトがはずしてあることを確認する (→ P.188)

2 固定・解除スイッチの「解除」を押してインジケータが点滅し、ワイヤーが完全にゆるむのを確認する

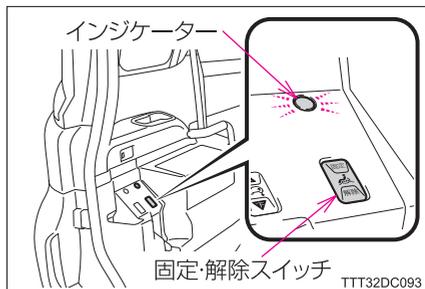
3 車いす固定装置のフックを車いすの後部フレームから取りはずす



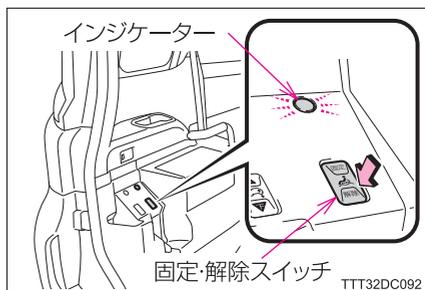
4 取りはずしたフックは床面の固定部に挿し込みます



5 固定・解除スイッチのインジケータが点滅していることを確認する



固定・解除スイッチのインジケータが点滅していないときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する



6 車いすのブレーキを両輪とも解除する

7 車いすを車外に降ろす

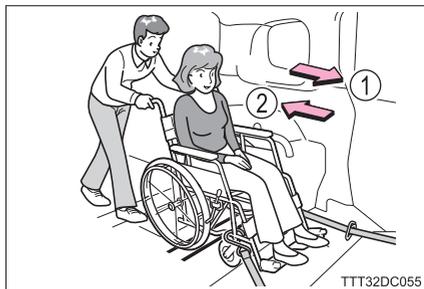
▶ セーフティベルト装着車

① 車いすを少し前に押す

インジケータが点滅していない状態で車いすを少し前に押すとベルトが巻き取られます。

② 車いすを後退させる

- ・ セーフティベルトのフックを付けたまま車外に降ろします。
- ・ 後退防止作動を解除しているため、介助の方は車いすのハンドルをしっかりと持ってください。



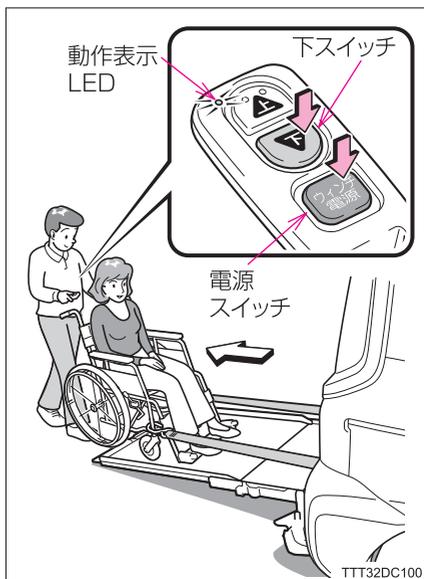
TTT32DC055

▶ 電動ウインチ装着車

① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中（6秒以内）に下スイッチを押し続ける

- ・ 動作表示LEDが緑色点滅し、電動ウインチのベルトが引き出されます。
- ・ 電動ウインチのベルトが引き出せないときは、P.132の知識「**■**電動ウインチのベルトが引き出せないときは」を参照してください。

② 車いすのハンドルをしっかりと持ち、ベルトを引き出しながら、車いすをスロープ外まで降ろしたら、スイッチから指を離す



TTT32DC100

8 車いすのブレーキを両輪ともかける

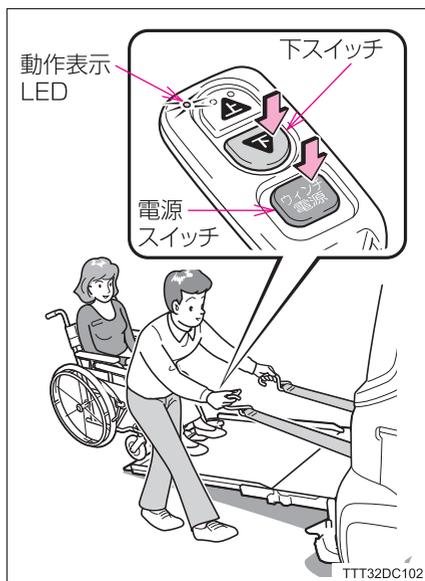
9 ベルトのフックを手にとって車いすの前部フレームから取りはずす

▶ セーフティベルト装着車

フックを片方ずつ、車いすの前部フレームから取りはずす

▶ 電動ウインチ装着車

ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中（6秒以内）に下スイッチを押し続け、フックを片方ずつ、車いすの前部フレームから取りはずす



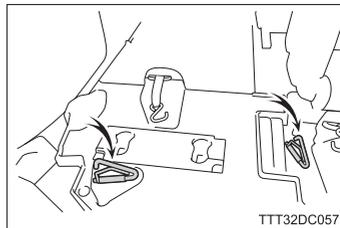
10 ベルトがねじれないように最後まで手を添えて巻き取る

車いすのベルトは、仮置きバンドに引っかけておくこともできます。(→ P.128)

知識

■ ベルトを使用しないときは

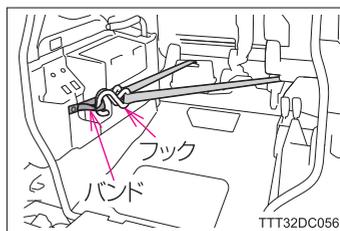
ベルトをベルトガイドからはずし、ベルトガイドを車両後方に倒す



■ 車いすのベルト・フックについて

車いすのセーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを取りはずしたあと、仮置きバンドに引っかけておくと、次に車いすを車内に乗り入れるとき、車内に入らずにベルト・フックを取り出すことができます。

使用するときは、左右のフックを引っかけて、使用してください。



■ 固定・解除スイッチについて

固定・解除スイッチは、何も操作しない状態が4分以上続くと、インジケーターが消灯し、巻き取りモード状態に切りかわります。

■ 固定・解除スイッチのインジケーターが高速点滅したときは

固定装置の異常を示しています。すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

■ ベルトについて

- セーフティベルト★または電動ウインチ★がねじれていないことを確認してください。ベルトがねじれていると巻き取り不良になり、車いすを完全に車内に入れることができません。
- セーフティベルト★または電動ウインチ★を使用する前にベルトの点検をし、ベルトにほつれ・すり切れや折れる癖ができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ベルトが汚れるとベルトのもどりが悪くなることがあります。ベルトのもどりが悪くなったときは、ベルトの清掃をしてください。(→ P.196)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 後退防止作動について（セーフティベルト装着車）

セーフティベルトはベルトフリーモード以外のとき、常に後退防止状態を保持します。（作動条件→P.59）

作動条件	固定・解除スイッチ インジケータ	作動モード
すべて満たす	点滅	ベルトフリー
	消灯	後退防止作動
1 つでも満たさない		

■ 車いすの上手な乗車・降車方法のポイント（セーフティベルト装着車）

お使いになっている車いすのタイプによっては、車いす乗車後、車いすとスロープ（スロープを格納した状態）やバックドアなどがあたる場合があります。このような場合は、次の確認および操作をしてください。

車いすとスロープやバックドアなどがあたる
<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすが左右傾いて固定されていませんか？ ● 乗車時に乗り入れ位置（→P.121, 122）まで車いすを乗り込ませましたか？（車いすの種類により、乗り入れ位置が異なります）
車いすがうしろに下がってしまう
<ul style="list-style-type: none"> ● 固定・解除スイッチのインジケータは消灯していますか？ ● 車いすのブレーキは両輪ともかかっていますか？

降車時にセーフティベルトの後退防止作動が解除できないときは、車いすを少し前に出す、または車いすの後輪を少し持ち上げるなど、ベルトを少しゆるめます。

知識

■ 電動ウインチの作動モードについて（電動ウインチ装着車）

- 電動ウインチはベルトフリーモード以外のおとき、常に後退防止状態を保持します。
- 固定・解除スイッチのインジケーター点滅（ベルトフリーモード）時であっても、ワイヤレスリモコンを操作すると、インジケーターが自動的に消灯（ウインチ作動モード）に切りかわります。（作動条件→ P.59）

作動条件	固定・解除スイッチ インジケーター	作動モード
すべて満たす	点滅	ベルトフリー
	消灯	ウインチ作動
1 つでも満たさない	消灯	後退防止作動

■ ワイヤレスリモコンの作動条件について（電動ウインチ装着車）

- ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能範囲がかわることがあります。
- 周囲の電波状態により、上スイッチまたは下スイッチを押しても電動ウインチが作動しなくなることがあります。そのときはワイヤレスリモコンでの操作位置をかえて操作してください。その際、スイッチは押し直してください。押し続けたまま操作位置をかえても電動ウインチは作動しません。

■ ワイヤレスリモコンについて（電動ウインチ装着車）

- 電源スイッチを押してから 6 秒以内（動作表示 LED が赤色点灯中）に上スイッチまたは下スイッチを押さないと、自動的に電源が切れます。（動作表示 LED 消灯）
- 上スイッチまたは下スイッチを押すと、電源はスイッチから指を離した時点より 6 秒延長します。
- 電動ウインチ作動中に上スイッチまたは下スイッチから指を離すと、電動ウインチの作動は停止します。
- 電動ウインチは上スイッチまたは下スイッチを断続的に押しても電動ウインチは作動しません。
- 複数のスイッチを同時に押すと、電動ウインチは作動しません。
- ワイヤレスリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。
 - ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - ・ 必ず日本国内でご使用ください。

知識

- ワイヤレスリモコンの送信機または受信機のどちらかのみを交換したときは、ID コードを登録する必要があります。登録はトヨタ販売店にお申し付けください。

■ ワイヤレスリモコンの電池について（電動ウインチ装着車）

- 電池寿命は約 1 年間です（1 回の操作時間を 30 秒、1 日の操作回数を 20 回で計算した場合）。ただし、電池寿命は実際の使用状況によって変わります。
- ワイヤレスリモコンを操作しても電動ウインチが作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、または動作表示 LED が点灯しなくなったり、点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。電池はお客様自身で交換できます。（→ P.205）

■ 航空機に乗るときは（電動ウインチ装着車）

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 参考：電動ウインチ性能について※（電動ウインチ装着車）

作動時間	条件
30 秒	負荷荷重 0.8kN {80kgf}

※：エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉

 知識**■ 電動ウインチのベルトが引き出せないときは（電動ウインチ装着車）**

- 電動ウインチのベルトを手動で引き出す際、固定・解除スイッチを押し、ベルトフリーモードにしても、まれにベルトが引き出せないことがあります。このときはベルトに力が加わっていない状態で再度固定・解除スイッチを押し、ベルトフリーモードにするとベルトが引き出せます。再度操作をしてもベルトが引き出せないときはトヨタ販売店に連絡してください。
- 車いすを車内に乗り入れた際、車いすの後輪を持ち上げるなどにより、電動ウインチのベルトが過剰に巻き取られた場合、車いすを車外に降ろすときにベルトが引き出せなくなることがあります。このときは車いすを少し前に出す、または車いすの後輪を少し持ち上げるなど、ベルトを少しゆるめた状態でワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してから下スイッチを押すと、ベルトが引き出せます。

■ ベルトガイドについて

車いすを車内に乗り入れるときは、車いすの種類および運転席側セカンドシートの状態に合ったベルトガイドを使用してください（→ P.118）。正しく使用しないと固定が不十分になったり、他の部品が損傷するおそれがあります。

■ ワイヤーについて

- 車いす乗り入れ前にワイヤーの点検をし、ワイヤーにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ワイヤーが汚れるとワイヤーのもどりが悪くなることがあります。ワイヤーのもどりが悪くなったときは、ワイヤーの清掃をしてください。（→ P.197）

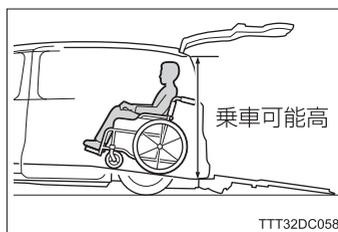
 **警告****■ 車いす仕様車（スロープタイプ）の操作をするときは**

- 操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。
 - ・ 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 急に車いすの乗降を行うと、車いすが転倒するおそれがあり危険です。（車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください）
 - ・ 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まれないように注意してください。
- 風の強い場所や風雨の強い日、また降雨時や降雪時など悪天候のときはスロープがすべりやすいので注意してください。
- スロープ表面がぬれている状態で車いすをスロープに乗り入れないでください。
スロープ表面がぬれているとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。
- 介助の方は、車いすに乗車されている方の手や足が車いすの内側にあることを確認してください。
車内の部品やシートで手や足を挟み、けがをするおそれがあります。
- 介助の方が車いすから離れるとき（ベルトのフックの脱着時や固定・解除スイッチ操作時など）は、車いすのブレーキを両輪とも確実にかけてください。車いすのブレーキを両輪ともかけずに車いすから離れると、車いすが自重で後退するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■ 車いすの車内外への乗降操作をするときは

- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通過してください。中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
傾斜したスロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。
- スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- スロープに車いすを乗せたときは、不要なスイッチ類を押ししたり、シフトレバー／シフトポジションをP以外の位置にしないでください。
装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 車高調整スイッチの「上」を押すと、スロープの角度が変わり、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 固定・解除スイッチを押し、インジケータが点滅（ベルトフリーモードに移行）すると、後退防止作動が解除され、車いすがスロープから滑り落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ シフトレバー／シフトポジションをP以外の位置にすると、車高が自動復帰するため、スロープの角度が変わり、車いすが転落するおそれがあり危険です。
- 車内外に乗降するときは、バックドア・ドア開口部および天井に頭をぶつけないように注意してください。
(乗車可能高：1300mm)
スロープに車いすを乗り入れるときや乗り入れ後に車外へ出る（もどる）とき、頭上の注意がおろそかになりやすいので、バックドア端部やバックドア開口部に注意してください。
- 車いすを勢いよく押し込まないでください。
車いす乗車の方がシートや車内の部品にあたり、けがをするおそれがあります。



 **警告**

- 車いすは必ず所定の位置まで乗り入れてください。(→ P.121, 122)
車いすが所定の位置まで乗り入れていないと、正しく固定できない場合があります。
 - ・ 乗り入れ位置が前すぎると、車いす乗車の方の足がセカンドシートにあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 乗り入れ位置がうしろすぎると、車いすがスロープにあたり、スロープを完全に格納することができません。そのままバックドアを閉めると、スロープとバックドアが傷つくおそれがあります。
- 車いすを車内に乗り入れたときは、セーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを車いすの前部フレームから取りはずさないでください。
セーフティベルト★または電動ウインチ★は車いす前側の固定装置として使用します。セーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを車いすの前部フレームから取りはずした状態では車いすが固定されず、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすを車外に降ろすときは、車いすのブレーキは介助の方が解除し、車いすが不意に動き出さないよう、介助の方がしっかり支えてください。
しっかり支えていないと、車いすのブレーキが解除されたとたん、車いすが動き出し、スロープからすべり落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- セーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを車いすから取りはずすときは、手に持ってゆっくりと行ってください。
フックから急に手を離すと、ベルトが勢いよく巻き取られ、けがをするおそれがあります。
- ベルトガイドを使用しないときは、ベルトガイドを必ず車両後方に倒してください。
ベルトガイドを立てたままにしておくと、車内を移動するときにつまずいて転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。(→ P.128)

警告**■ 車いすの車内外への乗降操作をするときは（セーフティベルト装着車）**

車いすを車外に降ろすときは、固定・解除スイッチを押す前に車いすのブレーキを解除しないでください。

先に車いすのブレーキを解除すると、固定・解除スイッチの「解除」を押して、ベルトフリーにされたらたん、車いすが動いて重大な事故につながるおそれがあります。

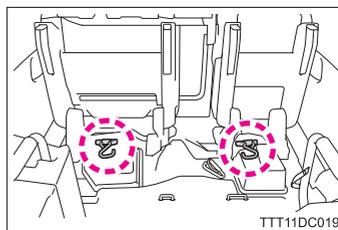
■ 電動ウインチを使用するときは（電動ウインチ装着車）

● 電動ウインチは車いすの車内外への乗り降り専用です。電動ウインチを使用して人やものを引き上げないでください。

電動ウインチの故障やベルトの損傷につながったり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあります。

● 電動ウインチ作動時、ベルトやベルト巻き取り部にふれないでください。ベルトの巻き取り不良やベルト巻き取り部に手などを巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。

○：ベルト巻き取り部



 **警告****■ 車いすの車内外への乗降操作をするときは（電動ウインチ装着車）**

電動ウインチを使用して車いすを車内外に乗降するときは、介助の方は必ず車いすのうしろで操作し、車いすのハンドルをしっかり支えながら乗り入れてください。

車いすを車内に乗り入れるとき、車いすのハンドルをしっかり支えていないと、車いすの前輪が停止後、前のめりになることがあります。お子さまや体重の軽い方が車いすに乗車されているときは、特に注意してください。（電動ウインチは車いすの乗降を補助するためのものであり、自動で乗降するための装置ではありません）

■ 電波がおよぼす影響について（電動ウインチ装着車）

医療用電気機器（以下を除く）を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

- 植込み型心臓ペースメーカー
- 植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ
- 植込み型除細動器

 **警告**
■ 車いすを固定するときは

- 車いすを固定する前に、セーフティベルト★または電動ウインチ★が車いす乗車の方の足や車いすのフットレストに引っかかっていることを確認してください。
そのまま車いすを固定すると、車いす乗車の方がけがをしたり、車いすの固定が不十分になり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- フックを扱うときは、フックをしっかりと持ってください。
車いす固定装置ワイヤーは自動巻き取り式のため、しっかり持たないとフックおよびワイヤーが手などにあたり、けがをするおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすのフレームに脱着するときは、フックとフレームとのあいだで指などを挟まないよう注意してください。
- 車いすを固定したときは、車いすを前後にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。
固定がはずれると走行中に車いす動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - ・ 固定を確認しているときに、車いすとフックとのあいだで手を挟まないように注意してください。
 - ・ ワイヤーにねじれがないことを確認してください。ワイヤーがねじれていると十分に固定できない場合があります。
 - ・ 車いすの固定が不十分なときは、車いすの固定位置およびフックを引っかける位置を確認後、固定・解除スイッチの「解除」を押し、操作をやり直してください。
 - ・ 車いすが所定の位置よりずれたときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、操作をやり直してください。(→ P.124)
 - ・ 固定・解除スイッチの「固定」を押しても車いす固定装置が作動しないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 車いす固定装置のフックを取りはずしたときは、必ずフックを床面の固定部にもどしてください。
フックを放置したままだと車いすを車外に降ろすとき、介助の方が足を引っかけたり、車いすにフックが引っかかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車いす固定装置使用中、ワイヤーが傷付いたりほつれたりした場合は、すぐにトヨタ販売店でワイヤーの交換を行ってください。
そのまま使い続けると、走行中に車いすの固定がはずれ、車いす乗車の方が転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ 車内を移動するときは

→ P.21

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■故障・破損を防ぐために**

- バックドアを閉めるときは、スロープが確実に格納されていることを確認してください。
バックドアおよびスロープが破損するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを床面の固定部に収納したまま、固定・解除スイッチの「固定」を押さないでください。
車いす固定装置が故障するおそれがあります。
- 車いすに車いす固定装置のフックを引っかけるときは、フックのワイヤーにねじれがないことを確認してください。
ワイヤーが損傷するおそれがあります。
- 固定装置のフックを戻す時は、シートロック用ストライカや周辺部品に引っかかっていないことを確認してください。
そのまま使用するとシートロックや周辺部品が損傷するおそれがあります。

■故障・破損を防ぐために（電動ウインチ装着車）

- 断続的にワイヤレスリモコンの上スイッチまたは下スイッチを押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。（断続的にスイッチを押しても電動ウインチは作動しません）
- 電動ウインチのベルトの巻き取りができない状態（ベルトが車内のものに引っかかって動かない、ベルトがねじれて巻き取れない場合など）のときは、ワイヤレスリモコンの上スイッチを押し続けしないでください。
故障の原因になります。ベルトの巻き取りができないときは、ワイヤレスリモコンの下スイッチを押し続けて少しベルトを引き出してから、障害物やベルトのねじれなどを取り除き、再度ワイヤレスリモコンの電源を入れ、上スイッチを押し続けて巻き取ってください。
- ワイヤレスリモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない
 - ・ 分解しない
 - ・ 落としたり、踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲料水などをこぼしたり、水たまりなど、水中に落させない（防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください）
- ワイヤレスリモコンの清掃にシンナー・ガソリン・ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

車いすの車内外への乗降・固定：2列目位置（タイプⅢ）

車内に乗車後は、車いす固定装置（2列目用）を使用して車いすを固定します。

装備により操作方法が異なります。お乗りのお車に該当する項目を参照してください。

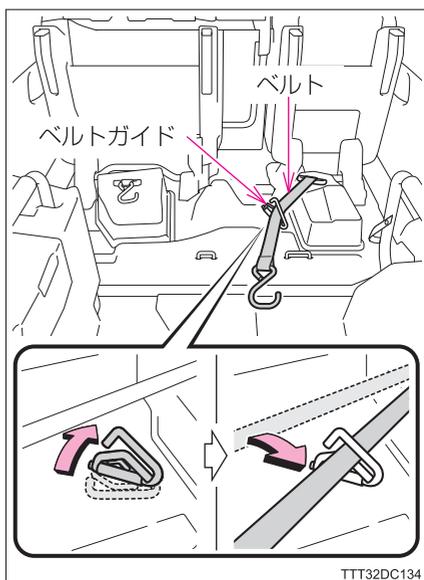
操作前の確認事項

セーフティベルト★または電動ウインチ★の作動条件を確認してください。（→P.59）

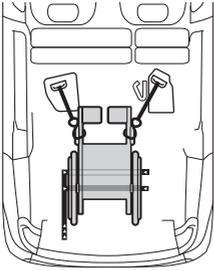
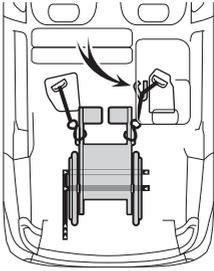
車いすを車内に乗り入れる前に

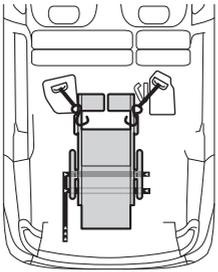
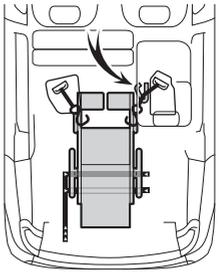
- 1 助手席側セカンドシートが着座状態になっているときは、助手席側セカンドシートを折りたたむ（“ショートスロープ・助手席側セカンドシート付” → P.37）
- 2 車いす乗り入れ時、運転席側セカンドシートにあたる場合は、運転席側セカンドシートを折りたたむ（→ P.37）
- 3 ベルトガイドを使用する場合は、ベルトガイドを起し、ベルトがねじれないようにベルトガイドに通す

乗車される車いすの種類および運転席側セカンドシートの状態に合ったベルトガイドを使用してください。

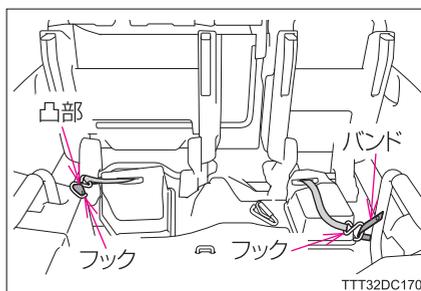


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車いすの種類	普通車いす	
		
ガイドの使い方	 <p data-bbox="244 724 533 786">運転席側セカンドシートを 使用しない場合</p>	 <p data-bbox="652 724 941 786">運転席側セカンドシートを 使用する場合</p>
	<p data-bbox="460 836 725 898">後輪中央が 固定目安線（後）の位置</p>	

車いすの種類	リクライニング機構付車いす	
ガイドの使い方	 <p data-bbox="240 726 537 790">運転席側セカンドシートを使用しない場合</p>	 <p data-bbox="649 726 946 790">運転席側セカンドシートを使用する場合</p>
停止目安	<p data-bbox="459 837 728 901">後輪中央が 固定目安線（前）の位置</p>	

- 4 セーフティベルトのフックを仮置きバンドおよび凸部に引っかける（セーフティベルト装着車）

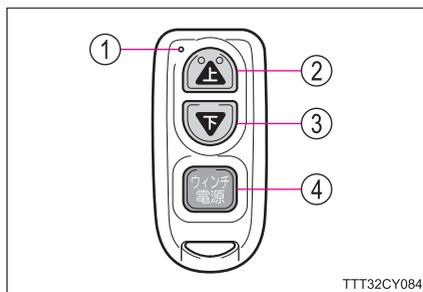


ワイヤレスリモコン（電動ウインチ装着車）

ワイヤレスリモコンで電動ウインチのベルトの引き出し・巻き上げ操作ができます。

■ 各部の名称

- ① 動作表示 LED
- ② 上スイッチ
- ③ 下スイッチ
- ④ 電源スイッチ

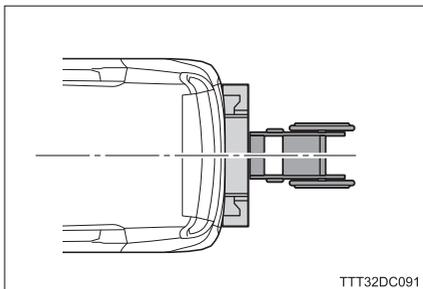


■ 使い方

ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、6秒以内（動作表示LED赤色点灯時）に上スイッチまたは下スイッチを押し続ける（動作表示LED緑色点滅）

車いすを車内に乗り入れ・固定するときは（セーフティベルト装着車）

- 1 車いすの中央付近とスロープの中央付近を合わせて停止する

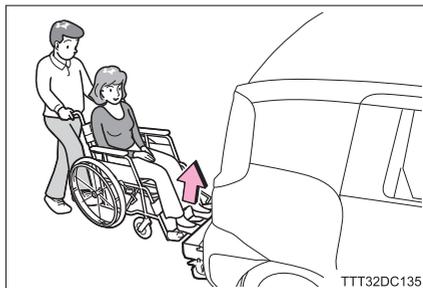


TTT32DC091

- 2 車いすを車内に乗り入れる

- ① 車いすの前輪を浮かし、スロープに前輪を載せる

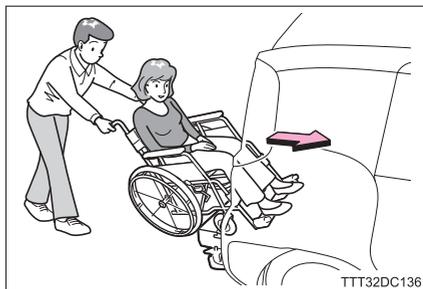
車いす乗車の方の足がスロープにあたらないよう、注意しながら行います。



TTT32DC135

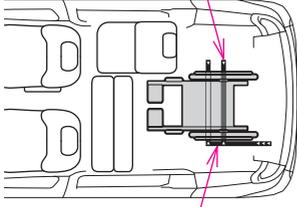
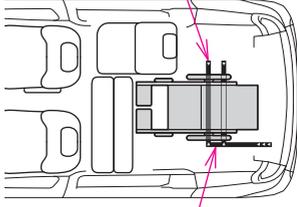
- ② 車いすの後輪をスロープに押し当てながら後輪を持ち上げ車内に乗り入れる

- ・床面の車いす誘導線に車いす左後輪を合わせながら、車内に乗り入れます。
- ・車いすの後輪がスロープから離れないように注意しながら行います。
- ・車いす乗車の方の足や車いすが他のシートにあたらないよう、注意しながら行います。
- ・介助の方の足がスロープにあたったり、踏みはずさないよう、注意しながら行います。
- ・介助の方は、車いすから手を離さないよう、注意しながら行います。

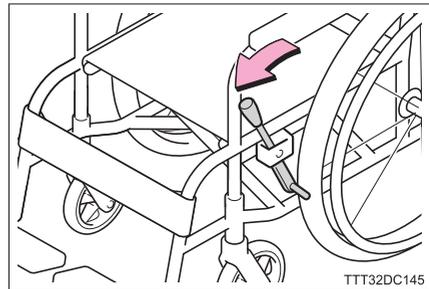


TTT32DC136

③ 所定の位置まで乗り入れる

普通車いす	リクライニング機構付車いす
<p>車いす固定目安線(後)</p>  <p>車いす誘導線</p>	<p>車いす固定目安線(前)</p>  <p>車いす誘導線</p>
<p>車いす固定目安線(後)と車いすの後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>	<p>車いす固定目安線(前)と車いすの後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>

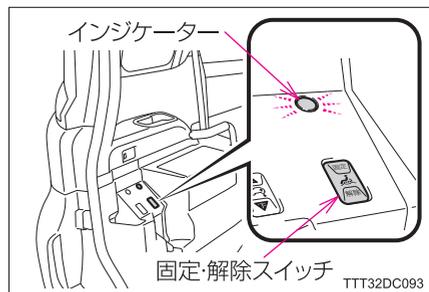
3 車いすのブレーキを両輪ともかける



4 固定・解除スイッチのインジケータの状態を確認する

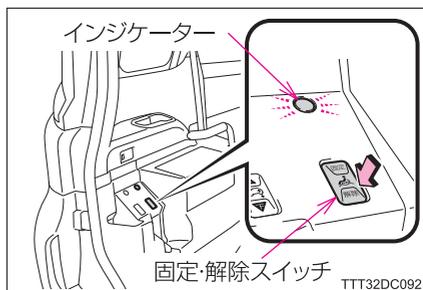
■ ランプが点滅

車いすの固定・解除スイッチのインジケータが点滅していることを確認する



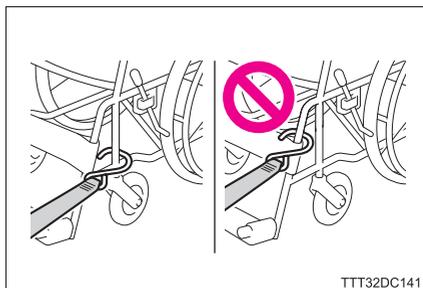
■ ランプが消灯

車いすの固定・解除スイッチのインジケータが消灯しているときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する



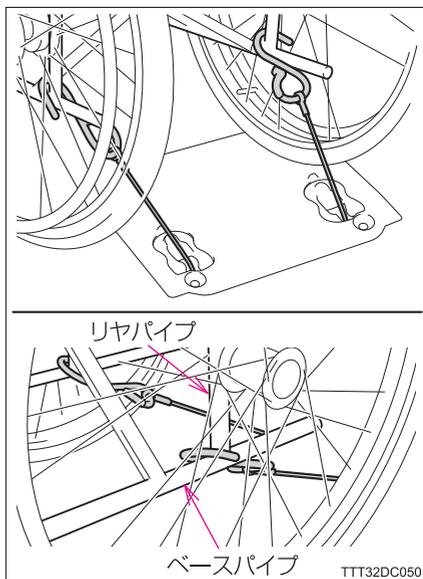
- 5 セーフティベルトのフックを持ち、ベルトを引き出し、ベルトにねじれない状態で、車いすの前輪上部のフレーム接合部にフックをかける

ベルトがねじれないように引き出します。



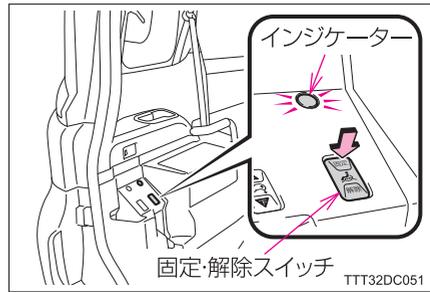
- 6 車いす固定装置のフックを床面の固定部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける

- ・ リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。
- ・ ワイヤーにたるみが出ないようにします。

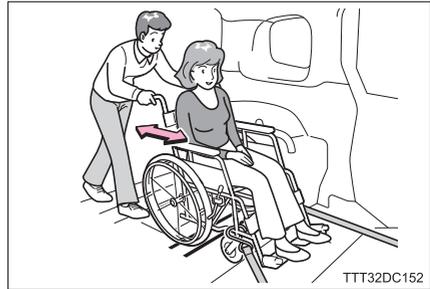


7 固定・解除スイッチの「固定」ボタンを押し、車いすを固定する

- ・「固定」ボタンを押すと車いす固定装置フック(うしろ側)、セーフティベルト(前側)の順に巻き取り固定します。
- ・車いすが固定されると、インジケータが点灯します。インジケータが点灯したことを確認してください。



8 車いすを前後にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、車いすが確実に固定されていることを確認する



以上で車いすの車内への乗り入れ・固定は完了です。次に車いす用シートベルトを着用します。(→ P.183)

■ 車いすを固定後に車いすの位置を直したい場合

車いすの後輪やハンドルがスロープやバックドアにあたるなど車いすの固定が不十分で位置を直したい場合は、次の手順で固定をやり直してください。

▶ 車いすを前に動かす場合

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を1回押し、車いすの固定を解除する
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ 車いすを所定の位置まで動かす
- ⑤ P.146の**6**からの操作を行う

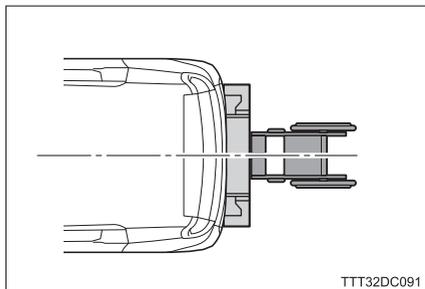
▶ 車いすをうしろに動かす場合

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を2回押し、車いすの固定を解除し、ベルトフリーモードにする
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ 車いすを車外に降ろす
- ⑤ 再度車いすを車内の所定の位置までに乗り入れる
- ⑥ P.146の**5**からの操作を行う

車いすを車内に乗り入れ・固定するときは（電動ウインチ装着車）

- 1 車いすをスロープの手前で停止し、車いすのブレーキを両輪ともかける

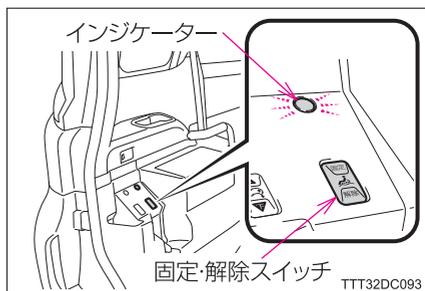
車いすの中央付近とスロープの中央付近を合わせます。



- 2 固定・解除スイッチのインジケーターの状態を確認する

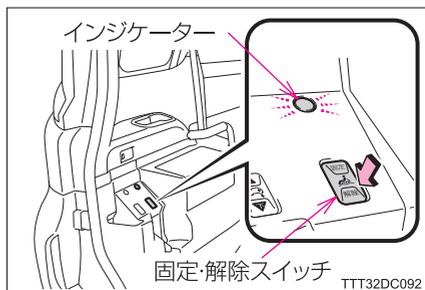
■ ランプが点滅

車いすの固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していることを確認する



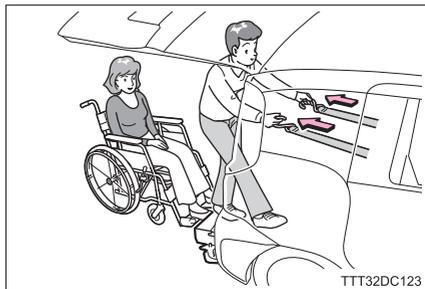
■ ランプが消灯

車いすの固定・解除スイッチのインジケーターが消灯しているときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する

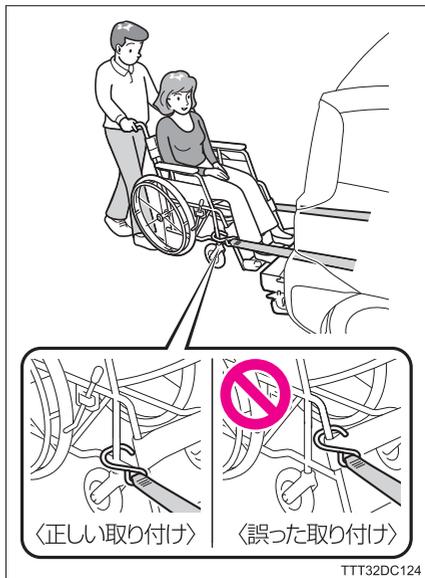


- 3 電動ウインチのフックを持ち、手動でベルトを引き出しながら、車いすに近づく

ベルトがねじれないように引き出します。



- 4 ベルトにねじれがない状態で、車いすの前輪上部のフレーム接合部にフックをかける

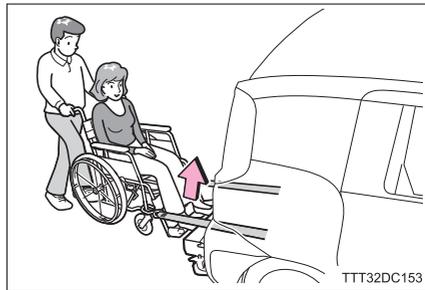


- 5 車いすのブレーキを両輪とも解除する

6 車いすを車内に乗り入れる

① 車いすの前輪を浮かし、スロープに前輪を載せる

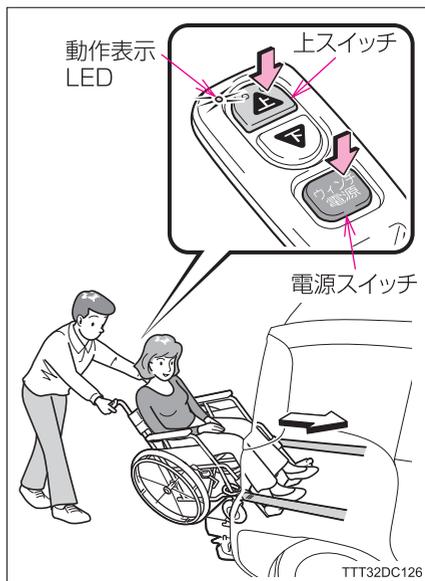
車いす乗車の方の足がスロープにあたらないよう、注意しながら行います。



TTT32DC153

② ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中（6秒以内）に上スイッチを押し続ける

動作表示LEDが緑色点滅し、電動ウインチのベルトが巻き取られます。

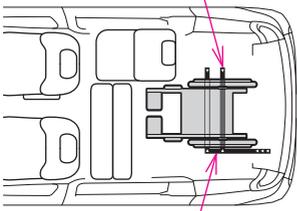
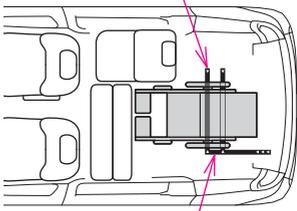


TTT32DC126

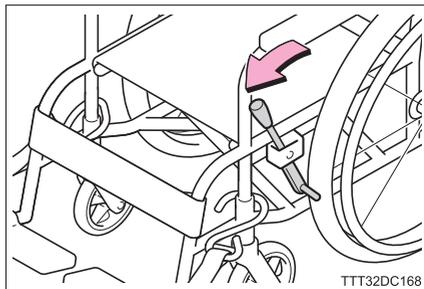
③ 車いすの後輪をスロープに押し当て、後輪を持ち上げ、床面の車いす誘導線に車いす左後輪を合わせながら、車内に乗り入れる

- ・ 車いす誘導線に合わせた位置に乗り入れないと、電動ウインチのベルトが車いす乗車の方の足やフットレストに引っかかる場合があります。
- ・ 車いすの後輪がスロープから離れないように注意しながら行います。
- ・ 車いす乗車の方の足や車いすが他のシートにあたらないよう、注意しながら行います。
- ・ 介助の方の足がスロープにあたったり、踏みはずさないよう、注意しながら行います。
- ・ 介助の方は、車いすから手を離さないよう、注意しながら行います。
- ・ ベルトが巻き取られ始めると、固定・解除スイッチインジケーターが消灯します。

④ ワイヤレスリモコンを操作し、所定の位置まで乗り入れる

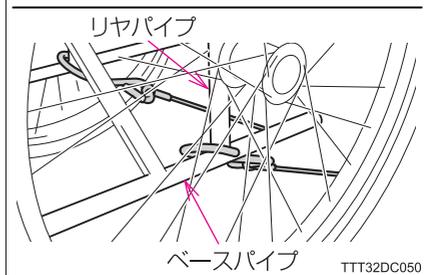
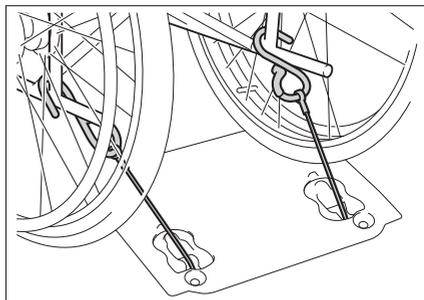
普通車いす	リクライニング機構付車いす
<p data-bbox="277 217 499 240">車いす固定目安線(後)</p>  <p data-bbox="295 467 432 491">車いす誘導線</p>	<p data-bbox="692 217 913 240">車いす固定目安線(前)</p>  <p data-bbox="724 467 861 491">車いす誘導線</p>
<p data-bbox="146 520 533 576">車いす固定目安線（後）と車いすの 後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>	<p data-bbox="577 520 964 576">車いす固定目安線（前）と車いすの 後輪中央が合う位置まで乗り入れる</p>

- 7 車いすのブレーキを両輪ともかける



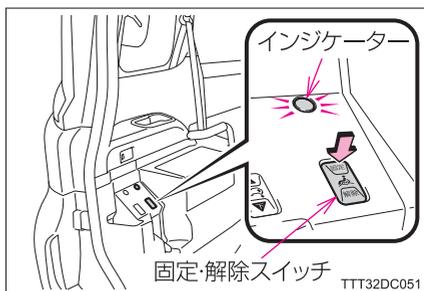
- 8 車いす固定装置のフックを床面の固定部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける

- ・ リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。
- ・ ワイヤーにたるみが出ないようにします。



- 9 固定・解除スイッチの「固定」ボタンを押し、車いすを固定する

- ・ 「固定」ボタンを押すと車いす固定装置フック（うしろ側）、電動ウインチ（前側）の順に巻き取り固定します。
- ・ 車いすが固定されると、インジケータが点灯します。インジケータが点灯したことを確認してください。



- 10 車いすを前後にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、車いすが確実に固定されていることを確認する



TTT32DC154

以上で車いすの車内への乗り入れ・固定は完了です。次に車いす用シートベルトを着用します。(→ P.183)

■ 車いすを固定後に車いすの位置を直したい場合*

車いすの後輪やハンドルがスロープやバックドアにあたるなど車いすの固定が不十分で位置を直したい場合は、次の手順で固定をやり直してください。

▶ 車いすを前に動かす場合

- ① 固定・解除スイッチの「解除」を1回押し、車いすの固定を解除する
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中(6秒以内)に上スイッチを押し
- ⑤ P.153の7からの操作を行う

▶ 車いすをうしろに動かす場合

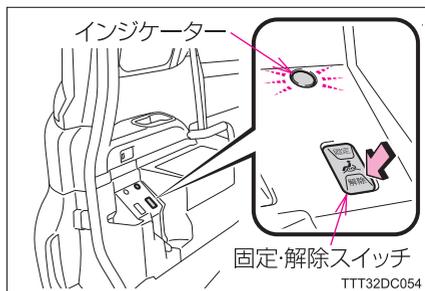
- ① 固定・解除スイッチの「解除」を1回押し、車いすの固定を解除する
- ② フックを車いすの後部フレームから取りはずす
- ③ 車いすのブレーキを両輪とも解除する
- ④ ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中(6秒以内)に下スイッチを押し
- ⑤ P.153の7からの操作を行う

*：電動ウインチのワイヤレスリモコンを使用しないときは、P.148の「■ 車いすを固定後に車いすの位置を直したい場合」を参照してください。

車いすの固定解除および車外に降ろすときは（セーフティベルト装着車）

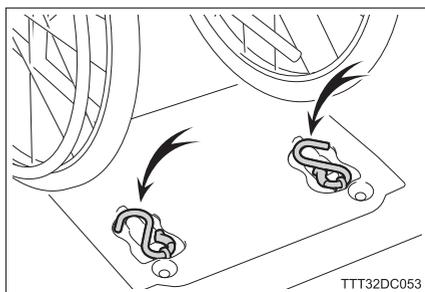
1 車いす用シートベルトがはずしてあることを確認する（→ P.188）

2 固定・解除スイッチの「解除」を押してインジケータが点滅し、ワイヤーが完全にゆるむのを確認する



3 車いす固定装置のフックを車いすの後部フレームから取りはずす

4 取りはずしたフックは床面の固定部に挿し込みます



5 ベルトのフックを手を持って車いすの前部フレームから取りはずす
フックは片方ずつ取りはずします。

6 セーフティベルトがねじれないように最後まで手を添えて巻き取る、または仮置きバンドおよび凸部に引っかけておく（→ P.160）

7 車いすのブレーキを両輪とも解除する

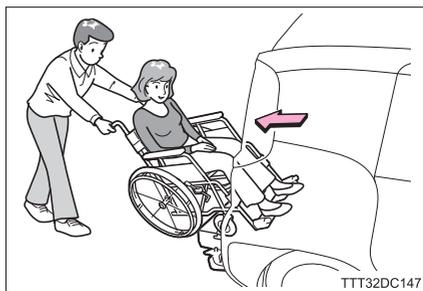
8 車いすを車外に降ろす

① 車いすを後退させる



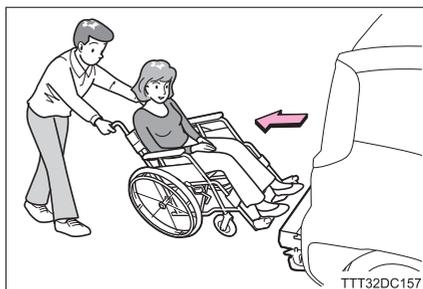
② 車いすの後輪をゆっくり車外に降ろす

- ・ 介助の方は足元の安全を確認し、降ろします。
- ・ 介助の方は車いすのハンドルをしっかりと持ってください。
- ・ 車いすの後輪がスロープから離れないように注意してください。



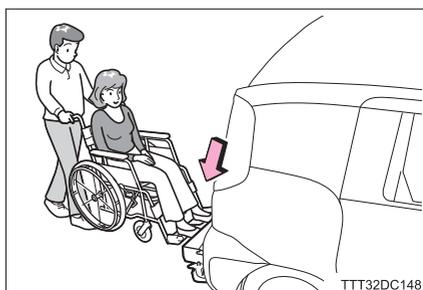
③ 車いすの角度を②の状態まま後退する

車いすを降ろした時にフットレストがスロープに当たらない位置まで後退してください。



④ 車いすの前輪をゆっくり車外に降ろす

フットレストがスロープに当たらないように注意してください。

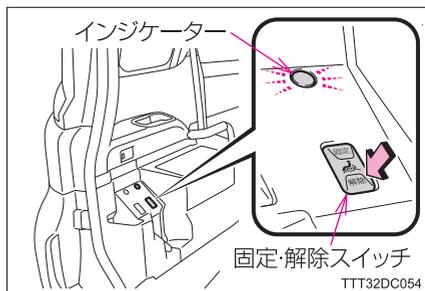


車いすの固定解除および車外に降ろすときは（電動ウインチ装着車）

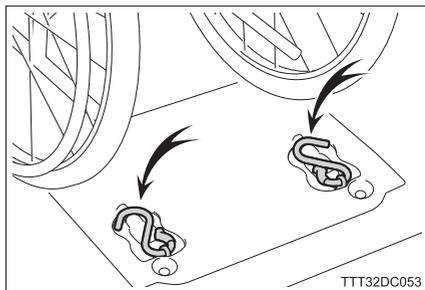
1 車いす用シートベルトがはずしてあることを確認する（→ P.188）

2 固定・解除スイッチの「解除」を押してインジケータが点滅し、ワイヤーが完全にゆるむのを確認する

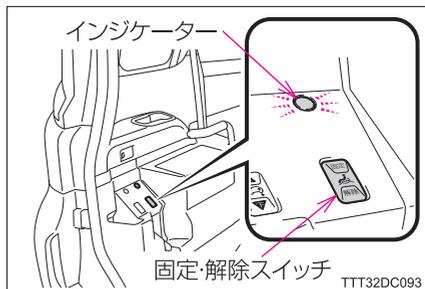
3 車いす固定装置のフックを車いすの後部フレームから取りはずす



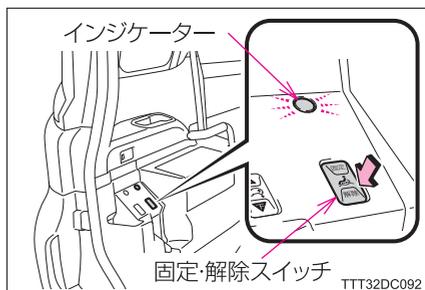
4 取りはずしたフックは床面の固定部に挿し込みます



5 固定・解除スイッチのインジケータが点滅していることを確認する



固定・解除スイッチのインジケータが点滅していないときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、点滅していることを確認する



6 車いすのブレーキを両輪とも解除する

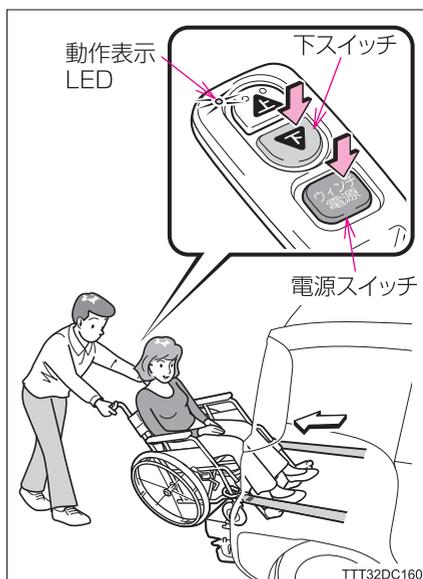
7 車いすを車外に降ろす

- ① ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に下スイッチを押し続ける

- ・ 動作表示 LED が緑色点滅し、電動ウインチのベルトが引き出されます。
- ・ 電動ウインチのベルトが引き出せないときは、P.163 の知識「**■電動ウインチのベルトが引き出せないときは**」を参照してください。

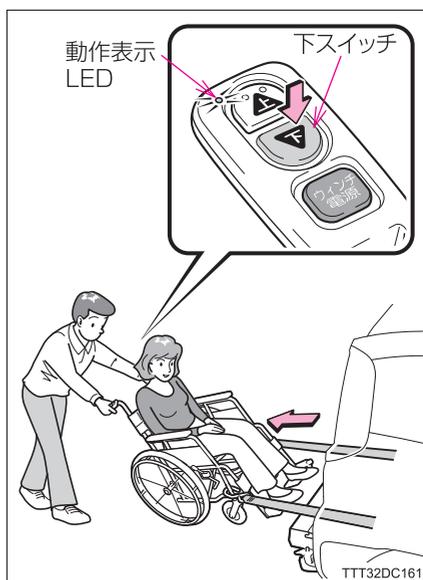
- ② ワイヤレスリモコンを操作し、車いすの後輪をゆっくり車外に降ろす

- ・ 介助の方は足元の安全を確認し、降ろします。
- ・ 介助の方は車いすのハンドルをしっかりと持ってください。
- ・ 車いすの後輪がスロープから離れないように注意してください。



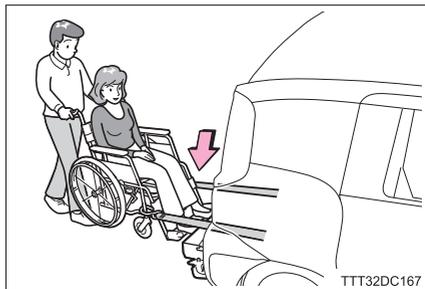
- ③ ワイヤレスリモコンを操作しながら、車いすの角度を②の状態のまま後退し、スイッチから指を離す

車いすを降ろした時にフットレストがスロープに当たらない位置まで後退してください。



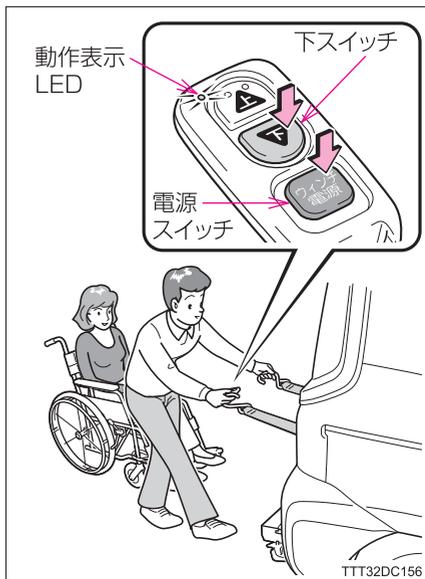
- ④ 車いすの前輪をゆっくり車外に降ろす

フットレストがスロープに当たらないように注意してください。



- 8 車いすのブレーキを両輪ともかける

- 9 ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、動作表示LEDが赤色点灯中（6秒以内）に下スイッチを押し続け、ベルトのフックを片方ずつ、車いすの前部フレームから取りはずす



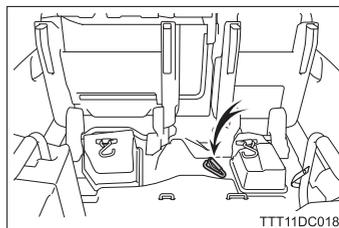
- 10 ベルトがねじれないように最後まで手を添えて巻き取る

車いすのベルトは、仮置きバンドに引っかけておくこともできます。(→ P.160)

知識

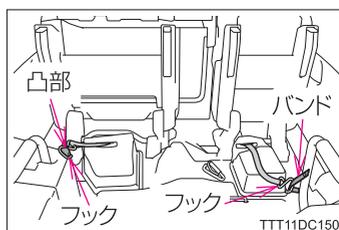
■ ベルトを使用しないときは

ベルトをベルトガイドからはずし、ベルトガイドを車両後方に倒す



■ 車いすのベルト・フックについて（セーフティベルト装着車）

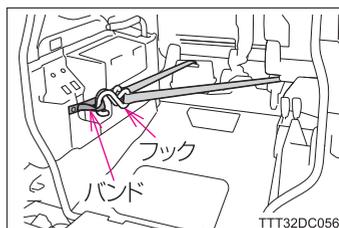
車いすのセーフティベルトのフックを取りはずしたあと、仮置きバンドおよび凸部に引っかけておくと、次に車いすを車内に乗り入れるとき、車いすの前側にまわらずにベルト・フックを取り出すことができます。使用するときは、左右それぞれにフックを引っかけて、使用してください。



■ 車いすのベルト・フックについて（電動ウインチ装着車）

車いすの電動ウインチのフックを取りはずしたあと、仮置きバンドに引っかけておくと、次に車いすを車内に乗り入れるとき、車内に入らずにベルト・フックを取り出すことができます。

使用するときは、左右のフックを引っかけて、使用してください。



■ ベルトについて

- セーフティベルト★または電動ウインチ★がねじれていないことを確認してください。ベルトがねじれていると巻き取り不良になり、車いすを完全に車内に入れることができません。
- セーフティベルト★または電動ウインチ★を使用する前にベルトの点検をし、ベルトにほつれ・すり切れや折れる癖ができていたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ベルトが汚れるとベルトのもどりが悪くなることがあります。ベルトのもどりが悪くなったときは、ベルトの清掃をしてください。（→ P.196）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 固定・解除スイッチについて

固定・解除スイッチは、何も操作しない状態が4分以上続くと、インジケーターが消灯し、巻き取りモード状態に切りかわります。

■ 車いすの上手な乗車・降車方法のポイント（セーフティベルト装着車）

お使いになっている車いすのタイプによっては、車いす乗車後、車いすとスロープ（スロープを格納した状態）やバックドアなどがあたる場合があります。このような場合は、次の確認および操作をしてください。

車いすとスロープやバックドアなどがあたる
<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすが左右傾いて固定されていませんか？ ● 乗車時に乗り入れ位置（→ P.145, 152）まで車いすを乗り込ませましたか？（車いすの種類により、乗り入れ位置が異なります）
車いすがうしろに下がってしまう
<ul style="list-style-type: none"> ● 固定・解除スイッチのインジケーターは消灯していますか？ ● 車いすのブレーキは両輪ともかかっていますか？

降車時にセーフティベルトの後退防止作動が解除できないときは、車いすを少し前に出す、または車いすの後輪を少し持ち上げるなど、ベルトを少しゆるめます。

■ 電動ウインチの作動モードについて（電動ウインチ装着車）

- 電動ウインチはベルトフリーモード以外のとき、常に後退防止状態を保持します。
- 固定・解除スイッチのインジケーター点滅（ベルトフリーモード）時であっても、ワイヤレスリモコンを操作すると、インジケーターが自動的に消灯（ウインチ作動モード）に切りかわります。（作動条件→ P.59）

作動条件	固定・解除スイッチ インジケーター	作動モード
すべて満たす	点滅	ベルトフリー
	消灯	ウインチ作動
1つでも満たさない	消灯	後退防止作動

 知識**■ ワイヤレスリモコンの作動条件について（電動ウインチ装着車）**

- ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能範囲がかわることがあります。
- 周囲の電波状態により、上スイッチまたは下スイッチを押しても電動ウインチが作動しなくなることがあります。そのときはワイヤレスリモコンでの操作位置をかえて操作してください。
その際、スイッチは押し直してください。押し続けたまま操作位置をかえても電動ウインチは作動しません。

■ ワイヤレスリモコンについて（電動ウインチ装着車）

- 電源スイッチを押してから 6 秒以内（動作表示 LED が赤色点灯中）に上スイッチまたは下スイッチを押さないと、自動的に電源が切れます。（動作表示 LED 消灯）
- 上スイッチまたは下スイッチを押すと、電源はスイッチから指を離れた時点より 6 秒延長します。
- 電動ウインチ作動中に上スイッチまたは下スイッチから指を離すと、電動ウインチの作動は停止します。
- 電動ウインチは上スイッチまたは下スイッチを断続的に押しても電動ウインチは作動しません。
- 複数のスイッチを同時に押すと、電動ウインチは作動しません。
- ワイヤレスリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。
 - ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - ・ 必ず日本国内でご使用ください。
- ワイヤレスリモコンの送信機または受信機のどちらかのみを交換したときは、ID コードを登録する必要があります。登録はトヨタ販売店にお申し付けください。

■ ワイヤレスリモコンの電池について（電動ウインチ装着車）

- 電池寿命は約 1 年間です（1 回の操作時間を 30 秒、1 日の操作回数を 20 回で計算した場合）。ただし、電池寿命は実際の使用状況によって変わります。
- ワイヤレスリモコンを操作しても電動ウインチが作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、または動作表示 LED が点灯しなくなったり、点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。電池はお客様自身で交換できます。（→ P.205）

知識

■ 航空機に乗るときは（電動ウインチ装着車）

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 参考：電動ウインチ性能について※（電動ウインチ装着車）

作動時間	条件
30 秒	負荷荷重 0.8kN {80kgf}

※：エンジンをかけた状態（ハイブリッドシステムを作動状態）

■ 電動ウインチのベルトが引き出せないときは（電動ウインチ装着車）

- 電動ウインチのベルトを手動で引き出す際、固定・解除スイッチを押し、ベルトフリーモードにしても、まれにベルトが引き出せないことがあります。このときはベルトに力が加わっていない状態で再度固定・解除スイッチを押し、ベルトフリーモードにするとベルトが引き出せます。再度操作をしてもベルトが引き出せないときはトヨタ販売店に連絡してください。
- 車いすを車内に乗り入れた際、車いすの後輪を持ち上げるなどにより、電動ウインチのベルトが過剰に巻き取られた場合、車いすを車外に降ろすときにベルトが引き出せなくなることがあります。このときは車いすを少し前に出す、または車いすの後輪を少し持ち上げるなど、ベルトを少しゆるめた状態でワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してから下スイッチを押すと、ベルトが引き出せます。

■ ベルトガイドについて

車いすを車内に乗り入れるときは、車いすの種類および運転席側セカンドシートの状態に合ったベルトガイドを使用してください（→ P.141）。正しく使用しないと固定が不十分になったり、他の部品が損傷するおそれがあります。

■ ワイヤーについて

- 車いす乗り入れ前にワイヤーの点検をし、ワイヤーにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ワイヤーが汚れるとワイヤーのもどりが悪くなることがあります。ワイヤーのもどりが悪くなったときは、ワイヤーの清掃をしてください。（→ P.196）

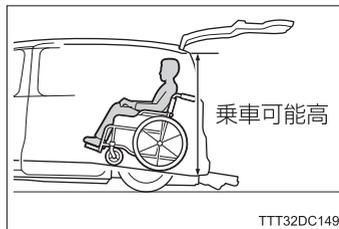
 **警告****■ 車いす仕様車（スロープタイプ）の操作をするときは**

- 操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。
 - ・ 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 急に車いすの乗降を行うと、車いすが転倒するおそれがあり危険です。（車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください）
 - ・ 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まらないように注意してください。
- 風の強い場所や風雨の強い日、また降雨時や降雪時など悪天候のときはスロープがすべりやすいので注意してください。
- スロープ表面がぬれている状態で車いすをスロープに乗り入れないでください。
スロープ表面がぬれているとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。
- 介助の方は、車いすに乗車されている方の手や足が車いすの内側にあることを確認してください。
車内の部品やシートで手や足を挟み、けがをするおそれがあります。
- 介助の方が車いすから離れるとき（ベルトのフックの脱着時や固定・解除スイッチ操作時など）は、車いすのブレーキを両輪とも確実にかけてください。
車いすのブレーキを両輪ともかけずに車いすから離れると、車いすが自重で後退するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■ 車いすの車内外への乗降操作をするときは

- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通過してください。中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
スロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。
- スロープに車いすを載せたときは、不要なスイッチ類を押ししたり、シフトレバーをP以外の位置にしないでください。
装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 車高調整スイッチの「上」を押すと、スロープの角度が変わり、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 固定・解除スイッチを押し、インジケータが点滅（ベルトフリーモードに移行）すると、後退防止作動が解除され、車いすがスロープから滑り落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ シフトレバーをP以外の位置にすると、車高が自動復帰するため、スロープの角度が変わり、車いすが転落するおそれがあり危険です。
- 車内外に乗降するときは、バックドア・ドア開口部および天井に頭をぶつけないように注意してください。
(乗車可能高：1300mm)
スロープに車いすを乗り入れるときや乗り入れ後に車外へ出る（もどる）とき、頭上の注意がおろそかになりやすいので、バックドア端部やバックドア開口部に注意してください。
頭をオープンフックにあてないように、特に注意してください。(→ P.19)
- オープンレバーを踏んだり、足をあてないように注意してください。(→ P.20)
- 車いすを勢いよく押し込まないでください。
車いす乗車の方がシートや車内の部品にあたり、けがをするおそれがあります。



 **警告**

- 車いすは必ず所定の位置まで乗り入れてください。(→ P.145, 152)
車いすが所定の位置まで乗り入れていないと、正しく固定できない場合があります。
 - ・ 乗り入れ位置が前すぎると、車いす乗車の方の足がセカンドシートにあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 乗り入れ位置がうしろすぎると、車いすがバックドアにあたり、そのままバックドアを閉めると、車いすとバックドアが傷付くおそれがあります。
- 車いすを車内に乗り入れたときは、セーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを車いすの前部フレームから取りはずさないでください。
セーフティベルト★または電動ウインチ★は車いす前側の固定装置として使用します。セーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを車いすの前部フレームから取りはずした状態では車いすが固定されず、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすを車外に降ろすときは、車いすのブレーキは介助の方が解除し、車いすが不意に動き出さないよう、介助の方がしっかり支えてください。
しっかり支えていないと、車いすのブレーキが解除されたらたん、車いすが動き出し、スロープからすべり落ちるなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすを車外に降ろすときは、前輪が降りる位置ですぐ降ろすと車いすのフットレストがスロープに当たり、破損するおそれがあります。
- セーフティベルト★または電動ウインチ★のフックを車いすから取りはずすときは、手に持ってゆっくりと行ってください。
フックから急に手を離すと、ベルトが勢いよく巻き取られ、けがをすることがあります。
- ベルトガイドを使用しないときは、ベルトガイドを必ず車両後方に倒してください。
ベルトガイドを立てたままにしておく、車内を移動するときにつまずいて転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。(→ P.160)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

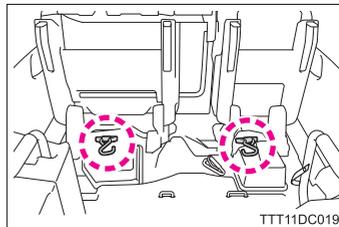
警告

■ 電動ウインチを使用するときは（電動ウインチ装着車）

- 電動ウインチは車いすの車内外への乗り降り専用です。電動ウインチを使用して人やものを引き上げないでください。電動ウインチの故障やベルトの損傷につながったり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 電動ウインチ作動時、ベルトやベルト巻き取り部にふれないでください。ベルトの巻き取り不良やベルト巻き取り部に手などを巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

○：ベルト巻き取り部



■ 車いすの車内外への乗降操作をするときは（電動ウインチ装着車）

電動ウインチを使用して車いすを車内外に乗降するときは、介助の方は必ず車いすのうしろで操作し、車いすのハンドルをしっかりと支えながら乗り入れてください。

車いすを車内に乗り入れるとき、車いすのハンドルをしっかりと支えていないと、車いすの前輪が停止後、前のめりになることがあります。お子さまや体重の軽い方が車いすに乗車されているときは、特に注意してください。（電動ウインチは車いすの乗降を補助するためのものであり、自動で乗降するための装置ではありません）

■ 電波がおよぼす影響について（電動ウインチ装着車）

医療用電気機器（以下を除く）を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

- 植込み型心臓ペースメーカー
- 植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ
- 植込み型除細動器

 **警告****■ 車いすを固定するときは**

- 車いすを固定する前に、セーフティベルト★または電動ウインチ★が車いす乗車の方の足や車いすのフットレストに引っかかっていることを確認してください。

そのまま車いすを固定すると、車いす乗車の方がけがをしたり、車いすの固定が不十分になり、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- フックを扱うときは、フックをしっかりと持ってください。
車いす固定装置ワイヤーは自動巻き取り式のため、しっかり持たないとフックおよびワイヤーが手などにあたり、けがをするおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすのフレームに脱着するときは、フックとフレームとのあいだで指などを挟まないよう注意してください。

- 車いすを固定したときは、車いすを前後にゆすり、ワイヤーにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。

固定がはずれると走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ・ 固定を確認しているときに、車いすとフックとのあいだで手を挟まないように注意してください。
- ・ ワイヤーにねじれがないことを確認してください。ワイヤーがねじれていると十分に固定できない場合があります。
- ・ 車いすの固定が不十分なときは、車いすの固定位置およびフックを引っかける位置を確認後、固定・解除スイッチの「解除」を押し、操作をやり直してください。
- ・ 車いすが所定の位置よりずれたときは、固定・解除スイッチの「解除」を押し、操作をやり直してください。(→ P.148, 154)
- ・ 固定・解除スイッチの「固定」を押しても車いす固定装置が作動しないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 車いす固定装置のフックを取りはずしたときは、必ずフックを床面の固定部にもどしてください。

フックを放置したままだと車いすを車外に降ろすとき、介助の方が足を引っかけたり、車いすにフックが引っかかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 車いす固定装置使用中、ワイヤーが傷付いたりほつれたりした場合は、すぐにトヨタ販売店でワイヤーの交換を行ってください。

そのまま使い続けると、走行中に車いすの固定がはずれ、車いす乗車の方が転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ 車内を移動するときは

→ P.21

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■故障・損傷などを防ぐために**

- 車いす固定装置のフックを床面の固定部に収納したまま、固定・解除スイッチの「固定」を押さないでください。
車いす固定装置が故障するおそれがあります。
- 車いすに車いす固定装置のフックを引っかけるときは、フックのワイヤーにねじれがないことを確認してください。
ワイヤーが損傷するおそれがあります。
- 固定装置のフックを戻す時は、シートロック用ストライカや周辺部品に引っかかっていないことを確認してください。
そのまま使用するとシートロックや周辺部品が損傷するおそれがあります。
- オープンフックを持ってバックドアを閉めないでください。

■故障・破損を防ぐために（電動ウインチ装着車）

- 断続的にワイヤレスリモコンの上スイッチまたは下スイッチを押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。（断続的にスイッチを押しても電動ウインチは作動しません）
- 電動ウインチのベルトの巻き取りができない状態（ベルトが車内のものに引っかかって動かない、ベルトがねじれて巻き取れない場合など）のときは、ワイヤレスリモコンの上スイッチを押し続けしないでください。
故障の原因になります。ベルトの巻き取りができないときは、ワイヤレスリモコンの下スイッチを押し続けて少しベルトを引き出してから、障害物やベルトのねじれなどを取り除き、再度ワイヤレスリモコンの電源を入れ、上スイッチを押し続けて巻き取ってください。
- ワイヤレスリモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない
 - ・ 分解しない
 - ・ 落としたり、踏むなどの強い衝撃を与えない
 - ・ 飲料水などをこぼしたり、水たまりなど、水中に落下させない
（防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください）
- ワイヤレスリモコンの清掃にシンナー・ガソリン・ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

車いすの車内外への乗降・固定：1.5 列目位置（タイプII）

車内に乗車後は、車いす固定装置（1.5 列目用）を使用して車いす（主に小児用車いす）を固定します。

操作前の確認事項

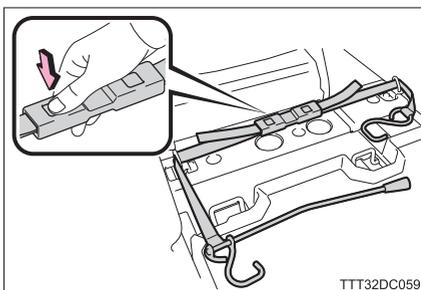
車いす固定装置（1.5 列目用）の作動条件を確認してください。（→ P.59）

車いすを車内に乗り入れる前に

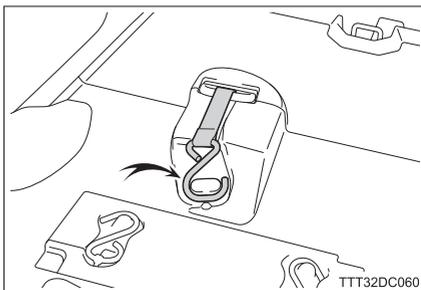
1 専用助手席シートを折りたたむ（→ P.31）

2 ベルトカバーのボタン部分を押しながらベルトをゆるめ、フロント固定ベルトの長さを調整する

お使いの車いすに対して、前輪固定フックのかけはずしが可能な範囲で極力ベルトを短く調整します。

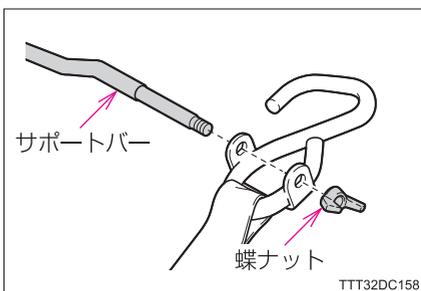


3 助手席側のセーフティベルトのフックを床面に固定する



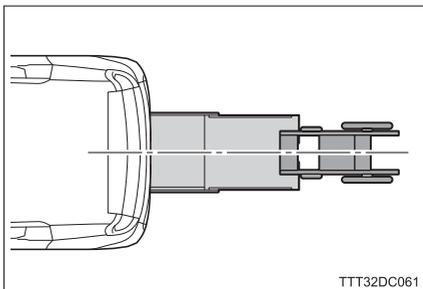
4 サポートバーが車いすにあたる場合は、フロント固定ベルトのサポートバーを取りはずす

蝶ナットをゆるめてはずし、サポートバーを前輪固定フックから引き抜きます。



車いすを車内に乗り入れ・固定するとき

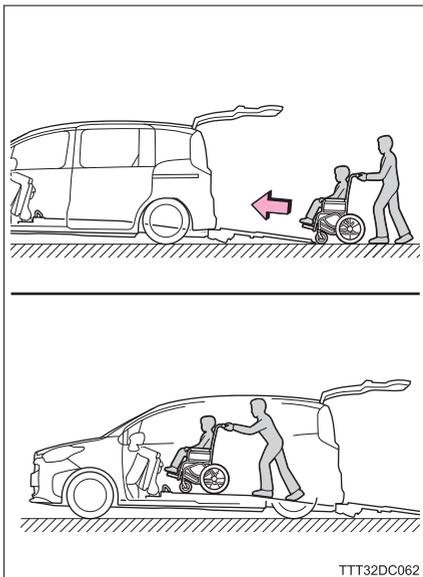
- 1 車いすの中央付近とスロープの中央付近を合わせて停止する



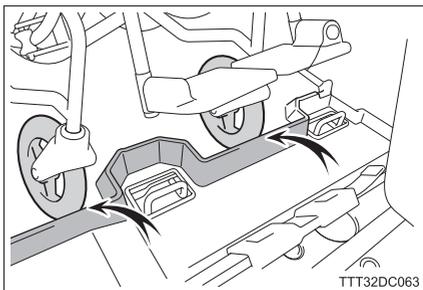
- 2 車いすのブレーキを両輪とも解除し、車いすを車内にゆっくり乗り入れる

セーフティベルトは使用しません。

- ① 車いすを押して乗り入れる
- ② 車内に入ったら専用助手席シート後方までゆっくり進む
車いす乗車の方の足や車いすが専用助手席シートにあたらないよう、注意しながら行きます。



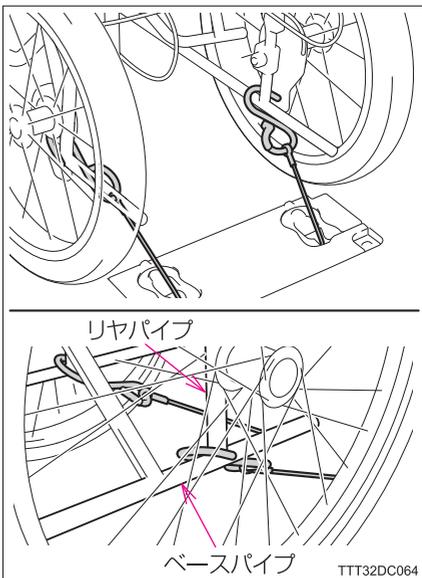
- 3 車いすの前輪が専用助手席シートの床面ロック手前の車止めにあたる位置で停止する



4 車いすのブレーキを両輪ともかける

5 車いす固定装置のフックを床面の固定部から取りはずして引き出し、フックを車いすの後部フレームに引っかける

- ・ リヤパイプとベースパイプ接合部にフックを引っかけます。
- ・ ワイヤーにたるみが出ないようにします。



6 車いす用シートベルトを着用する (→ P.186)

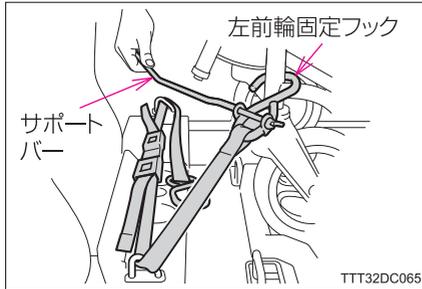
7 スロープを格納する (→ P.88)

8 バックドアを閉め、車高を復帰させる (バックドア連動車高切替モード→ P.88 / マニュアル車高切替モード→ P.89)

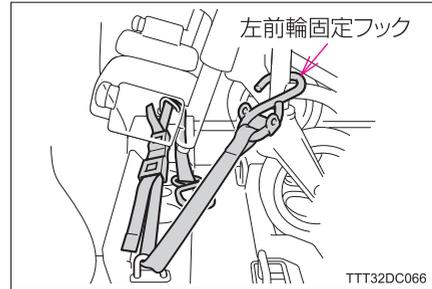
バックドアがスロープにあたらないことを確認しながらゆっくりと閉めます。

9 車いすの左前輪フレーム接合部に左前輪固定フックを引っかける

▶ サポートバーが車いすにあたらぬ場合



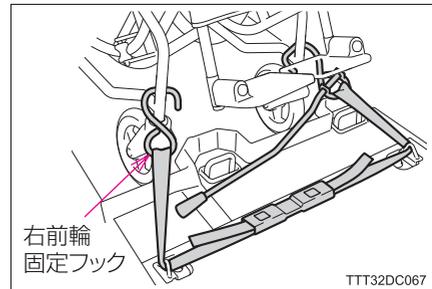
▶ サポートバーが車いすにあたる場合



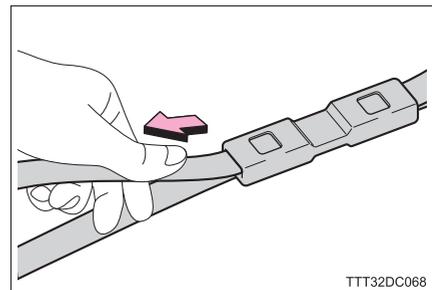
- ① 運転席シートに座る
- ② サポートバーを手に持ち、車いすにフックを引っかける

- ① 助手席ドアを開ける
- ② フックを手に持ち、車いすにフックを引っかける
- ③ 助手席ドアを閉める
- ④ 運転席シートに座る

10 右前輪固定フックを手に持ち、車いすの右前輪フレーム接合部にフックを引っかける

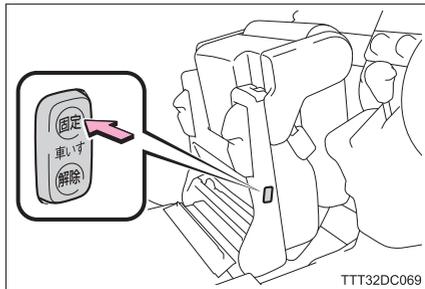


11 運転席側の調整ベルトを引っ張り、フロント固定ベルトのたるみを取る



12 車いす固定装置のワイヤーが巻き締まりするまで、専用助手席シートの車いす固定装置スイッチの「固定」を押し続ける

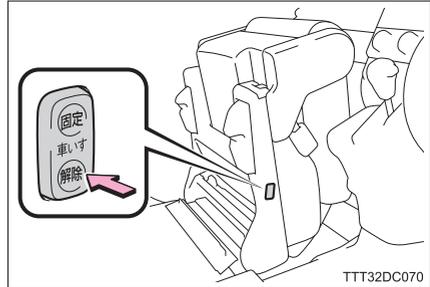
- ・「固定」を押すと、車いすが少し後退します。
- ・車いすを軽くゆすり、ワイヤーにたるみがなく、確実に固定されていることを確認します。
- ・固定方法が2列目位置と異なります。車いすが確実に固定されるまで「固定」を押し続けます。



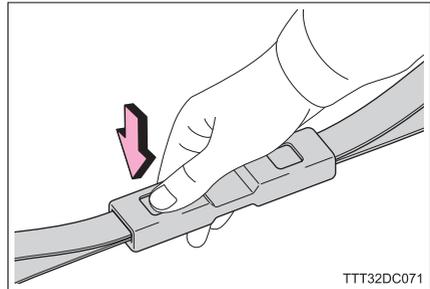
車いすの固定解除および車外に降ろすときは

- 1 車いす固定装置のワイヤーが完全にゆるむまで、専用助手席シートの車いす固定装置スイッチの「解除」を押し続ける

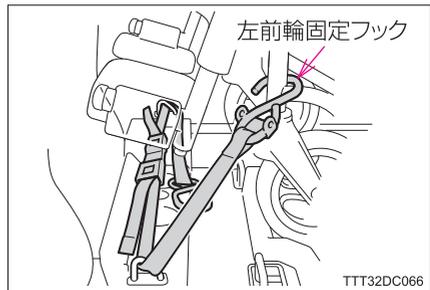
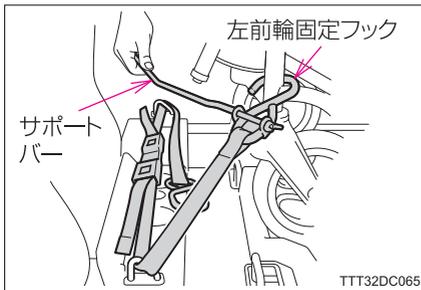
固定方法が2列目位置と異なります。車いすが確実に解除されるまで「解除」を押し続けます。



- 2 ベルトカバーのボタン部分を押しながらフロント固定ベルトを引き、ベルトをゆるめる

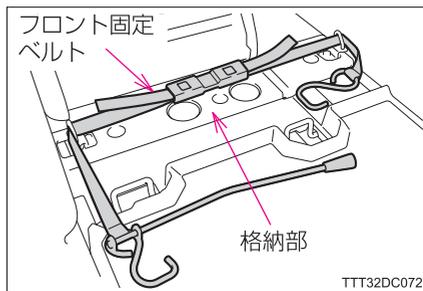


- 3 フロント固定ベルトの前輪固定フックを車いすの前輪フレームからははずす
- ▶ サポートバー使用時
 - ▶ サポートバー不使用時



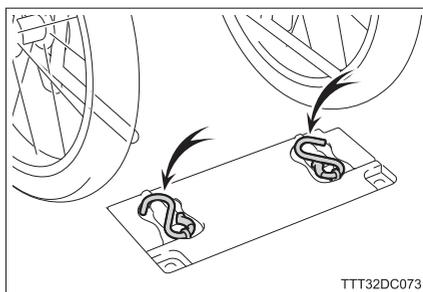
- ① 右前輪固定フック (→P.173) を手に持ち、車いすの右前輪フレーム接合部からフックをははずす
- ② サポートバーを手に持ち、車いすの左前輪フレーム接合部から左前輪固定フックをははずす
- ① 右前輪固定フック (→P.173) を手に持ち、車いすの右前輪フレーム接合部からフックをははずす
- ② 車外に出て助手席ドアを開ける
- ③ フックを手に持ち、車いすの左前輪フレーム接合部から左前輪固定フックをははずす
- ④ 助手席ドアを閉める

- 4 前輪固定フックおよびフロント固定ベルトを床面の格納部に格納する



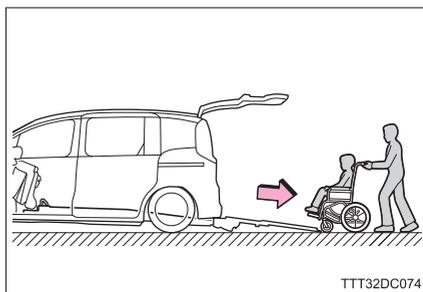
- 5 バックドアを開け、車高を降下させる（バックドア連動車高切替モード→ P.86 / マニュアル車高切替モード→ P.87）
- 6 スロープを展開する（→ P.87）
- 7 車いす用シートベルトをはずす（→ P.189）

- 8 車いす固定装置のフックを車いすから取りはずす
取りはずしたフックは床面の固定部に挿し込みます。



- 9 車いすのブレーキを両輪とも解除する

- 10 車いすを引き、ゆっくり車外に降ろす
セーフティベルトは使用しません。



- 11 車いすのブレーキを両輪ともかける

知識

■ 車いす固定装置（1.5 列目用）の作動条件について

車いす固定装置（1.5 列目用）は、P.59 の作動条件をすべて満たす場合に作動します。作動条件を 1 つでも満たさない場合は、車いす固定装置スイッチを押しても車いす固定装置は作動しません。

作動条件	車いす固定装置スイッチ	車いす固定装置
すべて満たす	固定	巻き締め
	解除	ゆるむ
1 つでも満たさない	固定	作動条件をすべて満たしていたときの状態を保持
	解除	

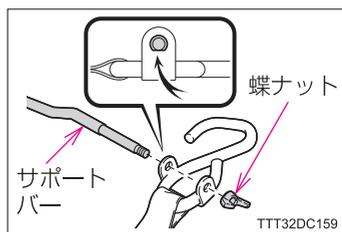
■ フロント固定ベルトおよび車いす固定装置のワイヤーについて

- 車いす乗り入れ前にベルトおよびワイヤーの点検をし、ベルトおよびワイヤーにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- ワイヤーが汚れるとワイヤーのもどりが悪くなることがあります。ワイヤーのもどりが悪くなったときは、ワイヤーの清掃をしてください。（→ P.197）

■ サポートバーを取りはずす必要がないときは

フロント固定ベルトのサポートバーを取り付けます。

- ① 左前輪固定フックの穴の形を参考に、サポートバーの水平面を下向きにして左前輪固定フックの穴に挿し込む
- ② 蝶ナットを締め込み、サポートバーがはずれないようにする



 **警告****■ 車いす仕様車（スロープタイプ）の操作をするときは**

- 操作はすべて介助の方が行い、車いす乗車の方に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。
 - ・ 車いす乗車の方が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 急に車いすの乗降を行うと、車いすが転倒するおそれがあり危険です。（車いすを車外に降ろすときは特にご注意ください）
 - ・ 車内を移動するときは、車いす乗車の方の手足や腕がシートなどに挟まれないように注意してください。
- 風の強い場所や風雨の強い日、また降雨時や降雪時など悪天候のときはスロープがすべりやすいので注意してください。
- スロープ表面がぬれている状態で車いすをスロープに乗り入れないでください。
スロープ表面がぬれているとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。
- 介助の方は、車いすに乗車されている方の手や足が車いすの内側にあることを確認してください。
車内の部品やシートで手や足を挟み、けがをするおそれがあります。
- 介助の方が車いすから離れるとき（車いす用シートベルト装着時など）は、車いすのブレーキを両輪とも確実にかけてください。
車いすのブレーキを両輪ともかけずに車いすから離れると、車いすが自重で後退するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

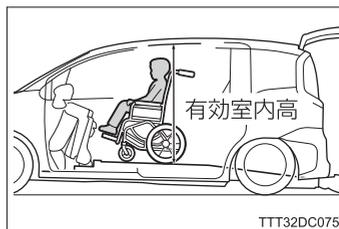
■ 車いすの車内外への乗降操作をする前に

助手席側のセーフティベルトのフックを床面に固定してください。（→P.170）
フックを放置したままだと車いすにフックが引っかかったり、車内を移動するときにつまずいて転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

警告

■ 車いすの車内外への乗降操作をするときは

- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通過してください。中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
傾斜したスロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。
- スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- スロープに車いすを載せたときは、車高調整スイッチの「上」を押したり、シフトレバーをP以外の位置にしないでください。
装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ 車高調整スイッチの「上」を押すと、スロープの角度が変わり、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ シフトレバーをP以外の位置にすると、車高が自動復帰するため、スロープの角度が変わり、車いすから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車内外に乗降するときは、バックドア・ドア開口部および天井に頭をぶつけないように注意してください。
(有効室内高：1255mm)
スロープに車いすを乗り入れるときや乗り入れ後に車外へ出る(もどる)とき、頭上の注意がおそれになりやすいので、バックドア端部やバックドア開口部に注意してください。
- 車いすを勢いよく押し込まないでください。
車いすが車止めを乗り越えて、格納した専用助手席シートにあたるおそれがあります。
- 車いすは必ず所定の位置まで乗り入れてください。(→ P.171)
車いすが所定の位置まで乗り入れていないと、正しく固定できない場合があります。
- 車いすを車外に降ろすときは、車いすのブレーキは介助の方が解除し、車いすが不意に動き出さないよう、介助の方がしっかり支えてください。
しっかり支えていないと、車いすのブレーキが解除されたらたん、車いすが動き、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 **警告****■ 車いすを固定するときは**

- フックを扱うときは、フックをしっかりと持ってください。
車いす固定装置ワイヤーは自動巻き取り式のため、しっかり持たないとフックおよびワイヤーが手などにあたり、けがををするおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを車いすのフレームに脱着するときは、フックとフレームとのあいだで指などを挟まないよう注意してください。
- 車いすを固定したときは、車いすを前後にゆすり、ベルトおよびワイヤーにたるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。
固定がはずれると走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - ・ 固定を確認しているときに、車いすとフックとのあいだで手などを挟まないように注意してください。
 - ・ ワイヤーにねじれがないことを確認してください。ワイヤーがねじれていると十分に固定できない場合があります。
 - ・ 車いすの固定が不十分なときは、車いすの固定位置およびフックを引っかける位置を確認後、車いす固定装置スイッチの「解除」を押し、操作をやり直してください。
 - ・ フロント固定ベルトにねじれがないことを確認してください。フロント固定ベルトがねじれていると十分に固定できない場合があります。
 - ・ 車いす固定装置スイッチの「解除」を押しても車いす固定装置が作動しないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 取りはずしたフロント固定ベルトおよび車いす固定装置のフックを床面に放置しないでください。
車いすを車外に降ろすとき、介助の方が足を引っかけたり、車いすにフックが引っかかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車いす固定装置使用中、ワイヤーが傷付いたりほつれたりした場合は、すぐにトヨタ販売店でワイヤーの交換を行ってください。
そのまま使い続けると、走行中に車いすの固定がはずれ、車いす乗車の方が転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ フロント固定ベルトのサポートバーを取りはずしたときは

取りはずしたサポートバーおよび蝶ナットを床面に放置しないでください。
車いすの車輪にあたって乗車のさまたげになったり、車いすの車輪に引っかけて車いす転倒するなど、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ 車内を移動するときは

→ P.21

 **注意****■故障・破損・損傷を防ぐために**

- バックドアを閉めるときは、スロープが確実に格納されていることを確認してください。
バックドアおよびスロープが破損するおそれがあります。
- 車いす固定装置のフックを床面の固定部に収納したまま、車いす固定装置スイッチの「固定」を押さないでください。
車いす固定装置が故障するおそれがあります。
- 車いすに車いす固定装置のフックを引っかけるときは、フックのワイヤーにねじれがないことを確認してください。
ワイヤーが損傷するおそれがあります。
- 取りはずしたフロント固定ベルトを床面に放置しないでください。
フロント固定ベルトが床面に放置されていると、専用助手席シートを着座状態にもどすとき、専用助手席シートのロック機構にベルトを挟み込み、ベルトの切断やロック機構を破損するおそれがあります。

車いす用シートベルト

3点式のシートベルトです。

体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前へ倒れそうなきには、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

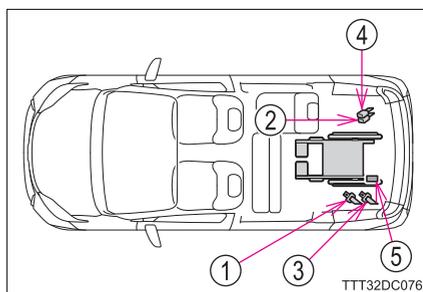
シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の方法に従って走行前に必ず着用してください。

シートベルトの着用は介助の方が行ってください。

シートベルトの構成

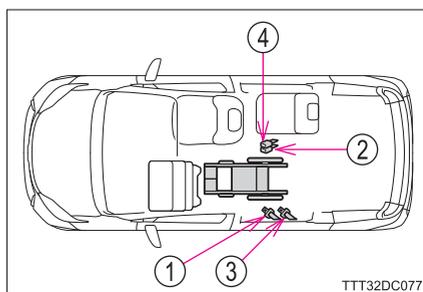
◆ 2列目位置

- ① 腰部ベルト用プレート
- ② 腰部ベルト用バックル
- ③ 肩部ベルト用プレート
- ④ 肩部ベルト用バックル
- ⑤ シートベルトリルータ



◆ 1.5列目位置 (タイプII)

- ① 腰部ベルト用プレート
- ② 腰部ベルト用バックル
- ③ 肩部ベルト用プレート
- ④ 肩部ベルト用バックル



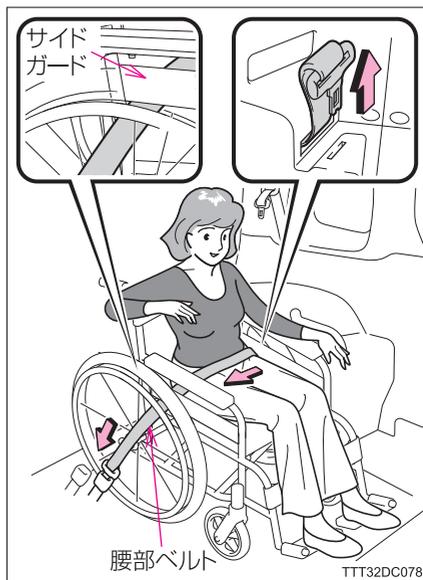
2 列目位置での着用のしかた

1 腰部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

2 腰部ベルトを車いすの左右の アームレストの下側および車いすの スポークのあいだを通し、 腰部ベルトを装着する

- ・“カチッ”と音がするまでプレート
をバックルに挿し込みます。
- ・バックルは車いすに近い側のもの
を使用してください。
- ・サイドガードの下にスペースがある
車いすをご使用の場合、サイド
ガードの下を通してください。



3 肩部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

4 肩部ベルトを車いす右側のアーム レストの下側および車いすの スポークのあいだを通し、肩部 ベルトを装着する

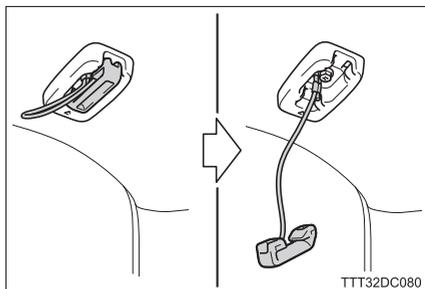
- ・“カチッ”と音がするまでプレート
をバックルに挿し込みます。
- ・バックルは車いすから遠い側のもの
を使用してください。
- ・肩部ベルトが肩にかからない場合は
シートベルトリルータを使用し
ます。(→ P.184)
- ・サイドガードの下にスペースがある
車いすをご使用の場合、サイド
ガードの下を通してください。



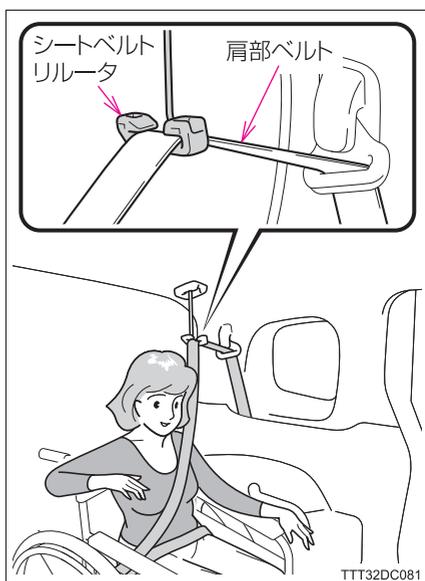
■ 肩部ベルトが肩にかからない場合

肩部ベルトが首にあたり、肩からはずれて腕にかかってしまうときは、肩部ベルトをシートベルトリルータに通します。

- 1 天井の格納部からシートベルトリルータを取り出す



- 2 肩部ベルトがねじれないことを確認し、肩部ベルトをシートベルトリルータに通す

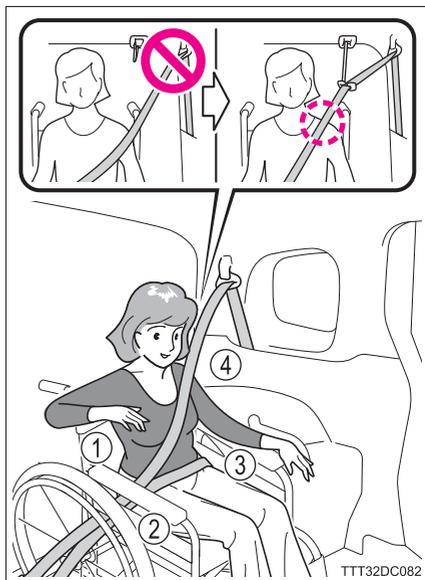


- 3 肩部ベルトをシートベルトリルータに通したまま、肩部ベルトを装着する

■ 正しく着用するには

シートベルトを調整し、ベルトにねじれがないことを確認し、次のとおりに正しく着用する

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 腰部ベルト・肩部ベルトとも、アームレストの下側および車いすとスポークのあいだを通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける
 - ・ 首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
 - ・ 肩部ベルトが肩にかからない場合はシートベルトリルータを使用してください。



1.5 列目位置での着用のしかた (タイプⅡ)

1 腰部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

2 腰部ベルトを車いすの左右の アームレストの下側および車い すのスポークのあいだを通し、 腰部ベルトを装着する

- ・“カチッ”と音がするまでプレート
をバックルに挿し込みます。
- ・バックルは車いすに近い側のもの
を使用してください。
- ・サイドガードの下にスペースがある
車いすをご使用の場合、サイド
ガードの下を通してください。



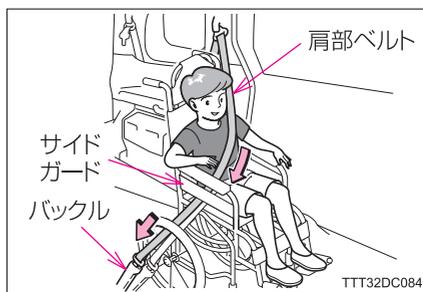
TTT32DC083

3 肩部ベルトを持って引き出す

ベルトにねじれがないことを確認しながら引き出します。

4 肩部ベルトを車いす右側のア ームレストの下側および車いすの スポークのあいだを通し、肩部 ベルトを装着する

- ・“カチッ”と音がするまでプレート
をバックルに挿し込みます。
- ・バックルは車いすから遠い側のもの
を使用してください。
- ・サイドガードの下にスペースがある
車いすをご使用の場合、サイド
ガードの下を通してください。

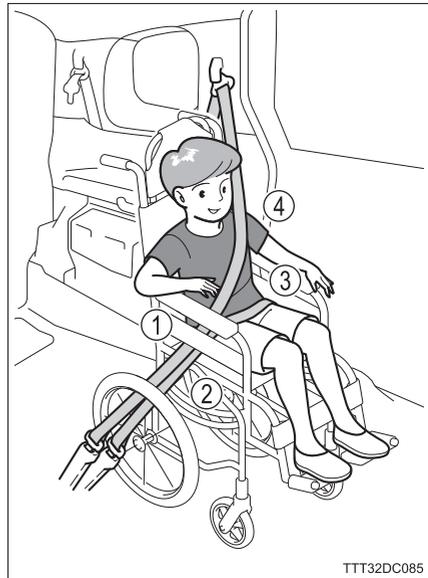


TTT32DC084

■ 正しく着用するには

シートベルトを調整し、ベルトにねじれがないことを確認し、次のとおりに正しく着用する

- ① 上体を起こし、深く腰かけて座る
- ② 腰部ベルト・肩部ベルトとも、アームレストの下側および車いすとスポークのあいだを通す
- ③ 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- ④ 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

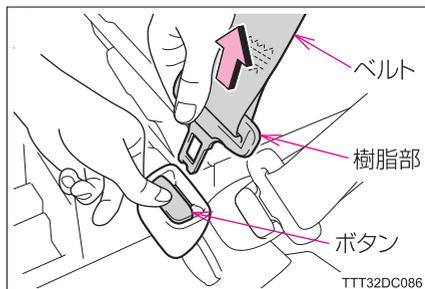


TTT32DC085

2 列目位置のシートベルトのはずし方

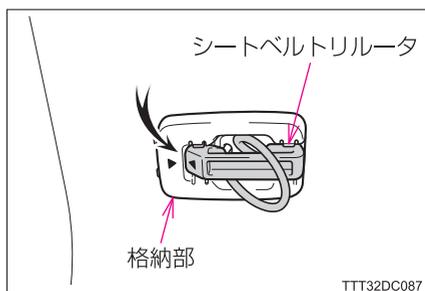
- 1 バックルのボタンを押してプレート
をはずす

- ① プレートの樹脂部を手で持つ
- ② バックルのボタンを押す
- ③ プレートの樹脂部を手で持ったまま、ベルトを巻き取らせる



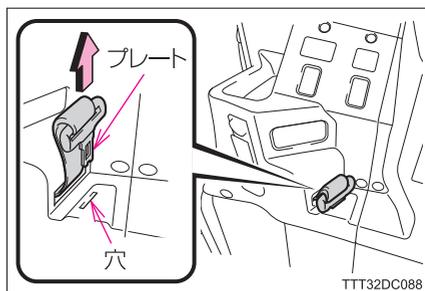
- 2 シートベルトリルータを使用したときは、天井の格納部にもどす

シートベルトリルータと格納部の▲マークが向き合うようにはめ込みます。



- 3 腰部ベルトのプレートを穴に挿し込み収納する

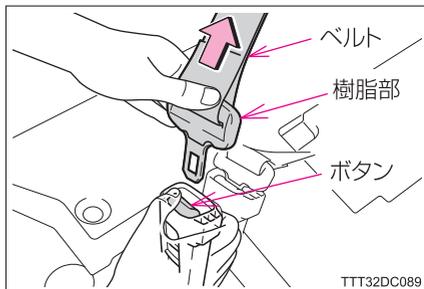
ベルトにねじれがなく、確実に挿し込まれたことを確認してください。



1.5 列目位置のシートベルトのはずし方（タイプII）

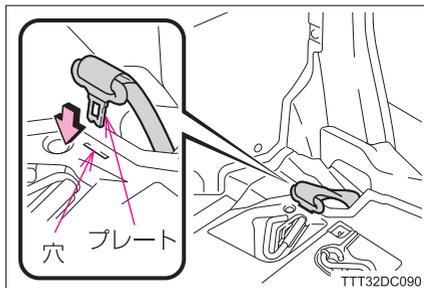
- 1 バックルのボタンを押してプレートをはずす

- ① プレートの樹脂部を手で持つ
- ② バックルのボタンを押す
- ③ プレートの樹脂部を手で持ったまま、ベルトを巻き取らせる



- 2 腰部ベルトのプレートを穴に挿し込み収納する

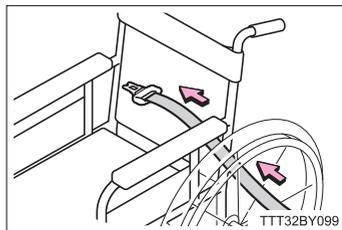
ベルトにねじれがなく、確実に挿し込まれたことを確認してください。



 知識

- 急停止や衝撃があったときシートベルトがロックしたまま引き出せないときは一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。
- 車いすのサイドガード後部にスペースがある車いすをご使用の場合

右図のように腰部ベルトを通すと、腰骨のより低い位置に腰部ベルトがかけられます。



 **警告****■ シートベルトを着用するときは**

- シートベルトの着用は必ず介助の方が行い、正しく着用されていることを確認してください。
シートベルトは正しく着用しないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 3点式シートベルトは必ず肩部ベルトと腰部ベルトの両方を着用してください。
2列目位置で肩部ベルトが肩にかからないときは、シートベルトリルータを使用してください。(→ P.184)
- シートベルトを着用するときは、必ず車いすが固定されていることを確認してください。
車いすの固定が悪いと車いすが動き出し、車いす乗車の方のシートベルトが正しく着用できなくなり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトは必ずアームレストの下側およびスポークのあいだを通してください。
シートベルトがアームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトをはずすときは

- プレートをバックルからはずすときは、必ずプレートの樹脂部を手で持ってからバックルのボタンを押してください。
 - ・ プレートの樹脂部を持ってはずさないで、プレートが勢いよくもどり、顔などにあたり、けがをするおそれがあります。
 - ・ 2列目位置の肩部ベルトのプレートをバックルからはずすときは、車いす乗車の方の頭や顔にあたるおそれがあるため、特に注意してください。
- 2列目位置でシートベルトリルータを使用しないときは、必ず天井の格納部に格納してください。
シートベルトリルータを出したままだと、車内外に乗降時、シートベルトリルータが顔や頭などにあたり、けがをするおそれがあります。

走行する前に（2列目位置）

車いす用シートベルト着用後、車両を次の状態にします。

1 スロープを格納する（→ P.88, 105）

2 バックドアを閉める

▶ **タイプⅠ／タイプⅡ**

バックドアがスロープにあたらないことを確認しながらゆっくりと閉めます。

▶ **タイプⅢ**

バックドアが車いすにあたらないことを確認しながらゆっくりと閉めます。

警告

■ **車いすを車内に乗り入れたときは**

● **タイプⅠ** “助手席側セカンドシート無” / **タイプⅡ** / **タイプⅢ** “ショートスロープ・助手席側セカンドシート無” で2列目位置に車いすを乗り入れたときは、助手席シートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。

助手席シートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをすることがあります。車いす乗り入れ後、助手席シートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

● **2列目位置に車いすを乗り入れたときは**、運転席側セカンドシートの後方スライドや背もたれをうしろ側に倒す操作を急激に行わないでください。運転席側セカンドシートの操作を急激に行うと、車いす乗車の方にあたり、けがをすることがあります。車いす乗り入れ後、運転席側セカンドシートの調整をするときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

注意

■ **破損を防ぐために**

バックドアを閉めるときは、スロープが確実に格納されていることを確認してください。

バックドアおよびスロープが破損するおそれがあります。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

スロープの清掃 194

ベルトの清掃 196

車いす固定装置の清掃 197

4-2. 簡単な点検・部品交換

ガレージジャッキ 198

スロープの清掃

- スロープが汚れているとき
- スロープの引き出しレール部に泥や小石、砂などの異物がつまると、スロープの引き出し・格納操作ができなくなります（タイプⅠ／タイプⅡ）

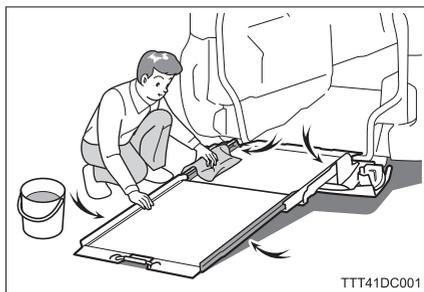
次の方法でスロープを清掃してください。

清掃のしかた

- 1 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にし、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止する
- 2 バックドアを全開にする
- 3 スロープを展開する（→ P.87）
- 4 スロープを清掃する

▶ 引き出しレール部（タイプⅠ／タイプⅡ）

- ① 泥や小石、砂などの異物があったらブラシなどを使用して取り除く
- ② 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る



▶ スロープ全体（タイプⅠ／タイプⅡ）

水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などを清掃するときは、片方の手でスロープ先端の取っ手を持ってスロープを持ち上げ、もう片方の手で清掃します。



▶ スロープ全体（タイプⅢ）

水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る



TTT41DC003

警告

■ スロープを清掃するときは

- 必ずエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。
誤って車高調整スイッチが押された場合、不意に車高が変化し、手足を挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- スロープの可動部や端部、突起部などを清掃するときは、手や指を挟まないよう、十分注意してください。（タイプⅠ／タイプⅡ）
- スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などを清掃するときは、必ず片方の手でスロープ先端の取っ手を持ってスロープを持ち上げてください。（タイプⅠ／タイプⅡ）
スロープ先端の取っ手以外の部分を持つと、手を挟まれけがををするおそれがあります。

ベルトの清掃

セーフティベルト★または電動ウインチ★のベルト、フロント固定ベルト（タイプⅡ）および車いす用シートベルトが汚れたときは、次の方法でベルトを清掃してください。

清掃のしかた

中性洗剤かぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

乾くまで使用しないでください。

警告

■ ベルトを清掃するときは

- ベルトの清掃にベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用しないでください。
有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤を使用すると、ベルトの性能が低下し、十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでベルトを使用しないでください。
- ベルトを清掃するときは、フックまたはプレートをしっかり持ち、ベルトの状態を確認しながら行ってください。
ベルトが不意に巻き取られ、けがをすることがあります。

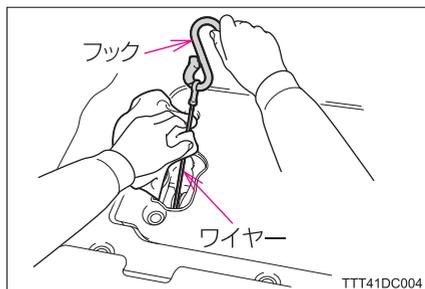
車いす固定装置の清掃

車いす固定装置のワイヤーが汚れると、ワイヤーのもどりが悪くなることがあります。次の方法でワイヤーを清掃してください。

清掃のしかた

フックを持ってワイヤーを引き出し、清掃します。

- ① ワイヤーに砂やほこりなどの汚れが付着していたら、ワイヤーの状態を確認しながら、ゆっくりとやわらかい布などで汚れをふき取る
- ② 潤滑剤を含ませた布で再度ワイヤーをふく



タイプⅡにお乗りの方は、2列目位置および1.5列目位置とも、同様の方法で行います。

⚠ 警告

■ 車いす固定装置を清掃するときは

車いす固定装置に水をかけないでください。

電気部品に水がかかって故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあります。

万一、電気部品に水がかかってしまった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ ワイヤーを清掃するときは

● フックをしっかり持ち、ワイヤーの状態を確認しながら行ってください。

フックから急に手を離すとワイヤーが不意に巻き取られ、けがをするおそれがあります。

● ワイヤーに直接ふれないでください。

ワイヤーに傷やほつれがあった場合、けがをするおそれがあります。

ワイヤーがほつれている場合は、ワイヤーの交換が必要です。車いす固定装置をそのまま使用せず、トヨタ販売店にご相談ください。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

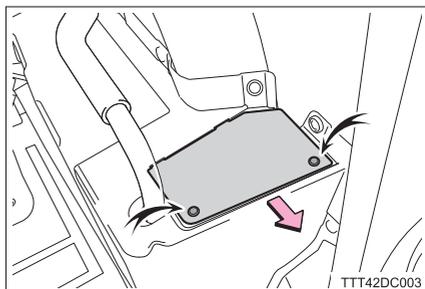
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側のセット位置およびお守りいただきたいことは標準車と同様ですので、標準車取扱書の「ガレージジャッキ」を併せて参照してください。

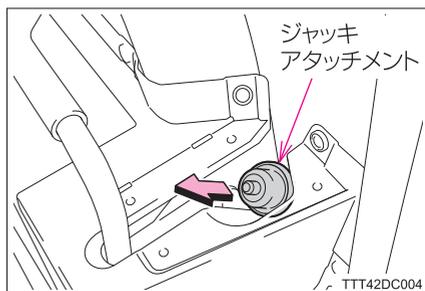
ジャッキアタッチメントの取り出し

リヤ側にガレージジャッキをセットするときは、ジャッキアタッチメントを取り出し・使用します。

- 1 安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバー／シフトポジションをPの位置にし、エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止する
- 2 車両左側デッキサイド前方上面のクリップ2個をはずし、カバーを矢印方向に取りはずす



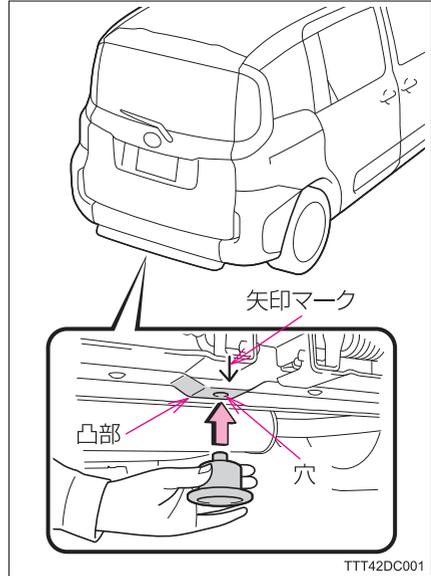
- 3 ジャッキアタッチメントを取り出す



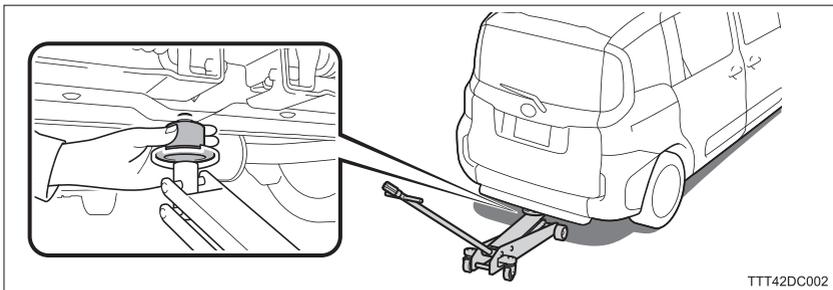
ジャッキアタッチメントのセット位置

車両うしろ側下部（矢印マーク）の凸部の穴に、ジャッキアタッチメント先端の突起を挿し込む

ジャッキアタッチメントは固定されませんので、使用するときはジャッキアタッチメントの側面を持ちます。（絶対に底面を持たないでください）



リヤ側のガレージジャッキのセット方法



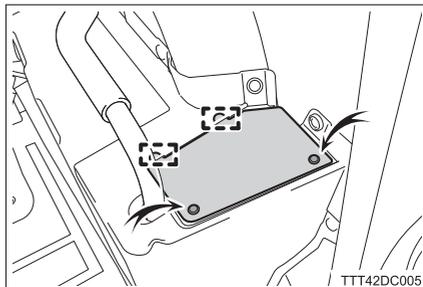
- 1 ジャッキアタッチメントの側面を持った状態で、ガレージジャッキをジャッキアタッチメント底面にあてる
- 2 ジャッキアタッチメントが動かなくなったら、ジャッキアタッチメントから手を離し、車両から離れる

使用後は

- 1 ジャッキアタッチメントが車両うしろ側下部の穴からはずれたことを確認する
- 2 ジャッキアタッチメントを元の場所に収納する
- 3 カバーを元にもどす

カバーのツメ（2ヶ所）をトリム部に挿し込み、クリップ2個で取り付けます。

 : ツメ挿し込み部



TTT42DC005

警告

■ ジャッキアタッチメントを使用するときは

- ジャッキアタッチメントは必ず正しい位置に取り付けてください。
誤った位置に取り付けた状態でジャッキアップすると、車両が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、車両に無理な力がかかり、車両の破損・損傷の原因にもなります。
- ガレージジャッキをセットするときは、必ずジャッキアタッチメントの側面を持ってください。
ジャッキアタッチメントの底面を持つと、ガレージジャッキセット時に指などを挟み、骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ガレージジャッキをセット後、ジャッキアタッチメントが動かなくなったら車両から離れてください。
車両の下に入ったまま車両を持ち上げると、万一ガレージジャッキがはずれたときに車両の下敷きになるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 車両を持ち上げるときは

必ずエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。
エンジンがかかった状態〈ハイブリッドシステム作動状態〉だと、オートレベルリング機能*により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

万が一の場合には

5

- 5-1. 故障かな？と
お考えになる前に
- ヒューズの交換 202
 - 車高降下装置が
作動しないときは 204
 - ワイヤレスリモコンの
電池交換
(電動ウインチ装着車) 205
 - 補機バッテリーが
あがったときは
(ハイブリッド車) 208
- 5-2. 緊急時の対処法
- セーフティベルトが
引き出せない・後退防止
作動しないときは
(セーフティベルト装着車)
..... 209
 - 電動ウインチが作動
しないときは
(電動ウインチ装着車) 211
 - 車いす固定装置が
作動しないときは 214
 - けん引されるときは 215

ヒューズの交換

ヒューズを点検する前に、各装置ごとの作動条件（→P.59）をすべて満たしていることを確認してください。

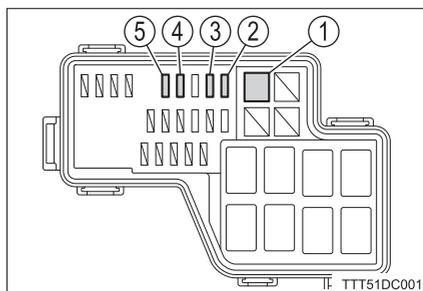
作動条件を確認したにもかかわらず、装置が正常に作動しないときは、ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ位置

■ エンジンルーム左側ヒューズボックス

エンジンルーム左側ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」をお読みください。



	ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
①	AIR SUS	50A	車高降下装置
②	WELCAB NO.1	25A	車いす固定装置
③	WELCAB NO.2	25A	車いす固定装置
④	WELCAB NO.3	7.5A	車いす固定装置
⑤	SLOPE NO.1	20A	車いす固定装置

 知識

■ 車高降下装置について

- 車高降下・復帰操作をくり返し（目安として4分間に3回以上）行くと、エアサスペンションのコンプレッサの過熱防止（保護）のため、しばらく作動しなくなることがありますが、ヒューズ切れではありません。
- メーター内の車高調整インジケータおよび左リヤデッキサイド部の車高降下装置異常ランプが黄色点灯した場合は、車高降下装置のシステムに何らかの異常が発生していますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

■ ヒューズを交換したあとは

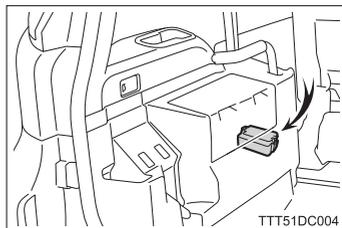
次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置が働かないとき

■ ラゲージルーム（助手席側）ヒューズボックス搭載位置（ハイブリッド車）

次の場所にラゲージルーム（助手席側）ヒューズボックスがあります。

ヒューズの点検・交換の際は、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告

■ 車の故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

車高降下装置が作動しないときは

インジケーターが黄色点灯している場合は、すみやかにトヨタ販売店に連絡し、指示に従ってください。
黄色点灯していない場合は次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(→ P.59)

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(→ P.202)

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対にスロープに車いすを乗せないでください。

■ 走行可能な車高の場合

そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 走行できない車高の場合

次の方法で車高復帰（上昇）させ、そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 1 パーキングブレーキを確実にかける
- 2 エンジンをかけた状態〈ハイブリッドシステムを作動状態〉
- 3 ブレーキペダルを踏んでシフトレバー／シフトポジションを P 以外の位置に動かし、周囲の安全を確認後、ブレーキペダルから足を離す
 - ・ 車高復帰忘れ防止機能により、車高が復帰（上昇）します。(→ P.92, 107)
 - ・ ブレーキペダルを踏んだままだと車高復帰しません。シフトレバー／シフトポジションを動かしたあと、必ずブレーキペダルから足を離してください。
 - ・ 車高復帰が完了すると、メーター内の車高調整インジケーターが消灯します。(→ P.92, 107)
 - ・ 車高が変化しなかった場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ワイヤレスリモコンの電池交換(電動ウインチ装着車)

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

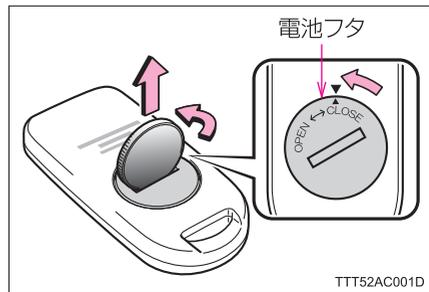
用意するもの

- コインなど、電池フタの溝に挿し込めるもの
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

1 電池フタをはずす

コインなどを電池フタの溝に挿し込み、▲マークが合う位置まで OPEN 側にまわし、電池フタをはずします。



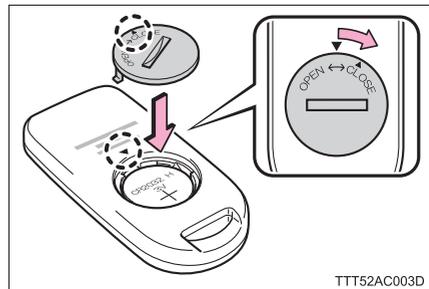
2 電池を交換する

電池を取り出し、新しい電池の+側を上(電池フタ側)にして挿入します。



3 電池フタをはめる

- ・ 電池フタと送信機の▲マークを合わせてはめます。
- ・ コインなどを電池フタの溝に挿し込み、CLOSE 側にまわし、電池フタを締め込みます。



4 作動確認をする

電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に上スイッチまたは下スイッチを押して、動作表示 LED が緑色点滅することを確認します。

知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などで購入できます。

警告

■ ワイヤレスリモコンの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスリモコンにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入ってしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

次のことをお守りください。

- 電池交換時に部品を紛失しない
- 電池フタを曲げたりしない
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしない
- 電池の+極と-極は必ず正しい向きにして挿入する
- 電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などを付着させない

補機バッテリーがあがったときは(ハイブリッド車)

ハイブリッド車の補機バッテリーは、車内左側後部に搭載されます。

補機バッテリーがあがったとき、および取り扱いについては、標準車取扱書を参照してください。

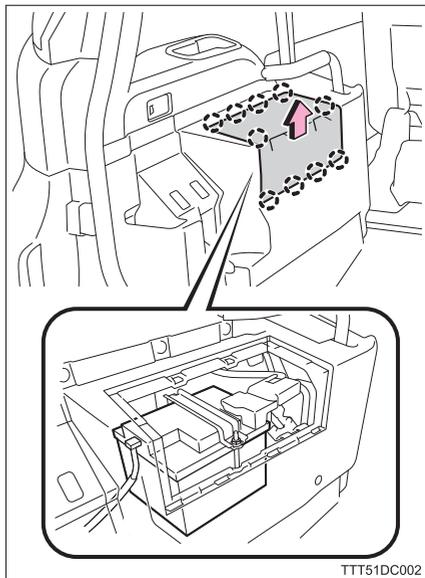
補機バッテリー搭載位置

左リヤデッキサイド部にあります

バッテリーカバーのかん合（10ヶ所）
をはずし、カバーを上方向にまっすぐ
引き上げて取りはずします。

○：かん合箇所

元にもどすときは、バッテリーカバー
をかん合（10ヶ所）させて取り付け
ます。



警告

■ 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

セーフティベルトが引き出せない・後退防止作動しないときは（セーフティベルト装着車）

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。（→ P.59）

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても後退防止作動をしない場合は、ヒューズを点検・交換してください。（→ P.202）

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしてもセーフティベルトが引き出せない・後退防止作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■ 車いすを車外に降ろすことができなくなったときは

万一、セーフティベルトが引き出せず、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方を降ろしてください。

▶ 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときは

- 1 車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にする
- 2 車いす乗車の方を降ろす

▶ 車いすと車いす乗車の方を車外に降ろすときは

- 1 バックドアを開け、スロープを展開する（車高降下装置が作動する場合は車高を降下させる）
- 2 ベルトをはさみで切断する（左右とも）
- 3 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしっかりと持ち
- 4 車いすを少し後方へ下げ、再度ブレーキを掛ける
- 5 固定装置のフックを取りはずす
- 6 車いすのブレーキを解除し、車外へ降ろす

■ セーフティベルトが巻き取れないときは

セーフティベルトに雪や雨などが付着したり、寒冷時においてセーフティベルトが凍結した場合、セーフティベルトの巻き取りができなくなることがあります。

セーフティベルトの巻き取りができないときは、セーフティベルトに付着した雨や雪などをふき取ってから、セーフティベルトを巻き取ります。

電動ウインチが作動しないときは(電動ウインチ装着車)

固定・解除スイッチのインジケーターが通常より早い(高速)点滅している場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。早い(高速)点滅をしていない場合は次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(→ P.59)

ワイヤレスリモコンの確認

電池が消耗すると、次の症状が現れます。(電池寿命は約1年間です)

- 著しく作動可能距離が短くなる
- 動作表示LEDが点灯しなくなる
- 動作表示LEDが点滅しなくなる

いずれかにあてはまる場合は電池を交換してください。(→ P.205)

■ ワイヤレスリモコンの紛失・電池切れしたとき

固定・解除スイッチの「解除」を押すとベルトフリーモードになり、手動でベルトが引き出せます。(→ P.116, 149)

車いすにベルトをかけて、一定時間(約4分以上)待機、または、ベルトを巻き戻すと固定・解除スイッチインジケーターが消灯し、巻き取りモード(後退防止状態)になります。車いすを車内に乗り入れ固定・解除スイッチの「固定」を押すことで、車いすを固定できます。

■ 車いすが車内に乗り入れた状態でワイヤレスリモコンの紛失・電池切れしたときは

次の方法で車いすを車外に降ろします。

- 1 固定・解除スイッチの「解除」を押し、ベルトフリーモードにする
- 2 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしっかり持つ
- 3 車いすを一度、少し前に押してから車いすを引き、車いすを車外に降ろす

このとき、後退防止作動が解除されていますので、ご注意ください。

- 4 車いすのブレーキを両輪ともかける

- 5 ベルトのフックを手を持って、フックを片方ずつ、車いすの前部フレームから取りはずす
- 6 ベルトがねじれないように最後まで手を添えて巻き取る

ヒューズの点検・交換

作動条件およびワイヤレスリモコンの電池を確認しても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(→ P.202)

作動条件・ワイヤレスリモコンの電池確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■ 車いすを車外に降ろすことができなくなったときは

万一、電動ウインチが手動でも作動しなくなり、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方を降ろしてください。

▶ 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときは

- 1 車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にする
- 2 車いす乗車の方を降ろす

▶ 車いすと車いす乗車の方を車外に降ろすときは

- 1 バックドアを開け、スロープを展開する（車高降下装置が作動する場合は車高を降下させる）
- 2 ベルトをはさみで切断する（左右とも）
- 3 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしっかり持つ
- 4 車いすを少し後方へ下げ、再度ブレーキを掛ける
- 5 固定装置のフックを取りはずす
- 6 車いすのブレーキを解除し、車外へ降ろす

■ 手動でベルトが巻き取れないときは

電動ウインチのベルトに雪や雨などが付着したり、寒冷時においてベルトが凍結した場合、手動でベルトの巻き取りができなくなることがあります。手動でベルトの巻き取りができないときは、ベルトに付着した雨や雪などをふき取ってから、ベルトを巻き取ります。

 **警告****■ 車いすを車内に乗り入れた状態で、電動ウインチをベルトフリーモードにするときは**

車いすが急に下がらないよう十分注意してください。

ベルトフリーモードにするときは、車いすのブレーキが両輪ともかかっていることを確認し、車いすのブレーキを両輪とも解除後、車いすが急に下がらないよう、介助の方がしっかりと車いすを支えてください。

車いす固定装置が作動しないときは

次の処置をしてください。

作動条件の確認

作動条件をすべて満たしていることを確認してください。(→ P.59)

ヒューズの点検・交換

作動条件をすべて満たしていても作動しない場合は、ヒューズを点検・交換してください。(→ P.202)

作動条件の確認およびヒューズの点検・交換をしても作動しない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

■ 車いすを車外に降ろすことができなくなったときは

万一、車いす固定装置が作動しなくなり、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方を降ろしてください。

▶ 車いす乗車の方のみ車外に降ろすときは

- 1 車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にする
- 2 車いす乗車の方を降ろす

▶ 車いすと車いす乗車の方を車外に降ろすときは

- 1 バックドアを開け、スロープを展開する（車高降下装置が作動する場合は車高を降下させる）
- 2 ベルトをはさみで切断する（左右とも）
- 3 車いすのブレーキを両輪とも解除後、すぐに車いすのハンドルをしっかり持つ
- 4 車いすを少し後方へ下げ、再度ブレーキを掛ける
- 5 固定装置のフックを取りはずす
- 6 車いすのブレーキを解除し、車外へ降ろす

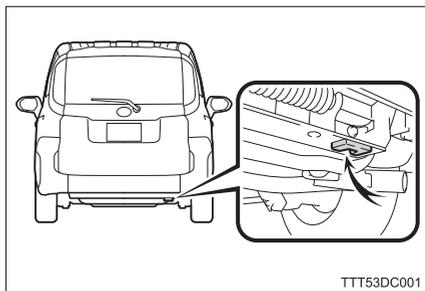
けん引されるときは

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

ここでは標準車との相違点のみ記載しています。ここに記載してあること以外は標準車と同様ですので、標準車取扱書の「けん引について」を併せて参照してください。

緊急用フック

緊急用フックを取り付けるときは、バンパー右下側の穴を使用します。



⚠ 警告

■ レッカー車などで車を持ち上げてけん引するときは

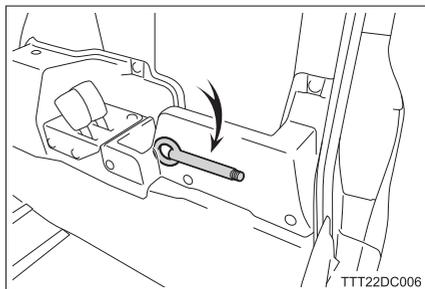
エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止してください。
エンジンがかかった状態〈ハイブリッドシステム作動状態〉だと、オートレベリング機能※により車高が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※：乗員の数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるよう、自動で車高を制御する機能

⚠ 注意

■ 損傷を防ぐために

指定の位置以外を使用したり、リヤバンパーおよびスローブにロープなどをかけないでください。
あやまって指定の位置以外を使用すると装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

けん引フック搭載位置

点検・整備項目**6****6-1. 点検・整備項目**

定期点検整備 218

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、巻末の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

点検整備項目	点検時期			交換時期 (年)	備考
	日	自家用車			
		12か 月ごと	24か 月ごと		
スロープ (タイプⅠ/ タイプⅡ)	各部取り付け部				
	ゆるみ、損傷		○		取り付け部のゆるみ、スロープ本体の損傷、取っ手(スロープ先端・右側)・リヤバンパー部ロックの締め付け状態
	各部のガタ		○		格納(起立)時ロック・前倒れ・展開状態のガタ
	各部の機能				
作動状態	○				ロック解除レバー・操作レバーのもどり不良、スロープ引き出し・格納・前倒れ・展開操作の異音・荷重、バックドアの閉まり具合

※：空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期		交換時期 (年)	備考	
	日	自家用車			
		12 か月ごと			24 か月ごと
スロープ (タイプⅢ)	各部取り付け部				
	ゆるみ、損傷		○		取り付け部のゆるみ、スロープ本体の損傷、リヤバンパー部ロックの締め付け状態
	各部のガタ		○		展開状態のガタ
	各部の機能				
	作動状態	○			展開操作の異音・荷重、バックドアの閉まり具合、オイルもれ・ダンピング力の低下、クローズユニットの異音・荷重
リヤエアサスペンション	エアサスペンション				
	取り付け部のゆるみ		○		締め付けトルクが基準値内にあること
	損傷		○		エアサスペンションに亀裂・傷など損傷がないこと
	コンプレッサ				
	ゆるみ、ガタ		○		締め付けトルクが基準値内にあること
	作動中の異音		○		異音がないこと
配管・ジョイント部					
	損傷		○		損傷・エアもれがないか点検する

※：空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期		交換 時期 (年)	備考	
	日 常 点 検	自家用車			
		12 か 月 ごと			24 か 月 ごと
セーフティベルト	ベルトの損傷				
	ほつれ、すり切れ、折れ癖	○			損傷があれば交換
	機能				
電動ウインチ	ベルトの損傷				
	ほつれ、すり切れ、折れ癖	○			損傷があれば交換
	機能				
車いす固定装置	フロント固定ベルト(タイプⅡのみ)・ワイヤーの損傷(タイプⅡは1.5列目用、2列目用とも同時に点検する)				
	ほつれ、すり切れ、折れ癖	○			損傷があれば交換
	機能(タイプⅡは1.5列目用、2列目用とも同時に点検する)				
車いす固定装置	機能(タイプⅡは1.5列目用、2列目用とも同時に点検する)				
	引き出し、巻き取りの状態	○			汚れがある場合は清掃
	ロック状態	○			

※：空欄については点検および交換の必要はありません。

点検整備項目	点検時期		交換 時期 (年)	備考	
	日 常 点 検	自家用車			
		12 か 月 ご と			24 か 月 ご と
車いす用シートベルト	ベルトの損傷				
	ほつれ、すり切れ、折れ癖	○			損傷があれば交換

※：空欄については点検および交換の必要はありません。

リヤエアサスペンションの締め付けトルク基準値

単位：N・m {kgf・cm}

部品	締め付けトルク基準値
コンプレッサブラケット 取り付けボルト（1本）・ナット（2本）	29 {296}

消耗部品

次の部品は使用頻度・経年変化などにより、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

- 交換作業はトヨタ販売店にお申し付けください。

消耗部品
夜間照明灯の電球（12V/5W）

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	224
五十音順さくいん.....	232

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

車いすについて



車いすがスロープおよび車内の正しい位置に乗り入れできない

- 車いす乗車の目安を確認してください。（→ P.23, 54）
- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。（→ P.54 ~ 57）
- スロープの耐荷重 200kg 以内で使用してください。（→ P.27）
- 車いすを車内に乗り入れる前に、シートを調整してください。（2 列目位置→ P.114, 140 / 1.5 列目位置→ P.170）
- 正しい手順で乗り入れているか、確認してください。（2 列目位置→ P.116, 144 / 1.5 列目位置→ P.171）



車いす固定装置・フロント固定ベルト（タイプⅡ）のフックが車いすにかからない

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。（→ P.54 ~ 57）
車いすのフレーム形状によっては、車いす固定装置のフックが正しくかけられないときがあります。
- 車いすを所定の位置まで乗り入れ、車いすのブレーキを両輪ともかけていますか？（2 列目位置→ P.121, 145 / 1.5 列目位置→ P.171）
- 1.5 列目位置乗車時、サポートバーが車いすにあたる場合、フロント固定ベルトのサポートバーを取りはずしましたか？（→ P.170）



車いす用シートベルトが正しく着用できない

- 車いすのアームレスト下側にカバーなどはありませんか？（→ P.54）
- シートベルトの着用手順を確認してください。（2列目位置→ P.183 / 1.5列目位置→ P.186）
- 2列目位置で肩部ベルトが肩にかからない場合、シートベルトリルータを使用してください。（→ P.184）

車高降下装置について



車高降下中、車高が自動復帰した

- 車高降下中にシフトレバーをP以外の位置にしませんでしたか？（→ P.92, 107）



車高調整スイッチを押しても車高が変化しない、または車高降下・復帰完了しない

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.59）
- ブレーキペダルを踏んでいませんか？（→ P.93, 108）
- 短時間にくり返し操作していませんか？（→ P.93, 108）



車高降下速度が遅い、または車高降下が完了しない

- 氷・雪または石などがボデーに接触していませんか？（→ P.93, 108）



車両右側後方から音が聞こえる

- エアサスペンションの作動音です。故障ではありません。（→ P.94, 109）



スイッチを操作しなくても車高がかわった

- オートレベリング機能により車高調整が行われています。（→ P.94, 109）



車高調整インジケータおよび車高降下装置異常ランプが黄色点灯し、車高降下・復帰が停止した

- 車高降下装置のシステムに何らかの異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。（→ P.94, 109）

スロープについて



スロープの引き出し・格納ができない（タイプ I / タイプ II）

- スロープの引き出しレール部に異物がないか確認し、異物があるときは清掃してください。（→ P.194）



スロープの前倒れ・起立ができない（タイプ I / タイプ II）

- スロープを前倒れにするときは左右の操作レバーを操作してください。（→ P.91）
- スロープを起こすときは右の操作レバーだけを操作してください。（→ P.91）

**車いすの車内への乗り入れについて
（セーフティベルト★／電動ウインチ★／車いす固定装置）**



固定・解除スイッチ／車いす固定装置スイッチの「解除」を押してもフックが引き出せない

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.59）



車いす乗車の方の足や車いすが、他の乗員やスロープにあたる

- お使いの車いすが乗車可能な車いすかどうか確認してください。（→ P.54～57）
- 2列目位置乗り入れ時、車いすの種類・運転席側セカンドシートの状態に合ったベルトガイドを使用していますか？（→ P.118, 141）
- 車いすを所定の位置まで乗り込ませましたか？（2列目位置→ P.121, 145 / 1.5列目位置→ P.171）
- 車いすが左右傾いて固定されていませんか？



車いすを車内に乗り入れたあと、車いすが下がってしまう

- 車いすのブレーキは両輪ともかけられていますか？（2列目位置→ P.123, 145, 153 / 1.5列目位置→ P.172）
- 作動条件をすべて満たした状態で固定・解除スイッチの「解除」が押されていませんか？（→ P.125, 155, 157）
- 作動条件をすべて満たした状態で車いす固定装置スイッチの「解除」が押されていませんか？（→ P.175）
- 作動条件をすべて満たした状態で固定・解除スイッチのインジケーターが点滅していませんか？（→ P.129, 130, 161）

**車いす固定装置が作動しない**

- 作動条件をすべて満たしていますか？（→ P.59）

**車いす固定装置スイッチの「固定」を押しても車いすが固定されない・「解除」を押しても車いすの固定が解除されない（1.5 列目位置）**

- 車いす固定装置の作動が完了するまで「固定」・「解除」を押し続けましたか？（→ P.174, 175）

**ベルトが巻き取れない**

- ベルトがねじれていませんか？（→ P.128, 160）
- ベルトが汚れていませんか？（→ P.128, 160）
- ベルトに雪や雨などが付着したり、ベルトが凍結していませんか？（→ P.210, 212）

**ワイヤレスリモコンを操作しても、電動ウインチが作動しない（電動ウインチ装着車）**

- 周囲の電波状態により上スイッチまたは下スイッチを押しても電動ウインチが作動しなくなることがあります。（→ P.130, 162）
- 電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中に上スイッチまたは下スイッチを押しましたか？（→ P.130, 162）
- 上スイッチまたは下スイッチを断続的に押ししていませんか？（→ P.130, 162）
- 電池が消耗していませんか？（→ P.131, 162）

故障かな？と思ったら**装置が作動しない**

- 各装置ごとの作動条件を確認してください。（→ P.59）

**夜間照明灯が点灯しない**

- バックドアは開いていますか？（→ P.45）

トラブルが発生した**車高降下装置が作動しない**

- P.204 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

**ベルトが引き出せない・後退防止作動しない**

- P.209, 211 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

**車いす固定装置が作動しない**

- P.214 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

**電動ウインチが作動しない（電動ウインチ装着車）**

- P.211 のことを確認してください。
作動条件およびヒューズの確認をしても作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

**ワイヤレスリモコンを紛失した・電池が切れた
（電動ウインチ装着車）**

- 電池が切れたときは、P.205 の方法で電池を交換してください。
- ワイヤレスリモコンを使わずに車いすを車内外に乗降・固定することができます。（→ P.211）
ワイヤレスリモコンを紛失したときは、トヨタ販売店にご相談ください。

五十音順さくいん

あ

安全なドライブのために	
車いすの固定およびシート	
ベルトの着用について.....	23
車いすの車内外への	
乗降について.....	14
車両火災・故障・損傷を	
防ぐために.....	27

い

1.5 列目位置への乗降・固定	
固定解除・車外への降車.....	170
車内に乗り入れる前に.....	170
車内への乗り入れ・固定.....	171
操作前確認.....	170
乗り入れ位置.....	171

う

運転席側セカンドシート乗車時	28
---------------------	----

え

エアサスペンション	
.....	93, 97, 108, 111
オートレベリング機能 ...	94, 109

お

お手入れのしかた	
車いす固定装置の清掃.....	197
スロープの清掃.....	194
ベルトの清掃.....	196

き

緊急時の対処法	
けん引されるとき.....	215
セーフティベルトが引き	
出せない・後退防止	
作動しないとき.....	209
電動ウインチが	
作動しないとき.....	211

く

車いす	
車いす乗車の目安.....	23
車いすのタイヤ空気圧.....	24, 53
重量.....	53
乗車可能な車いす.....	54
車いす固定装置	
解除.....	125, 155, 157
固定.....	123, 145, 153
作動しないとき.....	214
作動条件.....	59
清掃.....	197
車いす固定装置スイッチ	
1.5 列目位置.....	174
2 列目位置.....	128, 161
車いす固定目安線.....	23
車いす誘導線.....	23
車いす用シートベルト	
1.5 列目位置での着用.....	186
1.5 列目位置でのはずし方....	189
構成.....	182
シートベルトリルータ.....	184
清掃.....	196
2 列目位置での着用.....	183
2 列目位置でのはずし方.....	188

け

けん引されるとき.....	215
---------------	-----

こ

固定・解除スイッチ

解除	125, 155, 157
固定	123, 147, 153
作動条件	59

故障かな?とお考えになる前に

車いす固定装置が	
作動しないとき	214
車高降下装置が	
作動しないとき	204
電池交換	205
ヒューズの交換	202
補機バッテリーがあがった	
ときは (ハイブリッド車) ...	208

さ

作動条件	59
------------	----

サポートバー

車いすへのかけ方	173
取り付け	170
取りはずし	177

し

シート

専用助手席シート	
(タイプⅡ)	30
専用セカンドシート	36

シートベルト

1.5 列目位置	186
構成	182
シートベルトリルータ	184
清掃	196
2 列目位置	183

室内装備

収納装備一覧	46
ハンドグリップ	44
夜間照明灯	45
室内レイアウト	50 ~ 52
締め付けトルク基準値	222
車高降下装置	
作動しないとき	204
作動条件	59
車高降下	86, 103
車高降下を途中でやめるとき	
.....	87, 104
車高調整インジケーター	
.....	116, 145, 149
車高調整スイッチ	128, 161
車高復帰	88, 105
操作前確認	86, 103
車高降下装置異常ランプ	94, 109
車高調整インジケーター	
.....	116, 145, 149
車高調整スイッチ	128, 161
車高復帰忘れ防止機能	92, 107
ジャッキアタッチメント	
使用後	200
セット位置	199
取り出し	198
収納装備一覧	
停止表示板収納スペース	47
ボトルホルダー	46
乗車可能な車いす	54
乗車できないレイアウト	51, 52
消耗部品	222

す

スロープ (タイプⅠ / タイプⅡ)	
内幅	53
格納	88
操作前の確認事項	86
清掃	194
耐荷重	27
展開	86
前倒れ機能	90
ロック解除レバー	87
スロープ (タイプⅢ)	
内幅	53
格納	105
操作前の確認事項	103
清掃	194
展開	103
スロープを使用する前に	
内幅	53
車いす乗車の目安	54
車いすのタイヤ空気圧	53
ご使用前に確認して	
いただきたいこと	50
室内レイアウト	50 ~ 52
重量	53
乗車可能な車いす	54
路面	53

せ

セーフティベルト	
仮置きバンド	128, 160
車外への降車	125
車内への乗り入れ	116
手動での引き出し	120
乗車・降車方法のポイント	
.....	129, 161
清掃	196
引き出せない・後退防止作動	
しないとき	209
専用助手席シート (タイプⅡ)	
折りたたみ	31
調整	30
ヘッドレスト	30
専用セカンドシート	
ISOFIX ロアアンカレッジ	41
折りたたみ	37
調整	36
トップテザーアンカレッジ	41
ヘッドレスト	36

そ

走行する前に (2 列目位置)	191
操作の流れ	
1.5 列目位置への乗降・固定	
(タイプⅡ)	80
2 列目位置への乗降・固定	
.....	61, 68

て

定期点検整備記録簿.....	巻末
停止表示板収納スペース.....	47
点検・整備項目	
締め付けトルク基準値.....	222
消耗部品.....	222
定期点検整備.....	218

に

2列目位置への乗降・固定	
車いすの上手な乗車・降車	
方法のポイント.....	129, 161
固定解除・車外への降車	
.....	125, 149
車内に乗り入れる前に	
.....	114, 140
車内への乗り入れ・固定	
.....	116, 144
乗り入れ位置.....	121, 145
走行する前に.....	191
操作前確認.....	114, 140

は

ハンドグリップ.....	44
--------------	----

ひ

ヒューズ.....	202
-----------	-----

ふ

フロント固定ベルト	
.....	32, 170, 173, 175

へ

ヘッドランプ光軸切りかえ	
.....	96, 110
ベルトガイド.....	118, 141
ベルトの清掃.....	196

ほ

ボトルホルダー.....	46
--------------	----

ま

万一の場合には	
緊急時の対処法.....	209
故障かな？と	
お考えになる前に.....	202

や

夜間照明灯.....	45
------------	----

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地 〒450 - 8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証(車検証)を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



ウェルキャブ(福祉車両)

<https://toyota.jp/welcab/>



トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>



M 52L89

01999-52L89

IT-2023年 3月27日

2023年 4月 3日 初版

シエンタ

車いす仕様車(スロープタイプ I・II・III)